原注

プロローグ

- p.15 「わたしが技術、技術とうるさいのは確かだ」：Hitler, *Table Talk*, 308. (アドルフ・ヒトラー『ヒトラーのテーブルトーク』三交社)
- p.16 彼らは敵であった：マクスウェル空軍基地ヒストリー・オフィス文書。Memo, Patterson to Secy, German Staff, May 28, 1945, Subj: "German Scientist."
- p.18 JICはJCSにこう警告した：JICの報告書JIC250 (1945年冬)には、ソ連は1952年まではアメリカとの戦争を避けるだろうと書かれている。JCS1696 (1946年夏)では、ソ連との戦争は「総力戦」になることが示されている。軍医総監：RG 319 Walter Schreiber, Schuster File, August 18, 1949; HLSL Item No. 286. ハーバード大学ロースクール図書館には、ニュルンベルク国際軍事法廷 (IMT) と12のニュルンベルク継続裁判 (NMT) に関する約100万ページの文書が所蔵されている。ハーバード大学のニュルンベルク裁判プロジェクトの一環として、現在はこれらの書類の多くがオンラインで閲覧できるようになっている。以降、かかるデジタル文書が存在する場合はHLSL項目番号にて記載する。
- サリン・ガス：サリン、タブン、ソマン、VXはすべて有機リン酸神経剤で、(ほとんどの戦闘状況下において) ガスではなく液体である。一部の化学兵器専門家は「神経ガス」ではなく「神経剤」という用語を用いている。

第一章 戦争と兵器

- p.23 必死の防戦を続けていた：Pash, *The Alsos Mission*, 147-51. 上空では熾烈な空中戦が展開している：Air battles raged overhead: Goudsmit, 68. (サムエル・A・ハウストミット『ナチと原爆——アルソス：科学情報調査団の報告』山崎和夫・小沼通二訳／海鳴社) 護衛しているのは、武装したアメリカ兵だ：Ibid., 73. 重要書類も飾り戸棚に：Pash, *The Alsos Mission*, 154.
- p.25 「帝国研究評議会」：HLSL Item No. 2076; *Deichmann*, 4, 90-93. 帝国研究評議会は、ドイツの個々の科学部門を戦争経済に集中させるため——ヒトラーが立案し、ヘルマン・ゲーリングが(大臣として) 全権を委任された四カ年計画に同調させるため——に1937年に設立された。初代議長は、技師のカール・ベッカーが務めた。1942年6月9日、総統の命令によりヘルマン・ゲーリングが議長に就任し、あらゆる研究を戦争に集中させた。ナチ党：Goudsmit, 73. (サムエル・A・ハウストミット『ナチと原爆——アル

- ソス：科学情報調査団の報告』山崎和夫・小沼通二訳／海鳴社）
 ハーゲンのアパルトマンに留まり：RG 165 “Code Name: Alsos Mission, Scientific Intelligence Mission, M.I.S., G-2, W.D.,” photographic history compiled by Colonel Boris T. Pash, 10.
 K号携帯食の小さな包みを食堂のテーブルの上に開けた：Ibid., 11.
- p.26 世間話：Goudsmit, 69. (サムエル・A・ハウストミット『ナチと原爆——アルソス：科学情報調査団の報告』)
 ヒトラー、万歳。E・ハーゲン博士：Goudsmit, 74-75 (同上)；Pash, *The Alsos Mission*, 150.
 書類の：Goudsmit, 74. (同上)
 不安はいや増した：Goudsmit, 79 (同上)；Pash, *The Alsos Mission*, 149-52.
- p.27 第三帝国にとって彼らが“剣”と“盾”だった：HLSL Item No. 1614; HLSL Item No. 1615.
- p.29 ある祝宴の準備が進められていた：Neufeld, *Von Braun*, 187-88. 2013年4月3日にマイケル・ノイフェルドと議論がされたように、この祝宴がおこなわれた場所(シュロスバーグ?)についてはさまざまな説がある。
 磁器の食器にも、ひとつひとつに：ミュンヘンのドイツ博物館所蔵のドルンベルガー・ファイルの写真。
- p.30 クリスチャン・サイエンス・モニター誌は：1945年4月28日。http://www.nasm.si.edu/events/spaceage/vengeance.htm.
 「ドイツだけが持つ未知の兵器」：Evans, 674. Adolf Hitler, *Reden und Proklamationen, 1932-1945* (Speech and Proclamations, 1932-1945) からの引用。
 ロケット開発計画：ドイツ軍はV-2をA-4と呼んでいた；Neufeld, *The Rocket and the Reich*, 1.
- p.31 鬱蒼とした森に囲まれた城の周りで：Neufeld, *Von Braun*, 188.
- p.32 天才物理学者：フォン・ブラウンはできの悪い生徒だった。彼の物理学の才能が開花するのは、1929年にヘルマン・オーベルトの著作*Die Rakete zu den Planetenräumen* (ロケットで惑星間空間へ)を読んでからのことである。
 騎士十字章：Neufeld, *Von Braun*, 187. ノイフェルドによると、これは「非戦闘員に授与されるきわめて高位の勲章で、武功を讃えて授与される十字章に匹敵するもの」であり、フォン・ブラウンが戦争末期のナチのヒエラルキーで高い位置にいたことを示しているという。
 ほかの二人の主演は：ミュンヘンのドイツ博物館所蔵のドルンベルガー・ファイルの写真。
- p.33 兵器における総生産：Evans, 327.
 アルベルト・シュペーアは：Ibid., 324.
- 科学計画と技術計画をすべて：Cornwell, 313.
 空想的と思われる：Speer, *Reich*, 366. (アルベルト・シュペーア『第三帝国の神殿にて——ナチス軍需省の証言』品田豊治訳／中公文庫)
 あの晩の興奮：ミュンヘンのドイツ博物館所蔵のドルンベルガー・ファイル；Neufeld, *Von Braun*, 188.
- p.35 ほっそりとしたフルート型のシャンパン・グラス：ミュンヘンのドイツ博物館所蔵のドルンベルガー・ファイルの写真。
 もっとも多い命：www.V2Rocket.comを参照。このウェブサイトの“The Rex Cinema”の項目にはシャルル・オステインの目撃談が記載されている。
- p.36 不可能になっていたかもしれない：McGovern, 62.
 大佐は：NASA History Office, 194.
 イギリスは：McGovern, 101.
- p.37 ミドルワークス：セントラルワークスと呼ばれることもあった。
 ロケット製造工場を地下に移す：ヒムラーは、アルベルト・シュペーアを追放してV兵器計画全体の主導権を握ろうとしていたが、ヒトラーがシュペーアを兵器の生産において奇跡を起こす男と見なしていたため、この目論見は実現不可能であることがわかった (Evans, 320-25)。
 ハンス・カムラー：Neufeld, *The Rocket and the Reich*, 201.
- p.38 “Jedem das Seine”：ラテン語の表現“Suum cuique”、「各人に各人の所有すべきものを」または「各人それぞれにふさわしいものを」に由来する。“Iustitia suum cuique distribuit” (正義は万人それぞれにふさわしく与えられる)と書いたキケロに起源を発するとも考えられる。ナチス・ドイツでは、これらのスローガンがプロパガンダとして多くの強制収容所の門の上に掲げられていた。プーヘンヴァルトはJedem das Seine、アウシュヴィッツはArbeit macht frei (働けば自由になる)であった。
 高卒の：RG 330 Arthur Rudolph, JIOA Form No. 2., Basic Personnel Record. ルドルフの人事記録に記載されている高等教育歴は、彼が職業学校で履修した「工具製作と機械建造」であった。
 ミッテルヴェルクの業務主任として、SSの建設スタッフとともに：Neufeld, *The Rocket and the Reich*, 206.
 地下工場の囚人は：Aalmans, 10. 本書では、特に断りのない限り、ドーラ＝ノルトハウゼンに関する事実の一次資料としてアルマンズが米国戦争犯罪委員会のために書いた研究論文を使用している。二次資料の統計値は大きく異なる。
 ある報告書には：Aalmans, 10.
- p.39 苦しみながら、囚人は次々と死んでいった：Ibid., 11.
 誰かが死んでも、すぐに代わりの者が送られてきた：ミッテルバウ＝ドーラ強制収容所記念館は、公式HPで多くの詳細を掲載している。http://www.buchenwald.de/en/338/.

- p.40 約半分は：これはアールマンズによる数字である。記念館は、死亡率を三人に二人としている。
ありふれた部署に見える：Allen, 2.ドイツ語の名称は、Wirtschaftsverwaltungshauptamt。
ハインリッヒ・ヒムラーの監督下にあったが：ヒムラーは、アドルフ・ヒトラーから直接この権限を授与された。SSは強制収容所制度、大量絶滅、奴隷労働ネットワークを含む戦争のもっとも残虐な側面を実行する超法規的組織として機能していた。
提携が不可欠だった：Allen, 173.
彼の設計した建物：Evans, 327.
- p.41 工事は可能な限り早く進め：アールマンズの戦争犯罪論文のタイトル・ページ。
工事がはじまって最初の半年で：Evans, 665.
アメリカ人の基準：Neufeld, *The Rocket and the Reich*, 212.
ヒムラーは総統にこう告げた：Evans, 663-65.
三〇のサブキャンプ：ミッテルバウ＝ドーラ強制収容所記念館のウェブサイト
で以下のように説明されている。「ドーラとその他の付属収容所はもともと
プーヘンヴァルト複合施設に属していたが、独立したミッテルバウ＝ドーラ
強制収容所を形成するために併合された。ミッテルバウ＝ドーラ強制収容
所では、ドーラ強制収容所が基幹収容所として機能していた。ミッテルバウ
が独立した強制収容所になると、新しい兵器製造プロジェクトが南ハルツ
山地に移転されて、さらなる付属収容所が作られた」
ミッテルヴェルク工場長：RG 330 Georg Rickhey, JIOA Form No. 2,
Basic Personnel Record. この地位に就くことで、リッケーは54,000ライヒ
スマルクの年収を得ていた。この時期のドイツ人労働者の平均年収は
3,100ライヒスマルクだった。
- p.42 SSから奴隷を「借りる」ことも仕事のひとつだった：Bundesarchiv
Ludwigsburg, George Rickhey B-162/964; RG 330 Georg Rickhey
“Statement of Work History” and “Condensed statements of my
education and my activities” (March 4, 1948).
- p.43 一日四マルク：Neufeld, *The Rocket and the Reich*, 186. ノイフェルトに
よると、親衛隊業務管理本部は、奴隷とともに警備員、食料、衣料を「飢餓、
病気、過重労働によって膨大な数の死者が出るように」提供したという。
一人あたり一日二ライヒスマルクから三ライヒスマルク：Aalmans, 12.
出席し：Neufeld, *The Rocket and the Reich*, 228.
最後にミッテルヴェルクを訪れたとき：Ibid., 229.
- p.45 うなりをあげ、そして炸裂する爆弾：Speer, *Reich*, 418. (アルベルト・シュ
ペーア『第三帝国の神殿にて——ナチス軍需省の証言』品田豊治訳／中公文庫)
気密室：2012年8月1日、著者はクランスペルク城を見学し、城の管理人

- イェンス・ヘルマンに取材をした。
- p.46 小さな掩蔽壕が続いている：ミュンヘンのバイエルン州立記録保管所の写真。
2012年9月27日にハンス＝クラウディウス・シャルフに取材。
指揮をとっていた：ミュンヘンのバイエルン州立記録保管所のアードラーホ
ルスト／鷲の高巣でのヒトラーの写真。
シュペーアは振り返った：Speer, *Reich*, 419-21. (アルベルト・シュペーア『第
三帝国の神殿にて——ナチス軍需省の証言』品田豊治訳／中公文庫)
- p.48 ベルリンの偉大な総統地下壕：RG 330 Georg Rickhey, “Statement of
Work History”; Bundesarchiv Ludwigsburg, Georg Rickhey
B-162/964.
ヒトラーがベルリンへ戻った：1月15日、ヒトラーは自分専用の装甲列車に
乗ってベルリンに向けて19時間の旅に出発した。
敵の手に落ちるか破壊されていた：Speer, *Reich*, 422. (アルベルト・シュペーア
『第三帝国の神殿にて——ナチス軍需省の証言』品田豊治訳／中公文庫)
- p.49 残忍で狂信的な：Kershaw, *The End*, 50.
「われは脱走兵なり」：ダッハウ強制収容所跡地の常設展示の写真。
わからないが：Speer, *Reich*, 422. (アルベルト・シュペーア『第三帝国の
神殿にて——ナチス軍需省の証言』品田豊治訳／中公文庫)
人けのないホテル：Ibid., 422. (同上)
私の部屋には：Ibid. (同上)
「戦争は敗れました」：Shirer, *Rise and Fall*, 1097. (ウィリアム・L・シャイラー
『第三帝国の興亡——ナチス・ドイツの滅亡』松浦倫訳／東京創元社)
シャイラーは以下のようにも書いている。「1月27日午後、ソ連軍はベルリン
まで160キロの地点でオーデル川を渡った。ヒトラーの司令部はベルリンの
総統官邸に移っており、彼は死ぬまでそこに留まることになる」

第二章 証拠隠滅

- p.53 このときのことをこう振り返っている：Thomson, 184.
アウシュヴィッツ第三強制収容所：アメリカ陸軍の空中写真、「1944年6月
26日ポーランド、オシフィエンチム、アウシュヴィッツ＝ビルケナウ複合施設」。
オリジナルのネガを拡大して、CIAが次のような説明文をつけた。「SS
軍需産業、IGファルベンなど。アウシュヴィッツ第三強制収容所ブナ」国立
公文書館；Schmaltz, *Buna Monowitz monograph*.
企業直結型の強制収容所：Drummer and Zwilling, 80.
- p.54 ささいな規則違反が原因で、とうの昔に殺されていた：2012年6月2日にゲ
ルハルト・マシュコフスキーに取材。
- p.55 骨と皮だけになり餓えて死にかけているブナの囚人が九〇〇〇人：Ibid. ドイ
ツ、フランクフルトのノルベルト・ヴォルハイム・メモリアル、フリッツ・パウアー

- 研究所の記録保管所にある2007年6月29日付のゲルハルト・マシユコフスキーへの口述歴史インタビューも参照のこと。
- 革のリードにつながれた犬たち：2012年6月2日もゲルハルト・マシユコフスキーに取材。プリーモ・レーヴィも同様の説明をしている。
- 伝染病病棟：Thomson, 186; ドイツ語で *infektionsabteilung* という。
- 高熱が出て：Thomson, 186.
- 戦後、レーヴィは：彼の友人のジャン・サミュエルに宛てた手紙より (Thomson, 186-87)。
- プナ工場IVの工場長：著者は、フランクフルトの元IGファルベン・ビルにあるフリッツ・パウアー研究所を訪問した。同研究所が所蔵するアンブロスに関する書類 (ニュルンベルク継続裁判の資料を多数含む) の全リストは、以下のヴォルハイム・メモリアルサイトを参照のこと。http://www.wollheim-memorial.de/en/igwerksleitung.
- p.56 ヒトラーは、彼に一〇〇万マルクという巨額の賞金を贈っていた：RG 319 Otto Ambros, SHAEF file card, WD 44714/36, "Microfilm Project MP-B-102." カードには次のように書かれている。「氏名：アンブロス、経歴：IG役員、シュペーアが統括する省のC委員会 (毒ガス委員会) 委員長、CW (化学兵器) 製造チーフ、プナ製造チーフ。1944年、ヒトラーはアンブロスに100万マルクを寄付した。プナという重要な発明によりドイツが天然ゴムを輸入せざるにすむようになったことへの褒美という名目で彼と彼の協力者たちに贈られたものだった」
- アンブロスがようやく強制収容所を後にしたのは：プナ工場の担当技師ヴァルター・デュルフェルトは側近だった。Walther Dürrfeld, affidavit, February 18, 1947, NI-4184. Archive of the Fritz Bauer Institute, Subsequent Nuremberg Trials, Case VI, 73-77.
- 証拠隠滅のために：RG 330 Jürgen von Klenck, D-64032, July 25, 1952; RG 319 Otto Ambros, September 28, 1944.
- p.57 デュヘンフルトの職員の退去：“Elimination of German Resources for War,” 1282; Tucker, 70. (ジョナサン・B・タッカー『神経ガス戦争の世界史——第一次世界大戦からアル＝カーイダまで』内山常雄訳／みすず書房)
- p.58 数分、ときに数秒で人を殺す：数字は資料によって異なる。第二次世界大戦時代の多くの文書には、液体タブンは接触した人間を30秒以内に殺害することができる、と書かれている。米国疫病管理予防センター (CDC) は「1分から10分以内」としている。
- 付着すると：CDC Fact Sheet, “Chemical Emergencies, Facts about Tabun.”
- 事故が起きると：Tucker, 48 (ジョナサン・B・タッカー『神経ガス戦争の世界史——第一次世界大戦からアル＝カーイダまで』内山常雄訳／みすず書房)
- 蟻の最期に：Harris and Paxman, xiv. (ハリス・ロバート、ジェレイ・バクスマン『化学兵器——その恐怖と悲劇』大島紘二訳／近代文芸社)
- P.59 特殊部隊には：Groehler, 11.
- 松の木を伐採させたその日から：ポーランド、ロゴズニツァのグロス＝ローゼン博物館。この強制収容所は、1940年8月にザクセンハウゼンの付属収容所として作られた。囚人たちはSSが所有する地元の花崗岩採石場で奴隷労働に従事させられた。
- p.60 ヨーロッパで最大：Dwork and Van Pelt, 198.
- C委員会の委員長：RG 319 Otto Ambros, SHAEF file card, WD44714/36.
- 名誉ある肩書：Ibid.; Stasi records (BStU), Dr. Otto Ambros file, MfS HA IX/11 PA 5.380.ドイツ語でのメダル の名称は、Kriegsverdienstkreuz と Ritterkreuz des Kriegsverdienstkreuzes.
- 公用車と公用機を改造しなければならない：Stasi records (BStU), Dr. Walter Schieber file, MfS HA IX/11 AS 253/68.
- ガスマスクの信頼性：Groehler, 246, 268-69.
- p.61 ヴァルター・シーバー：Nuremberg Trial Testimony, February 10, 1947. Transcript, 2788.
- 深海作業用の潜水具と同じような：Tucker, 51. (ジョナサン・B・タッカー『神経ガス戦争の世界史——第一次世界大戦からアル＝カーイダまで』内山常雄訳／みすず書房)
- 目撃した近くの村人たち：Groehler, 9-10; Tucker, 70-71. (同上)
- p.63 すでに人間もタブンも消えていたが：Tucker, 71-72 (同上)
- 第一六および第一八化学旅団：RG 218 Joint Chiefs of Staff, Joint Intelligence Group Report, “Intelligence on Soviet Capabilities for Chemical and Bacteriological Warfare,” 15-16.
- 工場は解体されて：RG 319 Otto Ambros, “Report on Chemical Warfare Based on the Interrogation and Written Reports of Jürgen E. von Klenck, Also Comments by Speer and Dr. E. Mohrhardt,” 25, 34-35.
- 〈第九一化学工場〉：Tucker, 402. (ジョナサン・B・タッカー『神経ガス戦争の世界史——第一次世界大戦からアル＝カーイダまで』内山常雄訳／みすず書房)
- 赤軍の化学兵器のひとつ：Tucker, 107. (同上)
- p.64 スターリンは、意外にも：2006年1月1日付テレグラフ紙「チャーチルはヒトラーを電気椅子に送りたいかった」より。この記事は、チャーチル首相の内閣府次官を務めたノーマン・ブルック卿の速記ノートに基づいている。
- 戦争に敗北すれば：Shirer, *Rise and Fall*, 1104. (ウィリアム・L・シャイラー『第三帝国の興亡——ナチス・ドイツの滅亡』松浦倫訳／東京創元社)
- 戦闘のあとに残る者たち：Kershaw, *The End*, 290. この有名な一節はドイ

- ツ語からさまざまな形に訳され、多様な方法で引き合いに出されている。
さらにシュペーアには：Sereny, *Albert Speer*, 475.
- p.65 「帝国領土の破壊」：Ibid., 475-76.
アウシュヴィッツとグロス＝ローゼンから大量の囚人が到着した：Aalmans, 10-11.
昇進していた：ミッテルバウはミッテルヴェルクの親会社で、その地域のほかの兵器工場群を運営していた。
ユダヤ人の工場主 Jewish factory owner：この実業家は、強制収容所送りを避けるために南アフリカに逃げた。
V-2のために新しい、さらに性能の高い試験台や発射台：Neufeld, *Von Braun*, 194.
- p.66 掘っていたのは：Ibid., 195.
徴用していた：Ibid., 194.
知らなかったはずはない：ドーラ＝ノルトハウゼン裁判〔訳注：1947年にアメリカがおこなった裁判〕の裁判記録。
メッセージを送るために：Neufeld, *Von Braun*, 165.
ある戦争犯罪報告書：Aalmans, 11.
- p.67 クレーンを返してもらえるのか：“Interview with Rudolph by Major Eugene Smith of the U.S. Army Air Force, June 2, 1947,” (DOJ monograph)；Feigin, 333.
特権：Neufeld, *Von Braun*, 193-94.
施設設計者ベルンハルト・テスマン：McGovern, 108. テスマンはペーネミュンでテスト施設のチーフ設計者として働いていた。
病院に運んでもらう：Neufeld, *Von Braun*, 195. フォン・ブラウンが戦後両親に書いた手紙の引用。
助手のディーター・フーツェル：McGovern, 108.
- P.68 V-1が発射された：Neufeld, *The Rocket and the Reich*, 263.
- p.69 自家用車でアルプスへ運ばれた：McGovern, 111；ロケット技師たちはSD（親衛隊保安部）によって守られていた。
目隠しをした：Huzel, 151-61.
- p.70 ナチの重要書類は瓦礫の山によって外界から完全に遮断された：Huzel, 159.
例外を設けることにした：フーツェルの回想録より。ふたりがフライシャーに打ち明けるつもりだったかどうかについては、さまざまな説がある。
- 第三章 追う者と追われる者
- p.71 次なるターゲット：Pash, *The Alsos Mission*, 160-162. パッシュは、ノルマンディー上陸作戦前にイタリアなどでゴーズミットなしで複数の調査任務を遂行していた。
IGファルベンの所有物であった：Pash, *The Alsos Mission*, 161.
- p.72 作戦中かかってない大規模なプロジェクト・チーム：Pash, *The Alsos Mission*, 171；Goudsmit, 77（サムエル・A・ハウストミット『ナチと原爆——アルソス：科学情報調査団の報告』山崎和夫・小沼通二訳／海鳴社）
モントゴメリーが言った次のことばは有名である：Lasby, 23.
それはどこまでも“略奪”と呼ぶにふさわしい行為だった：1945年3月24日付AP通信。
- p.73 アメリカ側からは：Gimbel, 3-17.
「ブラック・リスト」：Ibid., 3, 9.
前線部隊が：Ibid., 8；SHAEFは、ロンドンの事務局を通してCIOS派遣要請をコーディネートした。
鮮やかな赤い色で塗装されたTの文字：RG 165 “Code Name: Alsos Mission, Scientific Intelligence Mission, M.I.S., G-2, W.D.,” photographic history compiled by Colonel Boris T. Pash, 20.
- p.74 配下のチームをヨーロッパに送り込んでいた：McGovern, 101-2. スティヴァー少佐はすでにロンドンにいた。
30アサルト・ユニット：Bower, 75-76.
カオスと提携しているキオス：Lasby, 66.
もっとも熾烈な情報争奪戦のひとつ：Ibid., 18-19.
- P.75 荒廃しきっていた：Pash, *The Alsos Mission*, 172.
たった一台のジープ：Ibid., 173.
工場は連合軍の爆撃でひどく損傷していた：RG 165 “Code Name: Alsos Mission, Scientific Intelligence Mission, M.I.S., G-2, W.D.,” photographic history compiled by Colonel Boris T. Pash, 18.
破棄されてしまったか、どこかへ移送された：Pash, *The Alsos Mission*, 174-75.
フィリップ・R・タール中佐：既存の二次文献の多くで、フィリップ・R・タールはポール・R・タールと誤認されている；Kleber and Birdsell, 40, 45, 454.
CIOSチーム：Kleber and Birdsell, 40, 45, 79.
原材料さえも暗号化されていた：Tucker, 49.（ジョンサン・B・タッカー『神経ガス戦争の世界史——第一次世界大戦からアル＝カーイダまで』内山常雄訳／みすず書房）
- p.77 申し合わせたようにこう言い張るのだ：DuBois, 37-38.
- p.78 精力的に嘘を並べた：Tilley and Whitten, “Scientific Personnel I.G. Farbenindustrie A.G., Ludwigshafen,” 45.
アルソスはその後を追いつながら移動を続けていた：Pash, *The Alsos Mission*, 174.
トイレの下水管に書類を流していた：McGovern, 104.

- p.79 運営を任された：Goudsmit, 187-89 (サムエル・A・ハウストミット『ナチと原爆——アルソス：科学情報調査団の報告』山崎和夫・小沼通二訳／海鳴社)；NMT Case 1, Document No-897, “List of Plenipotentiaries.”
すぐれた科学者たち：HLSL Item No. 2076.
解放され：Goudsmit, 188. (サムエル・A・ハウストミット『ナチと原爆——アルソス：科学情報調査団の報告』山崎和夫・小沼通二訳／海鳴社)
兵器関連の研究プログラム：Goudsmit, 80-85 (同上)；オーゼンベルクは、個々の研究者の習慣や長所と短所——飲酒問題を抱えているか、愛人がいるか、同性愛者かどうか——を調べて記録するためにゲシュタポとも協力していた。
オーゼンベルクを捕らえたのだった：Goudsmit, 93, 197 (同上)
索引カード：Dowden, “Examination of Dr. Ing. W. Osenberg and Documents,” 4, Appendix II.
- p.80 傲慢さに呆気にとられた：Goudsmit, 198. (サムエル・A・ハウストミット『ナチと原爆——アルソス：科学情報調査団の報告』山崎和夫・小沼通二訳／海鳴社)。ドイツ語では“z. ZT. Paris”と書かれていた。
おまえなんて信用できたものじゃない：Ibid., 200
- p.81 都市のほとんどは破壊され：O'Donnell, 31.
猛攻を待つばかりだった：Beevor, 173. (アントニー・ビーヴァー『ベルリン陥落1945』川上洗訳／白水社)
命がけのユダヤ人-ボルシェビキの大群：Evans, 683, 685にて引用。
- p.82 四〇〇〇人の官僚：皮肉なことに、1945年4月にここにはその倍以上の人員が配属されていた、とビーヴァーは書いている。
愛情をこめて：Knemeyer, 23.
二万以上の航空機を失っていた：Evans, 683.
そんなことはまったく意味をなさなかった：Shirer, *Rise and Fall*, 1099 (ウィリアム・L・シャイラー『第三帝国の興亡5——ナチス・ドイツの滅亡』松浦伶訳／東京創元社)
- p.83 二人の意見は一致していた：Knemeyer, 23, 34;アルベルト・シュペーアがジークフリート・クネーマイヤーに送った1981年2月7日付の手紙。
- p.84 グリーンランドへ逃げたい：Knemeyer, 31; Speer, *Inside*, 494. (アルベルト・シュペーア『第三帝国の神殿にて——ナチス軍需省の証言』品田豊治訳／中公文庫)。「恐怖と感傷が入り混じった状態で企てた計画だった。夏と5月のグリーンランドは本当に素晴らしいんだ」と、戦後シュペーアはイギリス人歴史家ヒュー・トレヴァー＝ローパーに語っている。(Trevor-Roper, 178)
初めて一万三四〇〇メートルという高高度で飛ぶ：Knemeyer, 39.
- p.85 集めてきた：Ibid., 31; Baumbach, 230.
シュペーアの脱出命令：Knemeyer, 31.

第四章 解放

- p.87 ライクⅢ：アラバマ州ハンツヴィル、第104歩兵師団、第414連隊L歩兵中隊の所蔵品。
- p.88 苦痛に満ちたうめき声：Bower, 109.
七人の戦争犯罪捜査官：ドーラ＝ノルトハウゼン強制収容所記念館。アルマンズが撮影した写真は、ノルトハウゼン解放の象徴的な画像となった。
- p.89 一時間ごとに四人の囚人が死んでいった：Bower, 119.
- p.90 建物と敷地：RG 319 Kurt Blome, “Alsos Mission Report by Cpt. William J. Cromartie and Major J. M. Barnes,” July 30, 1945.
グロスの所有物：Ibid., 9.
- p.91 ペストに関するロシアの貢献：Ibid., 10.
アルソスの報告書には書かれている：Ibid., 11.
- p.92 フェルケンローデの「ヘルマン・ゲーリング航空研究センター」：Samuel, 147.この施設(Luftfahrtforschungsanstalt)には多くの名称があった。本書ではアメリカ空軍が用いた名称を使っている。
- p.93 〈ラスティ作戦〉：これは、LUftwaffe Secret TechnologYの略である(国立アメリカ空軍博物館、第二次世界大戦ギャラリー、LUSTY作戦ファクトシート)
フェルケンローデに到着したプットは：Samuel, 105-6.
伝説的なテスト・パイロット：USAF biography, Lieutenant General Donald Leander Putt, U. S. Air Force website: Thomas, 219-40.
大きな精神的ショックにも耐え、そのショックを和らげ、冷静に処理することができる：Thomas, 224, L・C・クレギー中將のことばの引用。
- p.94 のちにこの投下弾は：Thomas, 226.
- p.95 アメリカのパイロットにははまだ未知の領域だった：Samuel, 150.
これらの風洞において：McGovern, Chapter 15; History of AAF Participation in Project Paperclip; Samuel, 4-5.
世界「最高の計測・試験装置」：Samuel, 143.
獲得したルフトヴァッフェの装備と一緒に：McGovern, Chapter 15; Samuel 4-5.
プライドを捨て：Samuel, 4, 1945年5月7日にデイトン・カントリー・クラブでおこなわれたプット大佐の「技術課報スピーチ」を引用。
- p.96 自分たちにはそれができると二人は思った：Lasby, 76.
プライドも面子もない：History of AAF Participation in Project Paperclip, 0920.
- p.98 大至急派遣されたし：CIOS Report 31: “Chemical Warfare Installations in the Münsterlager Area, Including Raubkammer.”
一本の黄色いリング：Tucker, 85 (ジョナサン・B・タッカー『神経ガス戦争

- の世界史——第一次世界大戦からアル=カーイダまで』内山常雄訳／みすず書房）；ルークスの文書（マスタード、サリン、タブン兵器）の写真
- p.99 液体物質を抜き取る：CIOS Report 31:“Chemical Warfare Installations.” 皮膚に：Ibid.
- 恐ろしい新種の化学兵器：Tucker, 85-86（ジョナサン・B・タッカー『神経ガス戦争の世界史——第一次世界大戦からアル=カーイダまで』内山常雄訳／みすず書房）；Groehler, 323-24; Bower, 94-95.
- p.100 地下鉄のトンネル内に設けられた：RG 319 Walter Schreiber, “Capture and Preliminary Interrogation,” December 17, 1948.
- 必ずしも真実ではなかったのだが⁵：RG 319 Walter Schreiber, “Agent Report,” October 27, 1948.
- ヨーゼフ・ゲッベルス宣伝大臣による総統誕生日祝賀演説：http://archive.org/details/Hitler_Speeches.
- p.101 ヒトラーは簡単な挨拶の後：Beevor, 251（アントニー・ビーヴァー『ベルリン陥落1945』川上洗訳／白水社）
- ベルリンに最後の攻撃：Beevor, 255（同上）；ビーヴァーは、赤軍はまだベルリンの外にいて、実際の砲撃はベルリンの北東郊外に着弾したと述べている。
- ソ連のベルリン占領作戦：Beevor, 147（同上）
- p.102 一八〇万発の砲弾：Ibid., 262.
- クネーマイヤーとバウムバッハのベルリン脱出：Knemeyer, 34; Baumbach, 233.
- のちにバウムバッハはこう語った：Baumbach, 233.
- 仲介として：Pogue, 476.
- p.103 シュペーアと逃亡するための：Baumbach, 230.
- ドビン館：Knemeyer, 34, 35-36; Baumbach, 234-37.
- p.104 近い将来：Baumbach, 236. バウムバッハは、ヒムラーに次のように言っていると述べている。「昨日、飛べそうな場所を地図で調べたところです。世界中どこへでもすぐに行ける飛行機と飛行艇を用意しています。信頼できる乗員を配置しておりますし、私の口頭命令がない限り離陸してはならない、と指示しております」
- クネーマイヤーが待つ居間：Knemeyer, 35-36.
- p.105 まだ実行に移されていない：Speer, *Inside*, 494（アルベルト・シュペーア『第三帝国の神殿にて——ナチス軍需省の証言』品田豊治訳／中公文庫）。クネーマイヤー、バウムバッハ、シュペーアはそれまでにハンブルクで会っている。シュペーアの回想録では、バウムバッハがシュペーアに逃げるように勧めたがシュペーアはその前にすべきことがあるという理由で「その提案を拒否した」という。また、シュペーアはこの計画を思いついたのはバウムバッハだと言ったが、その後、ウデットの映画を見て以来グリーンランドに行きたいと

思っていたと矛盾したことを述べている。

抑えきれないほどの激しい衝動：Ibid., 476.

一人自分の車で戻る途中：Ibid., 477.

p.106 瓦礫の山に着陸した：Ibid., 478

p.107 ヒトラーとの最後の面会：Ibid., 485. シュペーアは総統地下壕を最後に訪ねた日を特定していないが、「その6日後」にヒトラーが政治的遺書をしたためたと書いている。遺書は、1945年4月29日午前4時に口述されている。駐屯地の周りには：著者のダッハウ強制収容所跡地への小旅行；記録保管所と図書館の地図と古い写真。

p.108 数千体：NMT Evidence Code PS-2428; War Crimes Investigation Team No. 6823.

ひとつのグループに“凝縮”して：Lifton, 153.

法的に独立した行政単位：Martin Broszat, “The Concentration Camps, 1933-1945,” in *Anatomy of the SS State*, edited by Helmut Krausnick, Martin Broszat, and Hans-Adolf Jacobsen (London: Collins, 1968), 429-30.

p.109 ひどく寒くて陰鬱：Smith, 79.

仲間の一人は、耐えきれずに涙を流しはじめた：Ibid., 91.

こんなことが本当に可能だとは信じられない：Ibid., 92.

あるとき：Ibid., 178.

p.110 独立した兵舎：著者のダッハウ強制収容所跡地への小旅行、記録保管所と図書館、戦後の証人のスケッチ。

第五実験病棟：Technical Report No. 331-45, “German Aviation Medical Research at the Dachau Concentration Camp,” 6; Alexander, “Exposure to Cold,” 17. この施設は「ブロック5、実験ステーション」とも呼ばれていた。

精鋭医師：HLSL Item No. 995; HLSL Item No. 80; HLSL Item No. 4.

第五章 捕虜と尋問者

p.111 最後の強襲を計画していた：ソヴィエトにとって、帝国国会議事堂は「ファシストの野獣」の象徴だった。その建物にソ連の祝日である5月1日に旗を掲げることは、赤軍にとってまたとない宣伝工作の機会であった。

午後三時半ごろ：Beevor, 359（アントニー・ビーヴァー『ベルリン陥落1945』川上洗訳／白水社）

p.112 シュペーアから渡された：Knemeyer, 37.

保養施設ハウス・インゲブルク：Neufeld, *Von Braun*, 198.

p.113 王様のように暮らしていたんだ：Lang, “A Romantic Urge,” 75.

アナウンサーが発表した：McGovern, 141.

- アメリカ軍と交渉をはじめめる：Neufeld, *Von Braun*, 199.
ドルンベルガーがそう言ったことが漏れ聞かれている：McGovern, 142. ドルンベルガーとフォン・ブラウンにオーバーヨッホで過ごした時期について尋ねた自身のインタビューを引用。
ドイツ人とオーストリア人の情報ネットワーク：von Braun, *Space Man*, 12-13.
- p.114 シュナイカート上等兵は：Burrows, 116.
CIOSのロケットに関するブラック・リスト：McGovern, 123. 「ステイヴァーは、フォン・ブラウンの名前を自分のブラック・リストのトップに据えた」
- p.116 最大のうそつき：Neufeld, *Von Braun*, 199-201.
二五人のエージェント：DuBois, 40; Jeffreys, 354.
- p.117 ドイツでもっとも裕福な銀行家：DuBois, 40; ヴォルハイム記念館IGファルベン、IGファルベンの主な役員の伝記、ヘルマン・シュミッツ (1881-1960) シュミッツの伝説：DuBois, 40.
ずんぐりとした中年女性：Ibid., 40.
- p.118 「シュミッツ法律顧問」：Ibid., 41.
逮捕するには十分な証拠：Jeffreys, 356.
- p.119 ティリーだらう：1945年11月21日付エドマンド・ティリー少佐の宣誓供述書：DuBois, 6-20.
シュミッツのオフィスの壁に埋められ：Tilley, “Report on the Finding of Evidence of Hermann Schmitz’s Connection with and Knowledge of the Auschwitz Concentration Camp.”
漫画のような絵：DuBois, 43-44.
- p.120 まだティリーには知りえなかったこと：Beevor, 46 (アントニー・ビーヴァー『ベルリン陥落1945』川上沈訳／白水社) 3カ月前の1945年1月27日、ソヴィエトの第107小銃師団の偵察部隊がアウシュヴィッツ強制収容所を発見した。赤軍は、同収容所でおこなわれた残虐行為の写真を撮ってモスクワに送った。アウシュヴィッツ強制収容所の解放に関する記事は1945年2月9日に赤軍の新聞スターリンズ・パナー (スターリンスコエ・ズナーミヤ) に掲載されたが、国外への報道はドイツが降伏するまでモスクワのプロパガンダ省によって控えられていた。
公開を控えていた：ソヴィエトのブラウダ紙は、アウシュヴィッツ解放について1945年1月28日に小さく報道した。2月1日に30行の記事を掲載したが、収容所の規模と生き残った囚人の数、彼らの栄養状態を報じただけだった。理由についてはまるで見当がつかなかった：DuBois, 44; Tilley, “Report on the Finding of Evidence of Hermann Schmitz’s Connection with and Knowledge of the Auschwitz Concentration Camp.”
- p.121 のちにニュルンベルク裁判で語られたところによると：Dubois, 4-10.
ただの化学者：Ibid., 4.
- p.124 びんときた：RG 319 Kurt Blome, Arrest Report, May 17, 1945.
- p.125 ブローメを追っていた：RG 330 Kurt Blome, Preliminary Interrogation Report (PIR) No. 1; RG 319 Kurt Blome, File No. 100-665, War Crimes Office, Judge Advocate General’s Office.
熱心なナチ信奉者で、ナチであることに誇りを持つ男：RG 330 Kurt Blome, PIR No.1.
自著：Kurt Blome, *Arzt im Kampf*, 138-39; chapter 7, “Kampf für Adolf Hitler und der Sieg” (アドルフ・ヒトラーの闘争と勝利). ブローメは *Der Krebs* (ガン) という本も書いており、戦前に第三帝国のために広範なガン研究をおこなっていた。
全貌を知ろうとしていた：RG 330 Kurt Blome, Extract from 12 Army Group Interrogation Centre, June 22, 1945; 1945年7月1日のクルト・ブローメ博士の尋問。
「殊処置」：Bundesarchiv Ludwigsburg, Dr. Kurt Blome file, B162/28667.
- p.126 公衆衛生局のヒエラルキー：コンティは1945年10月に独房で首を吊ったため、医者裁判中、ブローメとほかの医師たちに罪をかぶせられた。
養成できないからだ：RG 330 Kurt Blome, PIR No.1.
ユダヤ人の集団不妊手術やガス処理：Ibid.
- p.127 ギルがブローメの直属の上司コンティについて問い詰めると：ギルとブローメの尋問に関する情報はすべて以下から得ている。RG 330 Kurt Blome, Interrogation of Doctor Kurt Blome, July 1, 1945.
- p.128 ブローメは、ギルが言っていることについて何も知らないと言いつつ放った：Ibid., Goudsmit, 73. (サムエル・A・ハウストミット『ナチと原爆——アルソス：科学情報調査団の報告』山崎和夫・小沼通二訳／海鳴社)
- p.129 あちこちを尋ね回ったが：Beasley, 76.
- p.130 刑務所に毎日通った：Ibid.
神経質な小男：Norman Beasley, “The Capture of the German Rocket Secrets,” *American Legion*, October 1963より。この作品は、のちに以下にまとめられた。Diane L. Hamm, *Military Intelligence: Its Heroes and Legends* (U.S. Army Intelligence and Security Command History Office, October 1987; rev. ed. Honolulu, HI: University Press of the Pacific, 2001), 73-83.
あなたをドイツ政府の当局者として認めよう：Beasley, 80.
- p.131 リッカーにはアメリカでの仕事を推薦することを約束したが：Rickhey: RG 330 Georg Rickhey, Letter to Mr. Peter Beasley, April 6, 1948.
約一〇キロの距離を毎日車で通っていた：Sereny, 547.
髭を剃っていると：Ibid., 555.
- p.132 対戦車砲を装備したイギリス軍部隊：Ibid.
逮捕され、連行された：Schmidt, *Justice*, 130. 城には、シュペーアの親し

- い友人でヒトラーの侍医のカール・プラントも滞在しており、シュペーアの逮捕記録には彼の名も記載されている。
- アメリカ軍は彼がどこに隠れているか知っていた：Sereny, 547-49.
- アメリカ軍将校と高官たちと会合しながら：Ibid., 556. セレニーは、シュペーアは自著 *Spandau* で自分の逮捕と最初の尋問について言及していない、と書いている。
- 後年、ニツツェはそう語った：Ibid., 549. シュペーアの秘書アンネマリー・ケンブは、アメリカ軍高官たちがやって来たのは1945年5月12日だったと話している。
- p.133 コメントできない、と答えた：Ibid., 551.
- p.135 捕虜は静かな声でそう告げた：Longerich, 1: *After the Battle 14* (August 15, 1976) : 35.
- ナチ・ヨーロッパの警察長官：タイムの表紙の絵の作者は、ボリス・アルツィバシェフである。
- 軍用書類：Longerich, 2.
- p.136 先端の青いもの：Ibid., 3.
- 頭をうしろにぐいと反らせ：Ibid.
- この悪魔：Winston G. Ramsey, "Himmler's Suicide," in *After the Battle 14* (August 15, 1976) , 35にて引用。ウエルズ軍医を手伝った将校は、ノーマン・ホイッテカーだった。
- 一八二〇万人のうち：Kershaw, 379.
- 五〇〇〇万人：明確な数字を特定することは不可能である。この数字は、ワシントンのジョージ・ワシントン大学エレノア・ルーズベルト・ペーパーズ・プロジェクトのもの。以下のサイトで閲覧可能。http://www.gwu.edu/~erpapers/.
- 誰が本当にナチかという問い：Ziemke, 380.

第六章 “破壊の二頭立て戦車”の有効利用

- p.139 ドイツは、ありとあらゆる科学と工学を：Bower, 102. ファレンは、英国国立航空研究所の研究施設ファーンボロの所長だった。
- p.141 ドイツの科学を抑制しなくてはならない：Lasby 32, 63; O'Mara, "Long-Range Policy on German Scientific and Technological Research, AIF." 統合参謀本部 (JCS) 1067として知られる指令：RG 164, Records of the War Department General and Special Staffs; Valero, 3.
- p.142 一五〇〇人を超える科学者が：二次資料ではこの数字は異なる。本書では、ラスビーの数字を用いている；2013年3月23日にクレアレンス・ラスビーに電話で取材。
- アイゼンハワー将軍はこの点をはっきりさせなければならなかった：RG 331 AC/SG-2 to Chief, MIS, May 16, 1945, Subj: "Long-Range Policy on German Scientific and Technological Research"; Lasby, 75-76.
- 緊急案件：Lasby, 63-64にて引用。
- p.143 そこでフランスのSHAEF本部へ飛び：ウォルフ少将はアメリカ外国経済局 (FEA) によるドイツの秘密兵器に関する機密調査にも携わっており、金や盗まれた芸術品と同じように、ナチが驚異の新兵器をブラック・マーケットで売するために終戦前にドイツ国外に送っていたかどうかを判断することになっていた。結論は出なかったが、この任務によってナチの秘密の兵器プロジェクトの種類と価値について広範なビジョンを持つようになった。
- ウォルフはさらに大がかりな：RG 169, Memo, Major K. B. Wolfe to War-Navy Ad Hoc Interdepartmental Committee to Handle FEA Projects, May 14, 1945.
- 今はその話を持ち出すべきではない：Lasby, 65, 106.
- 数えきれないほどの要望が殺到し：Lasby, 65.
- p.144 頭上でV-2が爆発し：McGovern, 99. 彼自身によるステイヴァー少佐への取材を引用。
- p.145 学べることはすべて学んだ：Ibid., 99-106.
- p.146 アメリカ軍の計算によれば：History of AAF Participation in Project Paperclip, "Letter and Report from Staver to Colonel S. B. Ritchie," May 23, 1946.
- p.148 レースに訊いてみるといい：McGovern, 163.
- ステイヴァーがレースを尋問すると：History of AAF Participation in Project Paperclip, "Letter and Report from Staver to Colonel S. B. Ritchie," May 23, 1946.
- 手荒い歓迎：RG 330 Walther Riedel, JIOA Form No. 4, Security Report by Sponsoring Agency.
- 月の周りを飛ぶ小旅行：Ibid.: McGovern, 166-67.
- 熱弁をふるった：RG 330 Walther Riedel, JIOA Form No. 2, Basic Personnel Record. 6つのナチ組織とは以下の通り；NSDAP (国家社会主義ドイツ労働者党)、NSKK (国家社会主義自動車軍団)、NSV (国家社会主義公共福祉)、DAF (労働戦線)、NSBDT (国家社会主義ドイツ技術連盟)、RLB (国家防空連盟)。
- p.149 この地域には：McGovern, 151. この地域を制圧したのはアメリカ軍だが、ナチとの戦闘で1700万人を失ったロシア軍が損失に見合う補償を望んだため、ヤルタ会談でソヴィエトが支配することが合意された。その広さは、幅200キロ、長さ645キロに及んだ。
- p.150 彼は、ロケット工学者であるフライシャー、リーデル、リースを：カリフォルニア州パサデナのカリフォルニア工科大学所蔵のハワード・P・ロバートソン博士の文書；2013年3月23日にクレアレンス・ラスビーに電話で取材；

- Lasby, 108.
連合国の理念に敵対する：カリフォルニア州パサデナのカリフォルニア工科大学所蔵のハワード・P・ロバートソン博士の文書。
数理物理学者のロバートソンは：Ibid.
- p.151 ナチ党に反抗して：Nobel Prize.orgに記載されているアルベルト・アインシュタインの伝記。
- p.152 フォン・プレッツによれば：McGovern, 168.
- p.153 二人とも自分たちが：フーツェルは自著でフォン・ブラウンにフライシャーのことを話したと述べている。ほかのすべての記述では、彼は話していない。
- p.155 「一〇〇パーセント、ナチ」「危険なタイプ」：RG 330 Arthur Rudolph, JIOA Form No.4, Security Report by Sponsoring Agency.
非ナチ化は、連合軍が戦後のドイツとオーストリアの民主化と非武装化を図るための戦略であり：Thomas Adam, ed., *Germany and the Americas: Culture, Politics, and History, O-Z* (Santa Barbara: ABC-CLIO, 2005), 275.
推理小説：Franklin, 98-99.
ステイヴァーの捜索が進展を見せていた：McGovern, 163-76.
- p.156 〈イン・オブ・ザ・スリー・ライム・ツリーズ〉：McGovern, 169.
- p.157 ほとんど聞き取れないほどの声で：Ibid.
- p.158 乗せてもらおうとした：Ibid.この同僚は、ウィリアム・ブロムリー少佐だった。
- p.159 早急に返事をされたし：History of AAF Participation in Project Paperclip, "Letter and Report from Staver to Colonel S. B. Ritchie," May 23, 1946.
ステイヴァーはノルトハウゼンへ引き返した：McGovern, 175.
- p.161 行きなさい、ロシア人がやって来るのよ：Franklin, 98-99.
一〇〇〇人を超えるドイツ人：McGovern, 183.
- p.162 粉々に吹き飛ばしてしまいたかった：Ibid., 185. 取り決めによって、占拠した施設は「連合軍の代表者たちの指示に従って自由に使えるように、損傷せずに良好な状態に保つ」ことが義務づけられていた。
- p.163 ラーベ研究所：Chertok, 345-48.
二階建ての校舎をあてがわれ：McGovern, 195.
- p.164 ヘルベルト・ヴァグナーと彼の四人の助手：RG 330 Herbert A. Wagner, "Certificate from Sponsoring Department German (or Austrian) Scientist or Important Technician." ヴァグナーは、ババリアン・アルプスでフォン・ブラウンとドルンベルガーと同じ施設に拘置されていた。
アメリカとイギリスの両海軍にとって悪夢のような存在だった：“Paperclip Part I,” *Office of Naval Intelligence Review*, February 1949, 22-23.
- p.165 降伏した：5月8日、ヨハン・ハインリヒ・フィーラー少佐は、ノルウェーのベルゲン〔訳注、ノルウェー南西部、大西洋岸の港市〕に戻るか、日本への航

行を続けるかのいずれかを命じる暗号メッセージを日本から受け取った。フィーラーは引き続き日本を目指したが、数時間後、部下の無線技士がロイター通信社のニュースを傍受し、日本政府がドイツとのあらゆるつながりを断ち、日本国内のドイツ市民を逮捕していることを知る。5月15日、米駆逐艦サットンがU-234を捕獲して米沿岸警備隊員らに引き渡し、彼らがU-234をニューハンプシャー州ポーツマスまで護送した。
含まれていたという：William M. Blair, "Big U-Boat Arrives with High General," *New York Times*, May 19, 1945.
これに加えて：William Broad, "Captured Cargo, Captivating Mystery," *New York Times*, December 31, 1995.
もっとも有能なナチ科学者の一人：Scalia, 144-45.

p.166 情報報告書：RG 330 Herbert Wagner, "Certificate from Sponsoring Department German (or Austrian) Scientist or Important Technician."
SS：RG 65 Herbert Wagner, Federal Bureau of Investigation, File No. 106-131, June 1, 1948; Hunt, 7.

p.167 占領軍の法律に基づいて：Bower, 120.
日和見主義者：RG 65 Herbert Wagner, Federal Bureau of Investigation, File No. 106-131, June 1, 1948.
秘密の講義をおこなう：Scalia, 42-43.

p.168 この者たちは敵であり：マクスウェル空軍基地ヒストリー・オフィスの文書。Memo, Patterson to Secy, General Staff, May 28, 1945, Subj: "German Scientists."
パターソンは：History of AAF Participation in Project Paperclip, 9028; SWNCCは、ドイツのアメリカ占領地区における政治的・軍事的問題を扱うために1944年12月に設立された。

第七章 ヒトラーの医師たち

- p.169 ナチ党出資のジャーナル：Weindling, 23; Bundesarchiv Ludwigsburg, Dr. Hubertus Strughold file, No.828/73.
第八空軍：Bullard and Glasgow, 47-48. マイティ・エイス (Mighty 8th) というあだ名でも知られている。1944年にアームストロングが第八空軍の軍医に就任したとき、マイティ・エイスの隊員は19万人、そのうち300人が航空医官だった。同軍は、ナチス占領下のヨーロッパに24時間体制で爆撃をおこなっていた。
- p.170 重さ一〇キロの装甲ジャケット：アメリカ空軍のマルコム・グロウ軍医少将の伝記。このジャケットは、45口径の弾を至近距離で発砲されても兵士を守ることができた。

- 打ち合わせ中に：Bullard and Glasgow, 54.
 研究所の新設：Benford, "Report from Heidelberg," 9. 実際の引用は「ドイツから陸軍航空軍が利用できる航空医学のすべてと、医療科学全般に重要なあらゆる情報を持ち帰る」
- p.171 一一五人の医師のリスト：Weindling, 80.
- p.172 かなり親しい友人になった：Bullard and Glasgow, 52.
 航空医学研究所：Benford, "Report from Heidelberg," 6. この施設のドイツ語名 Luftfahrtmedizinische Forschungsinstitut にはさまざまな訳語がある。この報告書原文に記されている名称は Aviation Medical Research Institute of the Reich Air Ministry in Berlin (在ベルリン帝国航空省航空医学研究所) である。
- p.173 ウルリッヒ・ルフトという呼吸器専門医：Bullard and Glasgow, 55-56.
 彼は、ロシア人たちが：Mackowski, 111.
- p.175 記録的な証拠：Life, "Life Behind the Picture: The Liberation of Buchenwald," May 7, 1945.
 (UNWCC)：Complete History of the United Nation War Crimes Commission and the Development of the Laws of War. Compiled by the United Nations War Crimes Commission. Published for the UNWCC by His Majesty's Stationery Office (London, 1948) .
- p.176 関わることになる：Alexander Papers, Harvard Law School Library, Series 1, Nuremberg Materials, 1939-1947. Subseries A, Trial Documents, 1942-47.
- p.177 解放された：Alexander Papers, Harvard Law School Library, Box 2, Letter to Mrs. Alexander in Newtonville, Mass. n.d.
 医師と看護師：Smith, 215；元囚人の75パーセントがまだダッハウにいたと推定される。
 医学犯罪の現場と思しき場所：Weindling, 77.
- p.178 運命のめぐり合わせ：Alexander Papers, Harvard Law School Library, Series II, Box 7, Subseries A, Personal Life, 1883-1985.
 医学に引きつけられた：Ibid.; Schmidt, *Justice*, 24.
 初めて哲学博士号を取得した女性：1685年に同大学が女性に門戸を開いて以来、ということ。彼の母親は1903年に博士号を取得した；Schmidt, *Justice*, 23.
 進歩的な知識人：Alexander Papers, Harvard Law School Library, Series II, Box 7, Subseries A, Personal Life, 1883-1985.
 師となる：Weindling, 74；Schmidt, *Justice*, 30. クライストについて議論されるようになったのはごく最近のことだ、とシュミットの注釈 (301N) に書かれている。
- p.179 グスタフ・アレグザンダーが：Alexander Papers, Harvard Law School Library, Series II, Box 7, Subseries A, Personal Life, 1883-1985.
 非アリア人が公務員として働くことは違法となり：Schmidt, *Justice*, 40；シュミットは48ページに次のように書いている。「1933年7月に実施された国勢調査によれば、ドイツ帝国には計51,527人の医師（女性の医師は4,395人）がおり、そのうち5,557人（10.9パーセント）がユダヤ人と確認された。調査実施時までに数百人のユダヤ人がすでに国外へ移住していたため、この数字はもっと多かったと思われる。ドイツ在住のユダヤ人を代表する中心的組織ライヒ・レプレゼンテーション・オブ・ザ・ジャーマン・ジューズは、計9,000人の「非アリア人」の医師がいたと推定しているため、全ドイツ人医師の約17パーセントがユダヤ人だったと考えられる。1933年当時のドイツの全人口におけるユダヤ人の数が1パーセント強であったことを考えると、医学と法学の専門家と銀行及び芸術においてユダヤ人の割合がいかに突出していたかがわかる。
- p.180 「鉤十字に屈した」：Schmidt, *Justice*, 44. クライスト教授はアレグザンダー博士にドイツに帰らないよう警告した。
 われわれの存在そのもの：Schmidt, *Justice*, 55.
 中国では：Alexander Papers, Harvard Law School Library, Series II, Box 7, Subseries A, Personal Life, 1883-1985.
 誤った希望は持たないように：Schmidt, *Justice*, 55.
- p.181 上へ上へと押し上げられ：Alexander Papers, Harvard Law School Library, Subseries B, 14-3, Letters, Theo Alexander Worcester, January 21, 1934.
 頭角を現した：Alexander Papers, Harvard Law School Library, Series II, Box 7, Subseries A, Personal Life, 1883-1985.
- p.182 戦いに加わった：Ibid. 1938年、アレグザンダー博士は最前線でナチと戦うために陸軍予備軍医療隊に志願したが、体重過多のため不合格になった。開戦後、免除措置によって参加できるようになった。
 誰が有罪で：Alexander Papers, Harvard Law School Library, Series 1, Nuremberg Materials, 1939-1947, Subseries A, Trial Documents, 1942-1947.
 航空医学研究所：Eckart, 111. アレグザンダーがミュンヘンで担当したこの施設の以前の名称は、ミュンヘン生理学研究所航空生理学局だった
- p.183 最初の尋問でヴェルツが語ったところによると：Alexander, "Exposure to Cold," 30-12.
 「人間を解凍し」：Ibid., 5-7, 67.
 革新的な研究：Ibid., 11.
- p.184 「驚くべき有用な発見をした」：Ibid., 4.
 長年の謎を解いた：Ibid., 8. ヴェルツの目的を正確に訳すと、次のようになる。「低温によって完全に死んでいる人間を生き返らせることは可能だろうか……

- これは死後どのくらいの時間まで可能だろうか?」
彼のチームが開発した方法 : Ibid.
- 「成豚」: Ibid., 9.
ヴェルツは断言した : Ibid., 11-12.
- p.186 汚いふたつの木の桶 : Ibid., 9.
秘密にされている : Ibid., 8.
ドイツの科学はおぞましい光景だ : Alexander Papers, Harvard Law School Library, Series II, Box 2, Letter to Mrs. Alexander in Newtonville, Mass, n.d.
- p.187 下等人種 : Herausgegeben vom Reichsführer-SS und SS-Hauptamt. Berlin 1942 (Berlin Do 56/685) , per Dr. Jens Westemeier.
「遺伝病の子孫の出生を予防するための法律」: 2012年から2013年にかけてジョン・ドラボイに手紙で取材 : United States Holocaust Memorial Museum (USHMM) , *Holocaust Encyclopedia*, The Biological State: Nazi Racial Hygiene, 1933-1939. *Holocaust Encyclopedia* (訳注 : ホロコースト百科事典) はアメリカ合衆国ホロコースト記念博物館 (USHMM) のオンライン・リソースで、ホロコーストに関する文章、歴史的写真、地図、オーディオクリップ、その他を14カ国語で提供している。
- p.188 クライストの解雇がアレグザンダーの要請によるものだったのか : Schmidt, *Justice*, 95.
ときどき、まるでナチが : Alexander Papers, Harvard Law School Library, letter dated December 31, 1946. アレグザンダー博士は、例として *The Tales of Hoffmann* を挙げている。この話では、夜に邪悪なコペリウス博士が眠りの精のふりをして子供たちの寝室に入り、彼らの眼を抉り取る。アレグザンダー博士は妻フィリスに宛てた別の手紙で、次のように書いている。「ベルリンの男女二人の医師がさまざまな色の眼球を収集していた、という新しい証拠が出てきた。強制収容所で、色合いが少し異なる眼をした者、つまり片眼の色がもう片方の眼とわずかに違う者を徹底的に探したようだ。そのような眼をした不運な囚人は、両眼を抉り取られて殺され、取り出した眼球はベルリンへ送られた」
- p.189 その道すがら : Alexander, CIOS Report 24: "Exposure to Cold," 13.
驚くほどよく似ていた : Ibid., 8, 13.
- p.190 シュトルークホルトを見つけたアレグザンダーは : Ibid., 13.
会議 : Bundesarchiv Ludwigsburg, Dr. Hubertus Strughold file, 828/73.
ラッシャー : Alexander, "Exposure to Cold," 13-68; Technical Report No. 331-45, "German Aviation Medical Research at the Dachau Concentration Camp," 77-92.
シュトルークホルトは : Alexander, "Exposure to Cold," 13, 14.
- p.191 驚くべき続報を受け取った : Ibid., 17-18.
- p.192 一台の車が現れ : 2012年1月24日にヒュー・イルティスに電話で取材。
もっとも重要な : Ibid.
- p.193 封印を破ると : Weindling, 76.
実験をはじめること : Alexander, "Exposure to Cold," 20.
ルフという生理学者だった : Ibid., 17; HLSL Item No. 28; HLSL Item No. 995.
写真の数々 : 著者はダッハウ強制収容所跡地の文書保管所と図書館でコピーを閲覧した。
- p.194 シュトルークホルトは、少なくとも : Alexander, "Exposure to Cold," 17.
「まだ隠蔽している」ことは明らかだ : Ibid., 17, 65-66.
- p.195 「やわすぎる」 : Ibid., 41.
もう一度ダッハウを訪れ : Ibid., 43. 男たちは、解剖後の死体が運び込まれるダッハウ消毒剤工場でホイッサーマンと一緒に働いていた。
証言してくれる元囚人を三人 : Ibid., 42-44.
難破実験 : Alexander, "Exposure to Cold," 10, Appendix I.
- p.196 ミチャロウスキー神父は : HLSL Item No. 2585.
イルティスの助けを借りて : 2012年1月24日にヒュー・イルティスに電話で取材。
- p.197 アウシュヴィッツの方があらゆる意味で : Alexander, "Exposure to Cold," 33.
航空省の内輪の映写会 : Ibid., 66.
テオドア・ベンジンガーという : Ibid., 66; HLSL Item No. 1320.
- p.198 R・H・ウィンフィールド航空団長は : Winfield, "Preliminary Report," 4-5; シュトルークホルトは、自分の研究の大部分は暫って学問的なものだと言った。これはシュトルークホルトが発表した研究——特に実地調査が必要な高高度研究——を考えれば「いささか矛盾している」ということはウィンフィールドも認めている。
心拍が続くことがある : Lovelace, 65.
- p.199 高高度専門家であり : Benford, "Report from Heidelberg," 6.
「蘇生可能な「仮死状態」と蘇生不可能な「完全な死の研究」 : Lovelace, 67.
- p.200 海水飲用 : HLSL Item No. 83.
必ずしも完全に正直とは限らなかった : Weindling, 78-80.
- p.201 アメリカ陸軍情報部は : Ibid., 82.
- p.202 自らの手で念入りに選び出した : Benford, "Report from Heidelberg," 1-3. ベンフォードは、誰がいつ (1945年10月から11月ごろ)——働きはじめてたか特定しているが、取引が成立したのはその前の夏/秋だと示している。

第八章 白と黒とグレー

- p.203 ナチ科学者雇用計画をめぐる議論: History of AAF Participation in Project Paperclip, 9030; Bower, Chapter 7.
- p.204 諸手をあげて歓迎し: History of AAF Participation in Project Paperclip, 9028.
ロバート・バタースン陸軍次官は: McGovern, 192-93.
SWNCCの委員長: Bird, 192.
戦争犯罪告発計画の策定を手助けする: Taylor, *Nuremberg Trials*, 22, 36.
マックロイの見解: この説明は、バードが書いたマックロイ伝記によるもの。1960年代にV-2に関する本を書き、アメリカ陸軍の多くの重要人物にインタビューしたマクガヴァンが、高等弁務官事務所でマックロイの下で働くことになったというのも興味深い。
経済的繁栄をもたらす: Bird, 229-30.
- p.206 海の向こうで起きていることを自分の眼で見たい: 2012年から2013年にかけてジョン・ドラボイに手紙で取材。
- p.208 戦争がとても現実味を帯びてきた: Ibid., Dolibois, 64-65.
報告を受けていたからね: Dolibois, 71.
- p.209 次から次へと蘇ってきた: 2012年から2013年にかけてジョン・ドラボイに手紙で取材。
- p.210 パラス・ホテル: ジームキー (Ziemke) の著書第5章には、この尋問センターの外観が記されている。
- p.211 五階建て: 2012年から2013年にかけてジョン・ドラボイに手紙で取材。
- p.212 ユダヤ人問題の最終的解決: USHMM, *Holocaust Encyclopedia*, SS and the Holocaust.
その瞬間: 2012年から2013年にかけてジョン・ドラボイに手紙で取材: Dolibois, 85.
彼は保養地の宮殿のような: Dolibois, 85.
爪をピカピカに磨き上げていた: Andrus, 29.
- p.213 そうだ: Dolibois, 86; 〈アッシュュキャン〉でドラボイはジョン・ギレン中尉という秘匿名を使っていた。
この施設の指揮官: Andrus, 27.
- p.214 自殺も図らなかった: Henkel and Taubrich, 40-47.
二番目の徒党: これは、ドラボイの自著にあるこの男たちの描写である。
浴槽で自慰をして: Dolibois, 128.
- p.215 よく私のところに来た: 2012年から2013年にかけてジョン・ドラボイに手紙で取材: Dolibois, 89.

第九章 ヒトラーの化学者たち

- p.216 分析していた: Tucker, 90 (ジョナサン・B・タッカー『神経ガス戦争の世界史——第一次世界大戦からアル=カーイダまで』内山常雄訳/みすず書房)「航空機で最優先事項として」: Ibid.
- p.217 人を殺すために化学兵器を使用する: 1943年6月9日の第32代大統領(FDR)の演説; Harris and Paxman, chapter 5. (ハリス・ロバート、ジェレミー・パクスマン『化学兵器——その恐怖と悲劇』大島紘二訳/近代文芸社、第五章)
第二次世界大戦の戦後処理の最中: Tucker, 103. (ジョナサン・B・タッカー『神経ガス戦争の世界史——第一次世界大戦からアル=カーイダまで』内山常雄訳/みすず書房)
五三〇トンものタブン神経剤: Hilmas, chapter 2; この施設はイギリス軍が引き継いでいたが、同軍は戦利品を快く共有した。これらの戦利品には、爆弾3000発と砲弾5000発が含まれていた。
あらゆる手立てを尽くすべきだ: Bower, 121.
- p.218 自分はただの化学者であり: Goudsmit, 81 (サムエル・A・ハウストミット『ナチと原爆——アルソス: 科学情報調査団の報告』山崎和夫・小沼通二訳/海鳴社)
本当のナチ指導者のように“ジーク・ハイル”(勝利万歳)と: Ibid.
- p.219 見直しも図っていた: Gimbel, 60. FIAT 将校の一部は、自分たちが所属するこの機関の名を「神の御心のままに」を意味するラテン語 fiat voluntas tua を暗示していると考えていた: Ziemke, 272.
構造上警備が簡単で: 著者は、2012年8月1日にクランスペルク城の敷地を見学した。
- p.220 シュペーアは: 2012年8月1日にイェンス・ヘルマンに取材。
- p.221 研究に従事し: BIOS Report No. 542, “Interrogation of Certain German Personalities Connected with Chemical Warfare”; Harris and Paxman, 55 (ハリス・ロバート、ジェレミー・パクスマン『化学兵器——その恐怖と悲劇』大島紘二訳/近代文芸社).
この合成殺虫剤を開発できれば: “Elimination of German Resources for War,” 1156-58.
- p.222 軍事目的で有効性が期待できる新たな発見は: Ibid., 1276-78.
- p.223 「誰もが愕然としました」: BIOS Report No.542, “Interrogation of Certain German Personalities Connected with Chemical Warfare,” 24-35.
英語の「タブー」: ティリーがおこなったカール・クラウフへの尋問; “Elimination of German Resources for War,” 1278-80.
シュラーダーは、ドイツ軍のために: BIOS Secret, Final Report 714, “The Development of New Insecticides and Chemical Warfare Agents,” by

- Gerhard Schrader, 22-23; CIOS Report 31, "Chemical Warfare Installations."
- ゲーリングに宛てた報告書: Tucker, 35. (ジョナサン・B・タッカー『神経ガス戦争の世界史——第一次世界大戦からアル=カーイダまで』内山常雄訳/みすず書房)
- 敵国民に恐怖感を生じさせ: Tucker, 36 (同上)
- p.224 アンブロスの仕事の大半: "Elimination of German Resources for War," 1256, 1278, 1409.
「ミスター・アンブロスとはいった何者なんだ?」: Ibid., 1261.
- p.225 かなりの情報を手に入れることができた: Ibid., 1280-95.
話した感じでは: Ibid., 1278.
- p.226 「ただの化学者」: DuBois, 5.
ケース#二一八七七 オットー・アンブロス博士: FIAT EP, June 14, 1946.
- p.227 彼の真意をはかりかねた: Ibid.
アメリカ軍の尋問センター: Kleber and Birdsell, 40, 45, 73, 454.
空気の臭いをくんくんと嗅ぐ: DuBois, 5.
- p.228 IGファルベンで、オットー・アンブロスほど重要な人物はほとんどいなかった: Stasi record, Dr. Otto Ambros file, BStU MfS HA IX/11 PA 5.380, "Report on the IG Farben Ludwigshafen and leading persons of IG Farben."
ブタジエン: Dwork, 199. 合成ゴムは、原料のブタジエンとナトリウムにちなんでブナと呼ばれた。
この仕事もオットー・アンブロスに委ねられ: Otto Ambros, affidavit, April 29, 1947, NI-9542. Archive of the Fritz Bauer Institute, Subsequent Nuremberg Trials. Case VI, PDB 75 (e) , 1-18.
「アウシュヴィッツからこんにちは!」: Dwork, 17.
- p.229 合成ゴムの製造には: Ibid., 197.
「場所の問題を解決するように」: DuBois 168-75; Dwork, 201.
- p.230 会社に宛てた公式報告書: DuBois, 172.
話し合うことが必要だ: Otto Ambros, Letter to Ter Meer and Struss, April 12, 1941, NI-11118. Archive of the Fritz Bauer Institute, Subsequent Nuremberg Trials, Case VI.
そこでSS将校たちは: Ibid.
IGファルベンは: Drummer and Zwilling, 80.
SSとわれわれの新たな友情: DuBois, 172; ファルベン工場はブナ=ヴェルケ、アウシュヴィッツ3と呼ばれる。ここで働くために選ばれた囚人たちは、午前4時に起床して点呼を受け、ゴム工場まで約6キロの道のりを行進し、10時間から12時間働いてから、また収容所まで行進して戻った。シフト中に囚人が死ぬと、労働者たちが遺体を担いで中心となる強制収容所まで戻り、火葬した: Jeffreys, 302-4.
- p.231 昨日あなたは: "Elimination of German Resources for War," 1262.
- p.232 アウシュヴィッツのIGファルベンの管理者はみんな知っています: Ibid.
- p.233 三〇から四〇のシルバーライン装置の図面: RG 319 Otto Ambros, File CML-SP-1a, February 9, 1949.
アンブロスに絶大な信頼を寄せる: Ibid.
強制収容所の労働者: RG 319 Otto Ambros, Case 21877, Microfilm Project MP-B-102; FIAT EP 254-82, June 14, 1946; File XE021877, April 14, 1958.
CIC関係者: RG 319 Otto Ambros, File CML-SP-1a, February 9, 1949.
- p.234 スパイネットワーク: RG 319 Otto Ambros, FIAT E 254-82, September 13, 1945.
IGファルベンの豪華なゲストハウス: Ibid.
彼がコールホーフ荘に住んでいることを突き止めた: Ibid.
- p.235 不審に思った: Tucker, 95 (ジョナサン・B・タッカー『神経ガス戦争の世界史——第一次世界大戦からアル=カーイダまで』内山常雄訳/みすず書房)
化学工場の責任者という仕事を手に入れたのだ: RG 319 Otto Ambros, FIAT E 254-82, September 18, 1945.
P・M・ウィルソン少佐はこの状況をもっと悲観的にとらえていた: RG 319 Otto Ambros, P. M. Wilson letter, September 4, 1945.
- p.237 愉しみにしています: Tucker, 95-96. (ジョナサン・B・タッカー『神経ガス戦争の世界史——第一次世界大戦からアル=カーイダまで』内山常雄訳/みすず書房)。ヒルシュキントがアンブロスに述べたことばは、タッカーがメリーランド州キャロル郡図書館所蔵の1967年7月21日付のヒルシュキントの手紙を引用している。
FIATとタール中佐の対立は: RG 319 Otto Ambros, FIAT E 254-82, September 13, 1945.
- p.238 〈ダストビン〉でおこなわれた最初の尋問: RG 330 Kurt Blome, Alsos report, July 30, 1945 (23 pages) .
話し込んでいる姿が頻繁に見受けられた: Ibid.
- p.239 クリーヴェは、受け取った報告書: RG 330 Kurt Blome, Alsos report, 2, 14, 16; RG Heinrich Kliewe, No. 655815-1, July 12, 1945.
彼が話すこと: RG 330 Kurt Blome, Alsos report, 1-23. アルソスの捜査官たちは最初に〈ダストビン〉で、次にハイデルベルクで、それから再び〈ダストビン〉でブローメに尋問をおこなっている。FIATの情報局長からの手紙によれば、アンブロスは1945年10月1日にオーバーウーゼルへ移された。
具体的な計画: Ibid., 4.
- p.240 命令した: Ibid., 6, 17.
歴史を見れば: Ibid., 17-18.

- p.241 ネットセルシュテットに白羽の矢を立てた: Ibid., 6.
感染したネズミをUボートに乗せて: Ibid., 11. ブローメによると、これはもともと衛生研究所のキスカルト博士の助手シュトラスブルガー博士のアイデアだったという。
- p.242 そこで、武装親衛隊の: Ibid.;; Elhard Geissler et al., *Conversion of Former Btw Facilities* (Berlin, Germany: Kluwer/Spring Verlag, 1998), 60も参照のこと。
さらに、研究を: RG 330 Kurt Blome, Alsos report, 6.
- p.243 トラウプは、致命的な: Ibid., 13.
- p.245 気になることを言った: Ibid., 18.
- p.246 赤軍がポーゼンの研究所を確保した: Ibid., 18.

第一〇章 雇われるか、吊るされるか

- p.247 われわれの仕事は: Taylor, 49.
- p.248 戦時中の残虐行為への罪悪感: Andrus, 57.
ブーヘンヴァルトで撮った残虐行為の映像: Ibid., 54.
- p.249 フンクは泣きはじめた: Andrus, 55-56.
- p.250 彼らは庭に坐って: Ibid., 57.
- p.252 五二人の〈アッシュキヤン〉収容者: 2012年から2013年にかけてジョン・ドラボイに手紙で取材; Dolibois, 133.
- p.253 彼が移送中に監督する収容者は: Dolibois, 133.
おしゃべりに興じていたナチたち: Ibid.
- p.254 ハンス・シャルフは、当時つけていた日記に: 2012年9月27日にカリフォルニア州でハンス＝クラウディウス・シャルフに電話で取材; Toliver, 16-18.
- p.255 「このひどい臭いは何なんだ?」: 2012年から2013年にかけてジョン・ドラボイに手紙で取材; Dolibois, 134.
- p.256 ルクセンブルクの空港: 2012年から2013年にかけてジョン・ドラボイに手紙で取材; Dolibois, 135.
- p.257 ハイリッヒ・ヒムラーでさえ彼を恐れていた: Last Days of Ernst Kaltenbrunner, CIA Center for the Study of Intelligence, September 22, 1993.
- p.258 中年の男: Dolibois, 137.
- p.259 書面にてナチ科学者雇用計画を承認した: History of AAF Participation in Project Paperclip, 0938-0942.
一般方針の策定: History of AAF Participation in Project Paperclip, 0941.
- p.261 〈バックファイア作戦〉: McGovern, 200-204.
元気いっばいにヴィア・ファーレン・ゲーゲン・エンブラント(イギリスに進撃するぞ)を歌っていた: Franklin, 99-100.
- p.262 「イギリスは汚い真似をしてくれたよ」: McGovern, 202.
一週間イギリス軍の「尋問を受け: History of AAF Participation in Project Paperclip, 0994.
茶色いつなぎの服を支給される: McGovern, 203.
いちばんの憎まれ者: 2012年10月14日にブレット・エクストンに手紙で取材。
情報源はアイランド・ファームの看守ロン・ウィリアムズ軍曹である。詳細は以下を参照のこと。http://www.islandfarm.fsnet.co.uk.
五人の: この5人とは、エーリヒ・ノイベルト、テオドア・ボッペル、アウグスト・シュルツェ、ヴィルヘルム・ユンゲルト、ヴァルター・シュヴィデッツキーである。プロジェクト・ペーパークリップの前のオーヴァーキャスト作戦の最初の契約のいくつかは彼らと結んだものだった。
- p.263 反米的なひどいジョーク: Neufeld, *Von Braun*, 212.
シプサーは、フォン・ブラウンが仲間にこう言うのを聞いた: Ibid., 502n.
フォン・ブラウンはのちにニューヨーカーのライター、ダニエル・ラングにそう語っている: Lang “A Romantic Urge,” 89-90.
プット大佐に選び出されて: History of AAF Participation in Project Paperclip, 1016.
- p.264 C-54軍用輸送機に乗り込んだ: Samuel, 185.
機体はすぐに雲を突き抜け: Ibid., 374.
- p.265 「みんなひどい船酔いに苦しんでたよ」: David Boeri, “Looking Out: Nazis on the Harbor,” NPR, August 19, 2010.
極秘軍事計画にこのうえなく理想的な場所: History of AAF Participation in Project Paperclip, 0997-0998.
オーヴァーキャスト作戦ホテル: History of AAF Participation in Project Paperclip, 0997-0998.
険悪な雰囲気: Ibid; ヘンリー・コルム情報将校は、ヴァージニア州フォート・ハントでコード名(P. O. Box 1142)という極秘のドイツ人戦争捕虜尋問計画に従事していたため、これらの捕虜たちの多くとすでに一緒に仕事をしてきた。
資本主義者のゲーム: Samuel, 380.
- p.266 ハミルはフォン・ブラウンから: McGovern, 207-8.
- p.267 すると、その男が: Neufeld, *Von Braun*, 215. ハミルが1961年10月9日におこなったスピーチを引用。
ハミルはのちに語っている: Ibid.;; McGovern, 208.
- p.268 ヒトラーと話していた: RG 319 Otto Ambros, FIAT file, November 7, 1945; FIAT EP 254-82, June 14, 1946.
キーマンである: Ibid.
アンブ羅斯はこんな返事をよこした: Ibid.

- p.269 LU (ルートヴィヒスハーフェン) でアンブロスを目撃: RG 319 Otto Ambros, Report by Captain Edelsten, August 28, 1945.
軍が駆けつけたときにはもう: Ibid.
- p.270 私設諜報センター: Ibid.
- p.271 昨日はお会いできず残念でした: RG 238 Otto Ambros, 201 File, letter from Ambros dated August 27, 1945.
〈ダストビン〉の調査書類をかなりたくさん: RG 330 Jürgen von Klenck, D-64032, July 25, 1952.
- p.272 フォン・クレンクは: RG 330 Jürgen von Klenck, summary report by Walter Spike, April 23, 1952.
オットー・アンブロスの右腕: RG 330 Jürgen von Klenck, summary report by Lawrence R. Feindt, July 25, 1952.
- p.273 人里離れた農場に埋められていた: RG 319 Otto Ambros, FIAT file, November 7, 1945.
- p.274 神経剤に関する大量の契約書: RG 319 Otto Ambros, IG Farbenindustrie AG Ludwigshafen, September 28, 1944, signed "Ambros."
詳細: RG 319 Otto Ambros, FIAT file, November 7, 1945.
私 (シュペーア): RG 319 Otto Ambros, SHAEF report, Microfilm MP-B-102; RG 319 Otto Ambros, FIAT file, November 7, 1945.
- p.275 アウシュヴィッツに (化学兵器) 施設を建設: RG 319 Otto Ambros, FIAT file, November 7, 1945.
ティリーの諜報報告書: Ibid.
ゲンドルフの金庫で発見された: Ibid.; RG 330 Jürgen von Klenck summary report by Lawrence R. Feindt, July 25, 1952.
別の可能性 an alternative theory: Ibid.
- p.276 逮捕状を発行した: RG 319 Otto Ambros, FIAT file, November 7, 1945.

第一章 押し迫る時間

- p.279 陸軍参謀本部情報部 (G-2) から統合参謀本部 (JCS) に移譲された: History of AAF Participation in Project Paperclip, 1032; Lasby, 107, 128; 2013年3月23日にクレアレンス・ラスビーに電話で取材。
JICの構造: 2013年5月24日にラリー・A・ヴァレロに電話で取材。
- p.280 JICが割り出したもっとも重要な予測: Ibid.; Valero, 1.
“公然の衝突”を避けようとするだろう: Valero, 4-5.
おそらくソ連に捕らえられ: Ibid., 5-6.
- p.281 運営組織に: RG 330 Defense Secretary, Joint Intelligence Objectives Agency. <http://www.archives.gov/iwg/declassified-records/rg-330-defense-secretary/>
- p.282 クラウスは戦時中に hands-on experience: NARA, Holocaust-Era Assets, Overview. クラウスは、この物語の陰の立役者である。彼の名が記載されている国務省のファイルのほとんどは今も機密扱いのまま。1946年に外国経済管理委員会の歴史編纂者が以下のように書いている。「著者が知る限り、〈セイフ・ヘイヴン作戦〉の発案者を特定している記録はない。しかし、さまざまな記録から見つけた証拠は、この計画の基盤となるコンセプトを作り上げたのはサミュエル・クラウスにちがいない、という多くの参加者の証言を裏付けている」。クラウスは第三帝国の文書の中央保管所であるベルリン文書センターの設立も手伝っており、このセンターに保管された多くの文書がニュルンベルク裁判で使用された。ナチ党員の書類の90パーセントが戦後も残存したため、陸軍情報部 (G-2) はドイツ人科学者たちの党員歴を明らかにするために同センターを利用した。
クラウスと同じ意見だった: Hunt 121-23; 2013年3月23日にクレアレンス・ラスビーに電話で取材; Bower, 164-65. 国務省のハーバート・カミングスは、「ドイツ人はもっともすぐれた科学者である、という偽のプロパガンダを軍はすっかり信じ込んでいた」と、戦争から数十年後にジャーナリストのトム・バウアーに語っている。
臆面もなく口にする: 2013年3月23日にクレアレンス・ラスビーに電話で取材。一二人以上 (のドイツ人科学者) がアメリカへ入国を許可されることはないだろう: Bower, 188.
- p.283 抑え込む案を考え出した: Truman Library, Howland H. Sargeant Papers, 1940-1943; Technical Industrial Intelligence Committee—General, 1944-1950.
違った形の賠償: Library of Congress, Technical Reports and Standards, PB Historical Collection, <http://www.loc.gov/rr/scitech/trs/trspb.html>. 公文局はじきに同じくらいあたりさわりのない「米国技術情報サービス」に改称されて広報活動を続行した。
- p.284 六〇〇〇万人の雇用: Marlow, “60 Million Jobs. Late Henry Wallace’s Dream Comes True,” Associated Press, April 6, 1966.
件名標目: Office of Technical Services, “Classified List of OTS Printed Reports,” John C. Green, Director, Library of Congress, October 1947. 両リストの管理を任されていたのが: Lasby, 129-31.
- p.285 専門知識: Ibid.
最初のドイツ人グループ六人: History of AAF Participation in Project Paperclip, 0990; Lasby, 119-21. この6人の名前については情報が食い違っており、一次資料でも二次資料でもリスト (のちに作成されたもの) が異なることに注意されたい。ドイツ空軍のテストパイロット、カール・バウアーはすでにアメリカに来てその後ドイツに送還されており、このことがさらなる混乱を招いている。

- 苦情をまとめたリストを作成し: History of AAF Participation in Project Paperclip, 1705. ライト・フィールドとその周辺の地図も含まれている。
- p.286 ライト・フィールドに最初に迎えられた科学者: History of AAF Participation in Project Paperclip, 0986, 0988.
アメリカに税金を払っていなかった: Ibid., 1720.
ヒルトップでは: Ibid., 0962.
紹介パンフレット: Ibid., 0992, 0988; Lasby, 120.
- p.287 耳にするだけで: History of AAF Participation in Project Paperclip, 1055.
自ら選んで: Samuel, 383.
- p.288 陸軍省の覚書: War Department General Staff Memo, MIL 920, September 26, 1946 (FOIA).
苛立っていた: Lasby, 123.
「檻に入れられた動物」のようだ: History of AAF Participation in Project Paperclip, 0989.
科学者たちの日常生活という形なきもの: Ibid., 0989-0990.
- p.289 身の毛もよだつような怪物メドゥーサ: 著者は、ニュルンベルク裁判所600号法廷を見学した。ニュルンベルク市立博物館音声ガイド: Henkel and Täubrich, 30.
出廷した二人の被告: 被告人のうち3人が出廷しなかった。ドイツ労働戦線のリーダー、ロベルト・ライはニュルンベルク刑務所の独房で自殺した。兵器業界の大家グスタフ・クルップは85歳という高齢のため裁判に耐えられないと見なされた。マルティン・ボルマンはベルリンから逃亡途中で行方不明となり、死亡したと考えられていた。
世界中のニュースが: Taylor, 279. 600号法廷の上部バルコニーには、20カ国から押しかけた250人のジャーナリストが詰め込まれていた。そのうちの80人はアメリカ人であった。主要戦争犯罪人裁判に比較的無関心に見えた国はドイツだけだった。裁判後、テルフォード・テイラー検事は「ドイツ人が直面した衝撃、恐怖、破壊を考えると、彼らに関心を持たせることはきわめて困難であることがわかった」と語った。
- p.290 尾翼に鉤十字が: 以下のサイトのライト・フィールド航空博覧会の映像より。
<http://www.youtube.com/watch?v=jrXTHMtX5Nc>.
最先端の科学技術を生かす: *The Code of Federal Regulations of the United States of America*, Volume 12, Title 15, p.2306.
プットに数えきれないほどの質問を: History of AAF Participation in Project Paperclip, 1020.
- p.291 プットはグリーンに関するメモを残した: Ibid., 1027-29; Lasby, 128, 306n.
航空資材補給局: 名称の変更に注意。1944年8月31日に陸軍航空軍技術事業部に改名。1945年7月1日に空軍技術事業部に改名。1946年3月9日に航空資材補給局に改名。
「関心表明書」: History of AAF Participation in Project Paperclip, 1021-1029.
- p.292 異議を唱え続けた: Lasby, 129-32.
一時的な軍事計画: History of AAF Participation in Project Paperclip, 0938.
- p.293 ウォレスは大統領に: 米国技術情報サービス、ウォレスからトルーマンに宛てた1945年12月4日付の手紙; Lasby, 133.
国民がこの計画について知れば: 1945年10月1日、陸軍省広報局はこの計画の隠蔽を指示し、2パラグラフのプレスリリースを発表したが、どの主要報道機関にも報じられなかった。このプレスリリースの見出しは「すぐれたドイツ人科学者たちがアメリカへ」だった。
民主主義的な雰囲気: History of AAF Participation in Project Paperclip, 1044-1050. (ウォレスがロバート・パターソン陸軍長官閣下に宛てた1945年11月9日付の手紙を含む) Lasby, 33-35.
大魔王サタンと重ね合わせた: 1942年8月5日にヘンリー・ウォレス・アメリカ副大統領がニューヨークのフリー・ワールド・アソシエーションにおこなったスピーチにて。
- p.294 大スクープ: Weindling, 83.
フランスで打ち合わせ中に: Bullard and Glasgow, 54.
- p.295 アメリカ陸軍の監視のもと、ハイデルベルクでルフトヴァッフェの医師たちに戦時中おこなっていた研究: History of AAF Participation in Project Paperclip, 1028.
それに続く計画: Benford, "Report from Heidelberg," 9, notes.
連合国管理理事会法第二五号: Gimbel, 175. 平和的研究は許可されていた。
ハリー・アームストロング: アメリカ空軍 (USAF) 伝記。当時の彼の公式な肩書は、ベルリンに本部を置く米国ドイツ軍政庁 (OMGUS) の航空師団軍医であった。
- p.296 きっかけを作ったのはエルウィン・H・ニッケルズ曹長だった: Bullard and Glasgow, 2.
そしてニッケルズが: Ibid., 18-20.
- p.297 ミネアポリスの診療所を閉鎖すると: Dempsey, 1.
家族とともにライト・フィールドに到着したころ: Bullard and Glasgow, 3, 6.
- p.298 彼はそう予測していた: Benford, *Doctor in the sky*, 29.
落とし戸があるのを見つけた: Bullard and Glasgow, 21.
一風変わった形をした小部屋: Ibid.; ライト・フィールド記録保管所の写真。
ライト・フィールドの技術課に許可を求める書簡を送った: Bullard and Glasgow, 6-8; Mackowski, 20.
- p.299 高高度で命を落とす原因: Bullard and Glasgow, 18-20.

- ウサギを解剖し: Ibid., 19.
アームストロングの発見: Dempsey, 5, 63, 116.
- p.300 ハレー彗星: Kokinda, 4, ハレー彗星は14日間続いた。
- p.301 見ると: Ibid., 6.
自己実験をおこない続けた: Mackowski, 43; 1922年に彼が医学部の卒業証書を手にした際の博士号論文のテーマは「皮膚の痛みの分布」だった。
- p.302 アドルフ・ヒトラーが: Mackowski, 46.
- p.303 シュトルークホルトは荷物をまとめて: Hasdorff, 10, 20.
- p.304 どちらかが気を失うまで: Thomas, 27-28; Hasdorff, 3.
人間と猿: Thomas, 32; Mackowski, 51.
- p.305 リスクを恐れぬ者にとっての天国: Thomas, 37-38.
ナチ党员: Ibid.; ドイツ連邦公文書館ルートヴィヒスブルク支所所蔵の写真。注釈: ウテ・ダイヒマンは *Biologists under Hitler* で、医者または教授になるためにナチに入党する必要はまったくなかったと説明している。大学の教職(ドイツ語で *Habilitation*) に就くために国家社会主義ドイツ労働者党(NSDAP) の党员になることは義務づけられていなかった。医師のうち党员は45パーセントだけである。31歳から40歳の科学者のうち63パーセントが入党した(Mackowski, 65)。
「われわれの研究はどれも大きな危険を孕んでいる」: トーマスとのインタビューでシュトルークホルトは、ナチ党入党への圧力に屈しないように何度も策略をめぐらさなければならなかったことをこの話を使って説明した。彼は、ナチ党高官に低圧実験を自分で試してみるよう提案したという。「あれはうまくいった」とシュトルークホルトはトーマスに語った。「年上の方が若い方にこう言ったんだ。「上級参事官君、われわれはあと5分で行かなくては。ここでぐずぐずしてはいられないよ」」
- p.306 パイロットの生理学的な課題は大きくなった: Heinz Beauvais, “Performance and Characteristics of German Airplanes in Relation to Aviation Medicine,” *German Aviation Medicine in World War II*, Volume I, 55-68; Eckart, *Man, Medicine, and the State*, 117.
- p.307 一分野を任せた: Ibid.
ベンジンガー: RG 330 Theodor Benzinger; Benford, “Report from Heidelberg,” 6. ベンジンガーは、帝国航空省技術局の研究部門で医学研究の責任者も務めていた。
熱心なナチ党员: Bundesarchiv Militärarchiv Freiburg, Benzinger file, Pers 6/138768; RG 330 Theodor Benzinger, JIOA Form No.2.
この考えに突き動かされて: Benford, “Report from Heidelberg,” 6.
- p.308 ベンジンガーは航空医学の研究に従事しただけでなく: RG 330 Theodor Benzinger, JIOA Form No. 2, June 1947; War Department, Intelligence Division, Basic Personnel Record, n.d.
- ルフもナチであることを公言する熱心なナチ党员だった: HLSL Item No. 28, 995.
彼が第三帝国から監督を任せられた: Alexander, “Exposure to Cold,” 17, 39; HLSL Item No. 28; HLSL Item No. 995.
いくつかの論文を共同執筆し: Weindling, 23, ワインドリングによれば、アメリカ陸軍航空隊は国中の航空医官と空軍基地に250から300部を配布したという。
- p.309 共著: Weindling, 372n.
戦時中シェーファーは: HLSL item 1878.
- p.311 そこでもひとつのコンテストが提案された: HLSL Item No.80 HLSL Item No. 83, NMT Trials Document No. 02626002.
同僚たちはベッカー = フライゼンクを非常に尊敬しており: HLSL Item No. 229.
彼が低圧室でウサギとともに起こった自己実験: Ibid.; HLSL Item No. 83.
- p.312 麻痺の兆候: HLSL No. 2626.
研究を続けることとなった: Benford, “Report from Heidelberg,” 3-28.
- p.313 軍人らしいポーズをとった: Ibid., 4.
この施設は: Ibid., 36; Exhibit 5.
なかには: Ibid., 1, 10-16. 写真を見ると、フライジングの低圧室は施設の隅に設置されていた。説明文には、「低圧室はフライジングのミュンヘン航空医学研究所からハイデルベルクに移された」と書かれている。
- p.314 戦争犯罪に関与したと思われるドイツ人医師の数: Weindling, 1, 162.
- p.315 機密文書とされた: Office of U.S. Chief of Counsel, APO 124-A. U.S. Army List of Personnel Involved in Medical Research and Mercy Killing, n.d. (FOIA) .

第一二章 黙示録的スケールの総力戦にそなえて

- p.316 一九四六年一月末: Lasby, 185. ラスビーが書いたところによると、陸軍長官は国内に130人の科学者がいて、さらに約140人が近い将来到着することを明らかにしたという。ロケット科学者たちの一団は1月15日に入国し、彼らがフォート・ブリスに着くまでにそれから1カ月強かかった。
二階建ての仮設宿舎に住み: McGovern, 210.
なんともロマンティックで、カール・マイの物語の中にいるようだ: Neufeld, *Von Braun*, 222; ノイフェルドは、このSF小説の執筆は1947年にはじまったと述べている。
われわれはこの国で見たことに絶望していた: Lasby, 116にて引用; ホワイ トサンズでおこなわれたすべてのロケットの飛行をまとめたV-2発射表は以

- 下を参照。www.wsmr.army.mil.
- p.317 実際のロケット発射: McGovern, 211.
翼のひとつが落下してしまった: Neufeld, Von Braun, 220.
- p.318 結婚を決めた: Ibid., 228.
雇用条件: Huzel, 217.
プール: Franklin, 102.
信用のおけないナチ親衛隊の将官たちが半ダース東になった: RG 65 Magnus von Braun, September 25, 1948; RG 330 JIOA list: Neufeld, *Von Braun*, 508n.
- p.319 クラブ・マネジャーの任務: Bower, 200.
- p.320 仕事の機会: History of AAF Participation in Project Paperclip, 1030-1050.
グループ内から噴出した不満: Ibid., 0989; Bower, 158.
パティーンの産業的展望: RG 319 Albert Patin, "Statements Made by Paperclip Specialist Albert Patin, 18 October 1948."
- p.321 戦中にヒトラーの側近たちと近づきになることが: Ibid.
- p.322 ドイツ人の士気を高め: History of AAF Participation in Project Paperclip, 0989-990; Bower, 158-60.
サムフォードたち: History of AAF Participation in Project Paperclip, 1008, 1055.
最大の嵐を呼ぶことになった: Bower, 161.
- p.324 陸軍省長官となっていたロバート・パターソンは: Maxwell AFB History Office document. Memo, Patterson to Secy, General Staff, May 28, 1945, Subj: "German Scientists"; Lasby, 71, 303n.
- p.325 干渉されずに自由を与えられた: Bower, 165-68.
- p.326 新たな実施要項: History of AAF Participation in Project Paperclip, 1190-1192; Bower, 168.
- p.327 ナチ科学者雇用計画はペーパークリップ作戦と呼ばれるようになる: History of AAF Participation in Project Paperclip, 1190-1192.
マクナーニがJIOA宛てに手紙を出し: RG 319, JIOA, General Correspondence 1946-1952.
これらの人物は: Bower, 176.
- p.328 アメリカの"国益": Ibid.; Lasby, 174-75.
伝説として残るほど有名な「長文電報」: Thompson, 59. この電報は、1946年2月22日に送られた。ケナンの正式な肩書は「ソヴェト連邦駐在アメリカ代理大使」であった。
米ソ関係: "American Relations with the Soviet Union," September 24, 1946; Report by Clark Clifford, Subject File; Conway Files; Truman Papers.

- p.329 一〇〇〇人の科学者: リストにオーストリア人は12人しかいなかったにもかかわらず、公式綱領には「オーストリア人」ということばも加えられた。
大統領の正式な承認が得られたことにより: History of AAF Participation in Project Paperclip, 1190-1192. 2013年3月23日にクレアレンス・ラスビーに電話で取材。1963年6月3日、ラスビーはトルーマン元大統領にインタビューをおこない、元ヒトラーの科学者の集団雇用という元大統領の極秘の決定について尋ねた。トルーマンは、当時アメリカとロシアが危険な関係にあったために、「くださなければならない決定だったからそうしたのだ」と答えた。これらの元ナチは「常にアメリカ人の“ボス”が監督するべきだ」とトルーマンは主張した。
- p.331 「医師として」: RG 238 Kurt Blome, 201 Prisoner File, May 9, 1946.
掘り起こす: Deichmann, 282-89.
ポーゼンのプロローメの施設と: Covert, 21, 2, 273人の職員のうち、1,770人が軍人だった。
一九九種類の細菌爆弾のプロジェクト: Regis, 79. (エド・レジス『悪魔の生物学——日米英・秘密生物兵器計画の真実』山内一也訳/河出書房新社)
- p.332 極秘計画: Covert, 15; Regis, 93. (エド・レジス『悪魔の生物学——日米英・秘密生物兵器計画の真実』山内一也訳/河出書房新社)
- p.333 ワクチンの製造と販売を手がけ: "Key Facts About Merck," Associated Press, November 3, 2005.
肩書も持っていた: RG 330 Walter Schreiber, File RT-758-48, December 17, 1948.
- p.334 シュライバーはドイツ国防軍最高司令部 (OKW) の: RG 330 Walter Schreiber, "Memorandum to President Truman from Boston physicians," February 1952.
- p.335 尋問施設を転々とし: RG 330 Walter Schreiber, "The Case of Walter Schreiber," February 17, 1952.
シュライバーが証言台に立ったのは: HLSL Item No. 286.
- p.336 ドイツ国防軍の医学の指揮系統: RG 330 Walter Schreiber, Report: Interrogation of General Schreiber December 16, 1948.
- p.337 彼を招いている: RG 330 Walter Schreiber, Dr. Alexander and Hardy's letter to the Physicians Forum, February 1952; NMT-1 Document No. 922.
- p.341 プロローメが第三帝国のために実施していたペスト研究: HLSL Item No. 286.
- p.342 プロローメが駐屯地付き医師として働いていた: RG 238 Kurt Blome, 201 Prisoner file, May 9, 1946.
刑務所施設: Henkel and Taubrich, 32.
「状況報告書に、ある内密の変更」: RG 238, Kurt Blome 201, Prisoner

- file, No. 31G5173069.
- p.343 五八人のドイツ人医師: Benford “Report from Heidelberg,” 1-5, photograph Exhibit 16. 軍はヘルムホルツ研究所を徴発し、シュトルークホルトを年28,000マルクで所長に据えることもしていた。ヘルムホルツ研究所は、それまでT4作戦という安楽死計画の監督者フィリップ・ポウラーの本拠地であった。
結果はすべてシュトルークホルトに報告され: Benford, “Report from Heidelberg,” 37.
航空医学センターを定期的に訪れる: Ibid., 20.
二巻の研究論文にまとめられる: Ibid., 1-2.
- p.344 五通の逮捕状: RG 238 Theodor Benzinger, 201 File.
被告二三人: Weindling, 6; 16人のナチの医師、4人の非党員の医師、3人のSS行政官。
- p.345 より邪悪: *New York Times*, “Germans on Trial in ‘Science’ Crimes,” December 10, 1946.
大学用の「下等人種」の骸骨コレクション: RG 319 August Hirt, OSS Biographical Report, n.d. ある生徒によれば、ヒルトは顎の一部が欠けていて、そのせいで話すときに「シューシューという音」がしたという。
- p.346 小物: *New York Times*, “Germans on Trial in ‘Science’ Crimes,” December 10, 1946.
かつて国際的に尊敬を集めていた: 2012年8月3日にドイツにてゲッツ・ブローメ博士を取材: Report on the Third International Congress for Medical Postgraduate Study, 1937 and 1938.
医師たちの名前: “Nazi ‘Doctors’ to Be Tried Next,” *Stars and Stripes*, October 12, 1946.
一九四二年一〇月にニュルンベルクで: Bundesarchiv Ludwigsburg, Dr. Hubertus Strughold file, 828/73.
映写会: HLSL Item No. 1320; NMT-I Document No. 224.
- p.347 それは犯罪にはならない: 2013年2月19日と4月10日にロルフ・ベンジンガーに取材。
映像が終わり: NMT-1 Document No. 224, August 21, 1946.
これに対しベンジンガーは: Wright Library Papers. Sworn Statement of Theodor Hannes Benzinger,” U.S. Department of Justice, Office of Special Investigations, November 22, 1983; 2013年2月19日と4月10日にロルフ・ベンジンガーに電話で取材。
- p.348 ニュルンベルクの刑務所でひと月と少し過ぎながら: RG 238, Theodor Benzinger, 201 File.
ライト・フィールドで: Weindling, 192. 何年も経ってから、テオドア・ベンジンガーはジャーナリストのリンダ・ハントの取材で、ニュルンベルクでの

逮捕および投獄はシュトルークホルト博士のせいだと述べた。ベンジンガーによれば、博士は自分の戦争犯罪への関与から捜査の目を逸らすために彼を「はめた」という。シュトルークホルトは「自分の立場があまりにも危なかったため、誰かに罪をなすりつけなければならなかった。彼はあらゆる犯罪者の間に押し込まれ、そこから抜け出すために私を密告したのだ」と、ベンジンガーはハントに語った。

「尋問はずさんなものだった」: Weindling, 193.

残された医師のうち三四人: Bullard and Glasgow, 64-66.

p.349 量刑が発表された: Steinbach, 84.

p.350 死刑囚には: Andrus, 186.

交互に隠していた: Ibid., 184. テイラーは自著で、テキサス出身のアメリカ人看守がゲーリングが毒入りの小瓶を隠すのを手助けしていたかもしれない、と示唆している。

p.351 川: Andrus, 198. テイラーは自著でこのことにも言及しているが、事実として立証することはできなかった、とつけ加えている。

あの一人のナチを絞首刑にした: 1946年10月28日付タイム34ページの引用。

第一三章 科学のためなら代価をいとわず

p.353 国務省は: Bower, 180.

p.354 ベルリンを拠点とするソ連軍の新聞: *New York Times*, “U.S., Britain Hold German Experts, Berlin Communist Papers Charge,” October 27, 1946.

アメリカ市民権を申請し: “U.S. To Offer Citizenship to German Scientists,” Associated Press, November 24, 1946.

「秘密にすべき情報を取り除いたクリーン・バージョン」: History of AAF Participation in Project Paperclip, 0874-0875.

p.355 「もっと大勢アメリカに来てほしい」: “Nazi Brains Help Us,” *Life*, December 9, 1946; *Newsweek*, December 9, 1946, pp. 68-69; Herbert Shaw, “Wright Field Reveals Project Paperclip,” *Dayton Daily News*, December 4, 1946.

p.356 当アメリカ陸軍部隊は: RG 330 Emil Salmon, JIOS Form No.3.

写真を提供した: タイムとライフの写真は現在ゲッティ・イメージズが扱っている。撮影者は、トーマス・D・マカヴォイ。

p.357 科学者たちのニュース: History of AAF Participation in Project Paperclip, 0867-0871; Lasby, 186; Hunt, 36.

p.358 われわれは、彼らが敵国の国民だから反対しているのではない: Bower, 189.

- p.360 三〇を超える部屋: O'Donnell, 24.
レイヴン・ロック・マウンテン・コンプレックス (またはサイトR) や、ヴァージニア州ブルー・リッジ・マウンテンのマウント・ウェザー: 2012年から2013年にかけてネヴァダ州でレオナルド・クライスラー博士に取材。クライスラーは、1950年代半ばから末にかけて〈フォート・デトリック〉とサイトRの駐屯地付き医師を務めていた。
第三帝国のデマグ自動車社: Bundesarchiv Ludwigsburg, Georg Rickhey file, B162/25299.
建設を監督していた: RG 330 Georg Rickhey, "Condensed statements of my education and my activities," March 4, 1948; "Transcript of Conference of May 6, 1944 in the office of Director General Rickhey." この文書はアメリカ司法省特別調査室のもの。
- p.361 リッカーとパティーンが仕切るライト・フィールドの闇市場: RG 319 Georg Rickhey, Summary, "George Rickhey's mail from wife, sister, brother," October 7, 1946.
ギャンブルをすることを好んだ: Ibid.
- p.362 怒りが爆発した: RG 330 Hermann Nehlsen, October 17, 1947.
プットがパティーンと紳士協定を結び: RG 330 Georg Rickhey, May 19, 1947; Hunt, 38.
- p.363 ライト・フィールドの手紙検閲官: RG 330 Hermann Nehlsen, October 17, 1947; Hunt, 37-42.
目撃者の一人: RG 330 George Rickhey. Memorandum for the Director of Intelligence, December 19, 1946.
ペンタゴンの命を受けて: Ibid. ルイス大佐も「アメリカへの移送要請が提出された科学者たちのより包括的な調査」を要求した。
- p.364 五年契約: RG 330 Georg Rickhey, Document No. 1258.
勧めることにした: RG 319 Georg Rickhey, December 19, 1946.
ネルソンは、宣誓供述書で: Ibid.
ヴェルナー・フォス: ヴェルナー・フォスは供述を二回変えている。 *United States of America v. Arthur Kurt Andrae et al.* 予備調査ファイル1巻にあるスミスによるヴェルナー・フォス尋問。
- p.365 フォート・ブリスでは、ドイツ人ロケット専門家たちは夜になると: Huzel, 215: ディーター・フーツェルによれば、これらの人々は「戦争の重大な結果から逃れたことを喜ぶごく普通の人たちであり、ほかにすることが何もなくして仕事に情熱を傾けた……食べ物も素晴らしかった」
- p.367 調査結果: Major Eugene Smith to Air Provost Marshal, "Investigation Regarding Activities of Dr. Georg Rickhey, Former Director-General of the Underground Mittelwerk Factory Near Nordhausen, Germany," June 10, 1947, in *United States of America v. Arthur Kurt Andrae et al.*, Preliminary Investigation file, roll 1; Hunt, 62-69.
SS将校三〇〇〇人: Aalman, postscript.
- p.368 小さな見出しが眼に入った: Bower, 201. 調査の中で私がかもっとも好きな瞬間のひとつが、パウアーの著書でこの引用を見つけたときだ。
準備を進めている: RG 330 Georg Rickhey, Office of the Deputy Director of Intelligence, Hq., European Command, n.d.
- p.369 リッカーのドイツ送還に同行する: RG 319 Georg Rickhey, May 19, 1947.
少なくとも二万人の労働者: *United State of America v. Arthur Kurt Andrae et al.*; 裁判のデータ、容疑、事実認定、判決のコピーは、ジョン・F・ケネディ大統領図書館・博物館のサイトから閲覧することができる。
元SS用兵舎: 著者は元SS用兵舎を個人的に見学した。
- p.370 これは前例のないことだ: Hunt, 77.
コックスの言ったこと: RG 330 Georg Rickhey, Office Memorandum, March 1948.
- p.371 仕事に打ちこみ: RG 330 Siegfried Knemeyer, Report on Siegfried Knemeyer, Siegfried, n.d.
田舎暮らしがいやでたまらなかった: 2012年5月21日にカリフォルニア州でディルク・クネーマイヤーに取材。
多大な貢献をするようになった: RG 319 Siegfried Knemeyer, "Knemeyer contributions to Wright Field."
作り出す天才: Knemeyer, 63.
- p.372 土壇場で変更になった: History of AAF Participation in Project Paperclip, 1447; バウムバッハとペロン、ハンス・ウルリッヒ・ルーデルの写真コレクション。
「第一級の脅威」: Lasby, 113; 2013年3月23日にクレアレンス・ラスビーに電話で取材。彼は、1960年代半ばに175人のペーパークリップ科学者を取材し、手紙のやりとりをした。
- p.373 この計画は立ち上げる必要がある: ミュンヘンのドイツ博物館所蔵のドルンベルガー・ファイル。この論文のタイトルは「ヴァルター・ドルンベルガーによる誘導ミサイルの集中的開発 vs 分散的開発」であった。
怒りの声が噴出した: 1947年2月1日-2日、ニューヨーク、アメリカ科学者連盟 (FAS) 評議会会議事録; "Hiring of German Scientists," W.A.S. Bulletin, February 1947; Lasby, 201.
- p.375 脅迫状を送る: History of AAF Participation in Project Paperclip, 0132.
- p.376 夫妻のドイツの隣人たちは: RG 330 Herbert Axster, "The Axster Couple," March 25, 1948.
ヘルベルトはウィスコンシン州ミルウォーキーで法律事務所を開設した: Hunt; Bower, 206-7. のちにこの夫婦は西ドイツへ帰国した。

説明を求めた: Lasby, 207; Delbert Clark, *New York Times*, “Nazis Sent U.S. as Technicians,” January 4, 1947.

第一四章 不可解な判決

- p.378 被告人にどんなに重い刑罰を与えても: HLSL Item No. 565.
- p.379 両方の言語で: Papers of Dr. Leopold Alexander, Duke University Medical Center Archives, “Log Book, Journey to Nuremberg.”
ニュルンベルク綱領を起草して: Schmidt, *Justice*, 169. シュミットは以下のように書いている「開廷二日前の1946年12月7日、アレグザンダーはテイラー（准将）に宛てた人体実験の倫理に関するふたつの重要な文章のうち最初のひとつを書き終えた。ふたつ目の文書は1947年4月に完成した。どちらも検察チーム内でおこなわれた人体実験に関する議論に役立ち、最終的にニュルンベルク綱領の一部となった」。シュミットは自著の第7章にニュルンベルク綱領の詳細を記載している。
- p.380 ルフは裁判官たちにそう訴えた: HLSL Item No. 28, HLSL Item No. 995.
- p.382 決闘の傷: 写真NMT-1、バイグルベックの横顔。
- p.383 ダガーナイフがしっかりと握りしめられていた: 2012年1月17日にヴィヴィエン・スピッツに取材。二次的な説明では、ヘーレンライナーがバイグルベックを殴ったかひっばいたと言われている。ヴィヴィエン・スピッツは実際に現場にいたため、本書では彼女の説明を採用している。
その手は: Spitz, 161.
法廷内に衝撃が走り: Ibid.
- p.385 「胸がつぶれそうだったわ」: 2012年1月17日にヴィヴィエン・スピッツに電話で取材。
- p.386 大きな葛藤があった: Papers of Dr. Leopold Alexander, Duke University Medical Center Archives, “Log Book, Journey to Nuremberg,” n.d.
途方もない怒り: Schmidt, *Justice*, 237.
- p.387 証言を続ける: *United States of America v. Karl Brandt et al.*, July 1, 1947.
「あなたがたジブシーはいつも共謀しているんだよね?」: Spitz, 172.
- p.388 テイラーに個人的な手紙を書いて: Alexander Papers, Harvard Law School Library, Box 2, Letter to Brigadier General Telford Taylor, December 7, 1946.
記憶によれば: Alexander Papers, Harvard Law School Library, Box 2, Letter to Mrs. Alexander, November 27, 1946.
文書が多数: HLSL Item No. 180; HLSL Item No. 194; HLSL Item No. 279.
ブローメ側の主張: HLSL Item No. 276.

- p.390 偽善的な人間に見せる: Schmidt, *Justice*, 135.
無罪判決を受けたナチの医師は七人で: HLSL Item No. 184; HLSL Item No. 185; HLSL Item No. 186.
アームストロング大佐の“専門知識アドバイザー”: RG 330 Hubertus Strughold, JIOA Form No. 3.
全般の監督: Ibid.
- p.392 ユダヤ人が医学校に押しかけて来る: RG 263 Central Intelligence Agency, Hubertus Strughold file, A-1-2062. このファイルは、ナチ戦争犯罪情報公開法によって2006年に強制的に機密解除および公表されるまで、機密扱いとなっていた。
「倫理原則」: RG 330 Hubertus Strughold, “Sworn Statement of K. E. Schäfer,” September 23, 1947.

第一五章 化学の脅威

- p.395 クラウスは国務省の覚書にそう書いている: Hunt, 107-9.
- p.396 保安報告書: RG 59 General Records of the Department of State, Doc. No. 862.542; Bower, 176, 237-39.
- p.397 職場でもナチの制服を着用していた: RG 330 Kurt Debus, File No. D-34033.
なにより厄介なのは: RG 330 Kurt Debus, File No. 384.201.
写しを提出した: Ibid. デーブスのファイルに、ドイツ語と英語の完全な写しがある。
一九四二年一月三〇日、「クレーマーは: RG 330 Kurt Debus, “Certified True Copy, F. C. Groves,” n. d.
- p.398 保証人にはハインリッヒ・ヒムラーの名が記されていた: Hunt, 44.
クラウスがビザ発給関連書類への署名を断固として拒否しているために: Bower, 180-81.
- p.399 タブン神経剤合成専門家: RG 330 Friederich Hoffmann, Basic Personnel Record.
人生を捧げてきた: Johnson, 2, 5-14; Loucks Papers (USAMHI), U.S. Army Military History Institute, Department of Defense Press Office, Biography of Charles E. Loucks.
- p.400 ミッキーマウス仕様: Brophy et al., 264. ルークス少佐は、エッジウッドの技術主任として全兵士のガスマスクを最新のものにする責任者だった。
焼夷弾: Johnson, 202; Loucks Papers (USAMHI), photographs.
大隊を四〇〇以上: Mauroni, 13.
ルークスたち専門家: Johnson, 59.
- p.401 ホフマンは: RG 330 Friedrich Hoffmann, Security Report by

- Employing Agency.
- p.402 哲学の博士号: 2012年9月27日と10月17日にガブリエラ・ホフマンに電話で取材。ホフマンの私文書。
命を賭して: ホフマンの私文書: 2012年10月19日にジョン・ディッペルに電話で取材。
- p.403 兵舎でアメリカ人兵士と一緒に寝泊まりすることになった: ホフマンの私文書。
新しい殺虫剤: RG 330 Friedrich Hoffmann, JIOA Form 3.
- p.404 コード名〈AI・13〉: Tucker, 104 (ジョナサン・B・タッカー『神経ガス戦争の世界史——第一次世界大戦からアル=カーイダまで』内山常雄訳/みすず書房)。タブンのコード名はGA、サリンはGB、ソマンはGDだった。
アメリカよりもはるかに進んでいる: U.S. Army monograph, “Soviet Research and Development Capabilities for New Toxic Agents,” Project No. A-1735, July 28, 1958, 6-7.
多大なプレッシャーがあった: Krause and Mallory, 114-18. ルークスは、タブン製造の最大の障害は、タブン・ガスの高い腐食性に耐える精密設計された銀メッキ加工の調理釜がないことだと考えていた。この釜こそ、1945年7月にオットー・アンブロス逃走という失態を招いた原因であった。
- p.405 “高次元の成果”: RG 330 Friedrich Hoffmann, JIOA Form 3.
サリンの製造努力を高め: Loucks Papers (USAMHI), “Germans Have Nerve Gas: 9GB0” (手書きの文書)。ルークスは、エッジウッド兵器工場の陸軍化学センターの指揮官を務めるほか、同センターの研究開発担当化学副将校でもあった。
- p.406 アメリカ合衆国対カール・クラウフ他: クラウフの名前はKとCの両方で綴られていた。
- p.407 それは、アメリカ陸軍が: Bower, 193.
神経剤を使用することを主張していた: Tucker, 35. (ジョナサン・B・タッカー『神経ガス戦争の世界史——第一次世界大戦からアル=カーイダまで』内山常雄訳/みすず書房)
将軍に作戦の概況が告げられた: Bower, 189, 194-95.
広報: Bower, 195.
- p.408 サミュエル・クラウスを厄介払いする: Hunt, 132, 133.
不快なほど扱いにくい: Bower, 189.
- p.409 スキャンダルによって陸軍省まで崩壊する: Bower, 189, 194-95.
設立された: Center for Studies in Intelligence, “A Look Back, The National Security Act of 1947.” 以下のサイトで閲覧可能。www.cia.gov.
- p.410 タブン実験を観察する: Office of the Historian, U.S. Department of State, Memorandum from the Director of the Central Intelligence Dulles to Secretary of Defense Wilson, “Subject: Research on

- Psychochemicals,” December 3, 1955.
背が低かった: 2012年10月17日にガブリエラ・ホフマンに取材: ホフマンの私文書 (写真)。1960年代、グリーン一家とホフマン一家は近所に住んでいた。
独創的なビジョン: L. Wilson Greene, “Psychochemical Warfare: A New Concept of War,” Army Chemical Center, August 1949; Memorandum from Director of Central Intelligence Dulles to Secretary of Defense Wilson, December 3, 1955, Document 244, “Research of Psychochemicals,” U.S. Department of State, Office of the Historian.
- p.411 幻覚誘発剤または精神異常発現薬: U.S. Army Inspector General, Report, DAIG 21-75, p.12.
その結果起きる: L. Wilson Greene, “Psychochemical Warfare: A New Concept of War,” Army Chemical Center, August 1949; U.S. Army Inspector General, Report, DAIG 21-75, pp.12-14.
これらの合成物: Ibid.
ホフマンは、エッジウッド兵器工場: ホフマンの私文書; 2013年3月22日にガブリエラ・ホフマンに電話で取材; 2012年11月7日にジェイムズ・クッチャム博士に電話で取材; Hunt, chapter 10.
- p.412 世界中を旅する: ホフマンの私文書; 2012年9月27日にガブリエラ・ホフマンに電話で取材。
- p.413 「ブラック・マリア»: Covert, 39-40.
〈8ボール〉: 著者は2012年7月20日にフォート・デトリックを訪問した; Covert 40, 83, 95.
- p.414 ペーパークリップ作戦の候補者に復帰した: RG 319 Kurt Blome, October 2, 1947, Ref No. 3047; パチェラーの同僚ノーベルト・フェル博士は日本から戻ったばかりだった。フェルは、旧満州の秘密施設でおこなわれていたコード名「防疫給水部731部隊」という日本軍の生物兵器計画の指導的人物、石井四郎中将与と秘密裏に協働していた。アメリカ化学部隊は石井中将与と取引をし、石井は免責と引き換えに戦時中の任務の「テーマ全般に関する論文を作成する」ことに合意した。石井が英語で書いた60ページの報告書は、「人間を対象とした生物兵器活動を、全詳細と図表を含め全面的に公開するものになると期待されたが、価値はなかった。フェルは1947年6月に〈キャンプ・デトリック〉に戻り、ハロルド・パチェラーはドイツを訪れる準備をした。フェルはのちに自殺を遂げる。
“極秘——部外秘”と書かれた: RG 319 Kurt Blome, October 2, 1947.
- p.415 すべて機密扱いとされる: RG 319 Kurt Blome, “Report of Interview of German Scientist, German Research on Biological Warfare,” 86.
“生物兵器 (BW) の研究はすべて”: Ibid., 86.

- p.417 リームス島に第三帝国の前哨基地があった: Ibid., 89.
- p.420 どの伝染病よりも注目を浴びていた: Ibid., 98.
伝染病の部署の監督者だったシュライバー: Ibid., 99.
- p.421 彼を知る人はみな: Ibid., 99.
エーリッヒ・トラウブについて知っている情報をすべて: RG 330 Erich Traub, JIOA Form No. 2, Basic Personnel Record.
- p.422 ドイツに戻ることを選んだ: RG 330 Erich Traub, Military Government of Germany, Fragebogen (questionnaire).
- p.423 彼を誘い出す: RG 330 Erich Traub, JIOA No. 461. 1948年5月、トラウブはロシア人によってこの施設の所長に任命された。このころに、イギリス情報部の助けを借りて逃亡を企てるようになった。1948年8月20日に次のようなメモが書かれ、彼の調査書類に添付された。「彼は口蹄病の培養物を持ってソ連占領地区から逃亡し、それをマールブルクのペーリングヴェルケ社に保管した。イギリス、カナダ、アメリカのいずれかで職を得ることを望んでいる」。1949年7月1日にペーパークリップ契約を結んだ。
ブローメから聞いた: RG 319 Kurt Blome, "Report of Interview of German Scientist, German Research on Biological Warfare," 93.

第一六章 頭のないモンスター

- p.424 准将に昇進して: Louks Papers (USAMHI). ルークスは1944年12月11日付で准将に昇進した。その後大佐に戻った後、1951年1月に陸軍化学センターの指揮官に任命された。
リチャード・クーン元所長と仕事上の協力関係を: Louks Papers (USAMHI). Speech to the Daughters of the American Revolution, Lynchburg Chapter, n.d.
ソマン神経ガスの開発者: Tucker, 63, 89, 91-92 (ジョナサン・B・タッカー『神経ガス戦争の世界史——第一次世界大戦からアル=カーイダまで』内山常雄訳/みすず書房)
- p.425 ナチと共謀: Loucks Papers (USAMHI), Letter to Mr. L. Patrick Moore, April 12, 1949.
思っていました: Loucks Papers (USAMHI), speech to the Daughters of the American Revolution, Lynchburg Chapter (n.d.)
スイス精神医学協会とチューリッヒ医師協会の集まり: Loucks Papers (USAMHI), speech to the Daughters of the American Revolution, Lynchburg Chapter (n.d.). ルークスはこの演説のために、三つの原稿——タイプされた原稿、手書きの原稿、タイプされた原稿に注釈を書き加えたもの——を書いた。
- p.426 帰宅して: Loucks Papers (USAMHI), "Desk Diary, 1948."

- 「国籍不明の色黒の外国人」: Ibid.
「リセルグ酸ジエチルアミド」: Loucks Papers (USAMHI), "Lysergic Acid Compound."
- p.427 精神科で大いに活用できる向精神薬: Robert Stone, "Albert Hoffmann, b. 1906: Day Tripper," *New York Times*, December 24, 2008.
初めてLSDを紹介する: Stafford, 30.
ペーパークリップ作戦の医師と化学者: これらの計画がもともとチャールズ・E・ルークス准将を通してペーパークリップ作戦とつながっていたことは、本書で初めて実証された。
「役に立てる」: Loucks Papers (USAMHI), "Desk Diary, 1948."
- p.428 彼らには、サリンのサンプルを与えたり: Loucks Papers (USAMHI); Johnson, 53-54.
入れ歯を: RG 330 Walter Schieber, JIOA Form No. 2, Basic Personnel Record, n.d.
ヒトラーの信頼できる側近: Bundesarchiv Berlin-Lichterfelde, Dr. Walter Schieber file, No. 39002.
個人スタッフとしてハインリッヒ・ヒムラーにも仕えていた: Ibid.
- p.429 技師として、化学者として: RG 165 Walter Schieber, "Schuster File," Report from Dustbin, 31 pages.
強制収容所の兵器工場の設計: Allen, 176.
「栄養」計画を作成したのだ: Schmidt, *Karl Brandt*, 262.
- p.430 「IGファルベンAGの特設秘書」: RG 319 Walter Schieber, Ref-No: S-3338.
- p.431 「今の私は、自由の身です」: Loucks Papers (USAMHI), "Desk Diary 1948"; Johnson, 53-54.
ペーパークリップ作戦の極秘契約を結んだ: RG 330 Walter Schieber, JIOA Form No. 2, Basic Personnel Record.
対象者はヴァルター・シーバー: RG 330 Walter Schieber, HQ EUCOM, Frankfurt, Germany, to JIOA, January 9, 1948.
- p.432 対象者を空路で護衛をつけて連れて来るか: Ibid.
ヴァルター・シーバーをオハイオ州デイトンのライト・フィールドへ移送されたし: RG 330 Walter Schieber, War Department, Staff Message Center, Outgoing Classified Message, January 2, 1948.
たかをくくって: RG 319 Walter Schieber, Ref No. S-2929, April 2, 1948.
- p.433 ペーパークリップ作戦の担当者に話した: RG 319 Walter Schieber, March 16, 1948.
- p.434 シーバーは、非ナチ化裁判所の判決は: RG 319 Walter Schieber. Ref No: S-2929, April 2, 1948.
ヴァルター・シーバーのビジネス・キャリアは: RG 330 Walter Schieber,

- File No. 8060622.
- p.435 常に党員であることを利用して利益を得てきた: Ibid.
空軍の雇用要請は取り消しとする: RG 330 Walter Schieber, April 1, 1948.
- p.436 現在の方針に特例を認めるべき: RG 330 Walter Schieber, April 7, 1948.
会合を手配する: ルークスの私文書。タッカーが最初にこの事実を知ったのは、米陸軍戦史研究所に保管されているルークスの文書からであった。タッカーの引用は、私がルークスの卓上日記から見つけたものとはわずかに異なる(卓上日記も、ルークスの口述歴史インタビューの言及とわずかに異なっている)。ということは、彼がドイツ人化学者たちとの作業を論じているルークスの膨大な量の文書の中に三つ目の資料があるのかもしれない。
さまざまな“機密事項”が話し合われた: Loucks Papers (USAMHI), “Desk Diary 1948.”
ルークスは日記にこう綴っている: Ibid.
- p.437 よりも面白い: Ibid.; Johnson, 58.
面白い男だ: Ibid.
- p.438 その中の一枚: Loucks Papers (USAMHI); 写真。
- p.439 ある日、ジープに乗って: Johnson, 201-2.
別にどうということもない出来事のひとつにすぎなかったけど: Ibid.
- p.440 サリン製造に用いたドイツの製法を教えてもらえないだろうか: Loucks Papers (USAMHI), “Desk Diary 1948.”
次に交わした会話をこう思い起こしている: Johnson, 55.
化学者たちの必要経費は全額負担する: Loucks Papers (USAMHI), “Desk Diary 1948.”
- p.441 陸軍化学部隊の隊長に覚書を書き: Ibid.
隊長がわれわれを支持してくれるといいのだが: Ibid.
サリン・ガスの工業規模の: Johnson, 55-57.
チームの中に: Loucks “German Nerve Gas (GB),” 3 Sheets, “Written from memory but believed to be correct,” signed Charles E. Loucks, April 10, 1972, Arlington, Virginia.
- p.442 このときにロッキー・マウンテン兵器工場を増築した: Johnson, 56.
〈ギベット・デリバリー〉というコード名: Tucker, 123, 128. (ジョナサン・B・タッカー『神経ガス戦争の世界史——第一次世界大戦からアル=カーイダまで』内山常雄訳/みすず書房) 1948年5月、化学部隊はアメリカ軍が量産する標準的な神経剤をサリンにすることを決定した。その工場は、〈ギベット・デリバリー〉というコード名で建設された。
何だったのかはわからないが: Loucks Papers (USAMHI), Letter, “Sehr geehrten Herr Loucks!” August 31, 1949.
クリスマス・カード: Loucks Papers (USAMHI), cards dated 1949, 1952, 1955.
「気に入らない」: Loucks Papers, “Desk Diary 1950.”
- p.443 ルークスの自宅に泊まったことがある: Loucks Papers, “Desk Diary 1949.”
司令部の諜報関係者たちと長時間の話し合い: Loucks Papers, “Desk Diary 1950.”
CIAでペーパークリップ作戦を管理する部署: CIAの局長補佐はケネス・K・アディコットだった。
- p.444 フォトスタット・コピー: “CIA Memo to JIOA, Subject: Werner Osenberg Files on German Scientists,” December 4, 1947 (FOIA).
機密情報の作成: Karl H. Weber, “The Directorate of Science and Technology, Historical Series, Top Secret, The Office of Scientific Intelligence, 1949-1968, Volume II, Annexes IV, V, VI and VII,” OSI-1, June 1972 (FOIA/Declassified 2008), Annex IV, p.1.
その結果: Weber, 24. ウェバーが1952年から1972年まで委員長を務めた。科学情報委員会は、分野ごとに統合情報小委員会を設立した。たとえば、統合原子力エネルギー情報委員会はJAEIC、統合生物戦委員会はJBWIC、統合化学戦委員会はJCWIC、統合医療科学情報委員会はJMSIC、などである。JIOAはドイツ人科学者を勧誘してアメリカに連れて来て、ほかの組織は彼らの研究から派生する情報を提出し連携させた。
一〇〇〇人のドイツ人科学者のうち、半数: この数字と日付は二次資料では異なっている。本書では国立公文書館のJIOAの記録を採用している。
- p.445 科学者のステータスを非公式な軍の保護下から: 本書では、ベンジנגー、シュトルークホルト、トラウブ、シェーファー、ドルンベルガー、クネーマイヤーを含む、複数の科学者の個別ファイルの概要を採用している。
- p.446 ドイツは東側諸国と西側諸国の新たな戦場となった: Ruffner, ix.
対ソ連秘密工作計画: Weiner, 33, 36. (ティム・ワイナー『CIA秘録——その誕生から今日まで』上下 藤田博司、山田侑平、佐藤信行訳/文藝春秋)
難民キャンプや尋問施設の者: Ibid., 44. (同上)
- p.447 オーバーウーゼルにある: 著者の〈キャンプ・キング〉訪問。〈キャンプ・キング〉は〈ダストビン〉尋問センターとフランクフルトの元EUCOM本部(元IGファルベンのビルでもある)の中ほどに位置する。2012年8月1日にドイツでマンフレッド・コップに取材。
この施設には、ふたつの公式名称があった: General Order No. 264, Headquarters USFET, September 19, 1946, Designation of Military Installation (FOIA).
非公式な名称が加わった理由: “History of Camp King,” 77. キングはアメリカ陸軍G-2第一軍団VII部隊に配属されていた。
- p.448 収容者のほとんどがソ連圏のスパイで占められるようになっていた: Ruffner, xlvi; “History of Camp King,” 82. この共有関係は1949年7月1日から

- 1952年5月31日まで続いた。
- p.449 〈アーティチョーク作戦〉: Marks, 31-36; Koch and Wech, 89, 97, 113. クリントン政権が機密解除した文書によれば、後援機関はJIOAの「情報作成」に相当する統合医療科学情報委員会 (JMSIC) であった。クリントン大統領の放射線被曝実験諮問委員会は、ブルーバード作戦の担当者を「中央情報局のイージャー博士」と特定した。
初代所長: Memo CO No. 205, Headquarters USFET, August 25, 1945 (FOIA) ; 2012年8月6日にドイツでエグモント・コッホに取材。
諜報報告書: 2012年から2013年にかけてジョン・ドラボイに手紙で取材。: 「私はドイツ参謀幕僚たちの履歴調査を指揮しました。ドノヴァンの指示で私が諜報論文を作成した人物には、ヴァルター・ヴァーリモン大將、アルベルト・ケッセルリンク陸軍元帥、ロベルト・ライ労働戦線全国指導者がいました」。コーネル大学のドノヴァン・ニュルンベルク裁判コレクションには、150巻のニュルンベルク裁判の製本記録とウィリアム・J・ドノヴァン少將(1883年～1959年)の個人記録が収められている。原資料の多くは、〈キャンプ・キング〉のものだった。
下地が部下たちに欠けている: Silver, 2.
- p.450 ソ連亡命者から得た情報の解釈と分析: Ruffner, xv, xiv-xv. ソヴィエトはヴェッセルとバウンの引き渡しを繰り返し要求した。
「徐々に作戦行動へと変わっていった」: “Report of Interview with Brigadier General Edwin L. Sibert on the Gehlen Organization,” March 26, 1970.
総責任者に据える: Ruffner, xxi-xvii. ゲーレンの公式な肩書は東方外国軍諜情報収集チーフだった。彼は、1945年からアメリカの捕虜としてヴァージニア州フォート・ハントにいた。
- p.451 村プーラッハ: Ruffner, li-lviii; CIAの写真。添付書類にコード名〈ニコラウス・コンパウンド〉という建物の写真が示されている。
相手の本性によりやく気づくと: Ruffner, xvii-xviii.
年一〇〇万ドル: Bird, 353. バードの報告によれば、1949年に「ゲーレンは、伝えられるところによれば、年俸500万ドルでCIAと契約を結んだ」という。さまざまな元CIAの情報源は、年俸100万ドルで5年間の契約だったのではないか、と示唆している。ブライトマンその他の著書では、年俸50万ドルとされている。
両者の意見は一致を見て: Ruffner, xlvi.
CIAは科学情報局 (OSI) を設立し: Weber, IV, 23.
- p.452 特殊な尋問方法を適用する: Marks, 23; CIA Memorandum for the Record, Subject “Project Artichoke,” n.d., No. 75/42-75/46 (FOIA) .

第一七章 鏡の間

- p.453 もっとも珍しい記者会見: RG 65 Walter Schreiber, press conference, November 19, 1948, transcript.
- p.455 GRUの悪名高い公式記事: Reuters, *Factbox*: Five facts about Russian military intelligence, April 24, 2009; GRUは、Glavnoye Razvedyvatelnoye Upravlenie (ロシア語: 参謀本部情報部) の略称である。
- p.458 記者会見での答え方を話し合っていた: RG 65 Walter Schreiber, Agent Report, File VIII-III49, October 27, 1948.
- p.460 ヒトラーはパウルスに降伏を許さず: Shirer, *Rise and Fall*, 836-37. (ウィリアム・L・シャイラー『第三帝国の興亡4——ヨーロッパ征服』松浦伶訳／東京創元社)
英雄的耐久心: Ibid., 837. (同上)
- p.461 九万一〇〇〇人のドイツ兵: Ibid., 839. パウルス陸軍元帥がソヴィエトに降伏したと知ると、ヒトラーは激怒した。「あの男(パウルス)は、大義が失われたと悟ったときみずからの剣に身を投げた昔の司令官たちのように、自分を撃つべきだった……わたしが個人的にもっとも傷ついたのは、それでもなお彼を元帥に昇格させたことだった。わたしは彼に最後の満足を与えたかったのだ。あれがこんどの戦争で元帥にする最後の男となろう。取らぬ狸の皮算用をするものではない」(Shirer, *Rise and Fall*, 840) (ウィリアム・L・シャイラー)
快適に暮らしていた: RG 65 Walter Schreiber, File VI-878.16, October 22, 1948. シュライバーのように、パウルスもニュルンベルク裁判でナチの同僚であるボンツェン(大物)たちに不利な証言をした。「ニュルンベルクにパウルスが現れたということ自体、彼の証言よりもはるかに衝撃的だった」とテルフォード・テイラー准将は書いている。
ウォラック: RG 65 Walter Schreiber, Agent Report, File VIII-III49, October 27, 1948.
- p.464 ルークスは、シュライバーが: RG 330 Walter Schreiber, Memo, File No. D-249361, December 15, 1949; Loucks Papers (USAMHI), “Desk Diary 1948.”
対象者は精力的であり: RG 330 Walter Schreiber, Memo, File No. D-249361, December 15, 1949.
- p.465 駐屯地付きの医師として働く: Ibid. 1949年11月18日より「オーバーウーゼル、7707 ECICの医師として雇用された」
- p.466 ソ連の監視役の名前: 1948年11月19日付の記者会見の英語の書き起こしでは、シュライバーの担当者の名前は「フィッシャー」と翻訳／書き起こしされている。
立ち上がって: Schmidt, *Justice*, 189.

- p.467 実刑のうち約一年を終えた: RG 319 Otto Ambros, 201 File; 彼の公式な刑務所ファイルによれば、アンブロスの収監期間は以下の通りである: 「1948年8月16日収監、3-2-1951 (1951年2月3日) 釈放」。ニュルンベルク国際軍事法廷博物館で引用されているものも含め、日付はさまざまである。寄宿学校のようなキャンパス; 著者は刑務所長のハラルト・アイヒンガーとともにランツベルクを見学した。
政治とはみじめな病です: RG 319 Otto Ambros, Letter to Mrs. Prof. C. Ambros from O. Ambros, n.d.
父の拘束は不当なものです: Lnandeskirchliches Archiv, Nachlass Landesbischof Wurm file (folder 307/2) , correspondence file for the IG Farben Case, letter of Dieter Ambros, August 26, 1949.
- p.469 懲戒処分: RG 549 Otto Ambros, Disciplinary Report, January 18, 1951.
許可を求めている: RG 549 Otto Ambros, "Special Permit" July 26, 1949; August 16, 1949.
- p.470 健康診断書を作成した: RG 549 Otto Ambros, Report of Physical Examination, August 8, 1949.
「勝者の正義」という罰を与えられた: Frei, 104-6.その一方で、ヒトラーに仕えた者たちはドイツの政界と産業界にこっそりと戻りはじめていた。アデナウアー内閣には有名な元ナチが三人いた。法務大臣のトーマス・デーラー博士、交通大臣のハンス・ゼーボーム博士、ヒトラーの内務省の元メンバーで人種法の共同起草者でもあるハンス・グロブケ博士である。
「いわゆる戦争捕虜」: Bird, 329-30.
- p.471 陸軍次官補だった: Ibid., 193.
功績を認められている: Archives, World Bank, www.worldbank.org.
ヒトラーが所有していた: Bird, 316. マックロイには、自由に使える列車がふたつあった。このうち大きい方がヒトラーのものだった。
- p.472 多くのドイツ人が: Frei, 114.
ヨーロッパ最大のオフィス・ビル: Drummer and Zwilling, 44-45.
マックロイが赴任した: Ibid., 105.
CIAも: 著者は、IGファルベン・ビルを見学した。フランクフルトにあるこの建物は現在、ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン、ヴォルハイム・メモリアル、フリッツ・パウアー研究所になっている。
このままにしてはいけない: Frei, 94, 178,
- p.473 法務部: Bird, 330. 陸軍次官補時代のマックロイについては、議論を呼ぶ有名な話がある (Bird, 214-23)。戦争末期、〈世界ユダヤ人会議〉の議長ナウム・ゴルトマンは、1944年7月7日から11月20日の間に、ときに300機を超える重爆撃機で構成される10機団がアウシュヴィッツから約55キロ内の標的を爆撃していたことをニューヨーク・タイムズで知った。そこで、当

- 時欧州の司令官たちに提案できる立場にあった陸軍次官補ジョン・マックロイのペンタゴンのオフィスを訪れ、死者が出ても10万人の命が助かるかもしれない、とアウシュヴィッツの爆撃を懇願したという。これに対し、マックロイは自分にできることはほとんどないと述べて、ゴルトマンをワシントンに駐留していたイギリス側の自分の片割れ、陸軍元帥ジョン・ディル卿の元へ追い払った。ディルもゴルトマンの考えを拒否し、爆弾は重要な軍事目標のために取っておく必要がある、と言った。ゴルトマンがマックロイに「(アウシュヴィッツ⇒) ビルケナウのガス室と遺体焼却炉を直接爆撃して破壊してほしい」と再度訴えると、マックロイはこの件をアメリカ軍のジョン・ハル中将に回して迅速な評価を求めた。欧州の司令官たちにはいっさい相談されなかった。ハルは「目標は、イギリス、フランス、イタリアにいる中型爆撃機、急降下爆撃機、戦闘爆撃機の最大射程の圏外にある」と主張してゴルトマンの訴えを退けた。パートの著書によれば、この発言は事実と反していたという。ゴルトマンは、イギリス空軍はすでにガス室から6キロ離れたIGファルベンのプナ工場に目標を設定していたと指摘している。
もっとも意図的で恥知らずな人殺し: Bird, 331.
マックロイは返事を出さなかった: Ibid.
「ベック委員会」: デイヴィッド・W・ベックは当時、ニューヨーク州地方裁判所控訴部の裁判長であった。
ボンでマックロイの補佐官に: Schwartz, 165.
できる限り広範な恩赦: Diefendorf et al., 445.
- p.474 ヨーロッパで戦争の脅威が: History of AAF Participation in Project Paperclip, Office of the Sec of Defense, 7/14/50; Bower, 253.
分厚いファイルを保管して: RG 330 Records of the U.S. High Commission for Germany, Project 63, 1948-1952.
〈スーパー・ペーパークリップ作戦〉: RG 330 Records of the U.S. High Commission for Germany, Files of Research Control Group, Dr. Nordstrom.
- p.475 「ソ連に取られたら特に危険なトップレベルの科学者」: RG 330 Records of the U.S. High Commission for Germany Project 63, November 22, 1950; Hunt, 203-6; Bower, 253.
スーパー・ペーパークリップ作戦またはプロジェクト63に関する話し合い: RG 330 Records of the U.S. High Commission for Germany, Project 63, 1948-1952; 実際の会議概要のメモはHICOGファイルから紛失して——破棄されたか、まちがったところにとじ込まれて——おり、出席者を示すカバーレターのみが残っている。
ミーティングに出席したのは: RG 330 Records of the U.S. High Commission for Germany, August 2, 1951. CIAは、「7955科学派遣隊」というコード名で活動していた。その代表者がカール・H・ウェバーであることから、

- CIAと特定することができる。
- p.476 アメリカ陸軍の「いちばんの関心は: RG 330 Records of the U.S. High Commission for Germany, Project 63, "Instructions for German and Austrian Nationals residing in the United States under the Terms of Contract Agreement," 5-7.
- p.477 アンブ罗斯はスーパー・ペーパークリップ作戦のリストに加えられた: RG 319 Otto Ambros, File 291888, "Release of Inmate from Landberg Prison," RG 319 Otto Ambros, January 11, 1951.
ベック委員会は: Schwartz, 162-65.
一〇〇万ライヒスマルク: RG 319 Otto Ambros, SHAEF file card dated 10/44, WD44714/36, "Microfilm Project MP-B-102"; 2012年に連絡をとったとき、アンブ罗斯の息子ディーター・アンブ罗斯はこの数字についてコメントを控えた。
委員会の勧告: Bird, 360-61.
減刑した: Congressional Record-Senate, February 1951, page 1581.
Drew Middleton, "7 Nazis Executed for War Murders," *New York Times*, June 7, 1951.
- p.478 ニュルンベルク裁判で有罪となった四人の三分の一が釈放される: RG 549 Otto Ambros, Case Record. 「オットー・アンブ罗斯の判決に関する命令」は、1951年1月31日付でジョン・J・マックロイによって署名されている。
オットー・アンブ罗斯は赤い縞模様のデニムの囚人服から: Ibid.
「なぜ私たちはこんなにも多くのナチを自由の身にしてしているのか?」: 多くの本と文書でこのように引用されている。彼女のコラム (1951年2月28日) では、次のように記載されている。「最近われわれがきわめて大勢のナチを自由にしていう事実に、ドイツ人たちは当惑しているに違いない」
患者の殺害に手を貸した医師: Nachama, 379.
- p.479 ブローメが平日は: RG 330 Kurt Blome, Special Projects Team, March 27, 1951.
- p.480 しばらく時間がほしい: RG 330 Kurt Blome, Special Projects Team, June 25, 1951.
息子たちに学校をやめさせ: 2012年8月3日にドイツでゲッツ・ブローメ博士に取材。
- p.481 ブローメの極秘のスーパー・ペーパークリップ契約: RG 330 Kurt Blome, Document No. 384.63.
- p.482 クルト・ブローメの移送を差し止めされたし: RG 330 Kurt Blome, October 12, 1951.
不都合な報道により: RG 330 Kurt Blome, October 19, 1951.
ブローメをアメリカに入国させ: RG 330 Kurt Blome, October 24, 1951.
- p.483 ことさら腹を立てていた: RG 330 Kurt Blome, November 27, 1951.

- p.484 素敵な家: Ibid.
- p.485 住ませたくない: 2012年8月3日にドイツでゲッツ・ブローメ博士に取材。
小切手を政府から受け取っていた: RG 319 Walter Schreiber, January 18, 1951.
サンアントニオの家と車: Ibid.

第一八章 転落

- p.486 医師裁判が彼に少なからぬ影響を与えた: Alexander Papers, Harvard Law School Library, Series II, Box 7, Subseries A, Personal Life, 1883-1985; Papers of Dr. Leopold Alexander, Duke University Medical Center Archives, "Log Book, Journey to Nuremberg."
- p.487 激しい身体的苦痛に悩まされており: *New York Times*, "Cured in U S. of Her Ills, Left as Nazi Guinea Pig," March 7, 1952.
- p.488 私の義務だと思っております: RG 330 Walter Schreiber, December 3, 1951.
シュライバー宅の電話が鳴った: RG 330 Walter Schreiber, "Department of the Air Force Headquarters United States Air Force Washington," December 14, 1951.
専門分野がきわめて希少である: RG 330 Walter Schreiber, Memo No. 24-170.
- p.489 変化に富んだ人生: RG 319 Walter Schreiber, Basic Personnel Record for Paperclip Specialist, 30.
相手はミスター・ブラウンと名乗り: RG 330 Walter Schreiber, "Department of the Air Force Headquarters United States Air Force Washington," December 14, 1951.
- p.490 誰にも話さなかった: RG 330 Walter Schreiber, Memo No. 24-170.
- p.491 シュライバーは、残酷な人体実験を: Ibid.
FBIが調査に乗り出した: RG 65 Walter Schreiber, File No. A 8091581.
- p.493 テキサス州ランドルフ空軍基地の: RG 330 Walter Schreiber, January 3, 1952.
ベンソンは「私の専門を: RG 330 Walter Schreiber, affidavit, January 23, 1952, p.2.
- p.494 秘密のメッセージを送り続けた: Weindling, 15.
FBIの捜査官がボストンで: RG 330 Walter Schreiber, "Statement taken from Miss Janina Iwanska in connection with an investigation of Dr. Walter Emil Wilhelm Paul Schreiber, at the Boston Office," February 27, 1952.
- p.496 命令を下したかどうかは知りません: Ibid.
逃亡計画を練りはじめていた: RG 330 Walter Schreiber, letter dated

- March 27, 1952.
- p.498 シュライバーが四〇年間連れ添った妻: RG 330 Walter Schreiber, NSDAP Party document 160-75, Nazi Party No. 917,830.
- p.499 正義のために戦っているんだ: *Washington Post*, "Charges Denounced as 'Lies' by Schreiber," February 13, 1952.
強制収容所に行ったこともない: RG 330 Walter Schreiber, affidavit, January 23, 1952.
- p.500 彼はここで: RG 330 Walter Schreiber, transcript of interview between Colonel Heckemeyer, director of JIOA, and Miss Moran, *Time*, February 26, 1952.
ナチの医師に関する事実である: Drew Pearson, "Air Force Hires Nazi Doctor Linked to Ghastly Experiments," Associated Press, February 14, 1952.
- p.501 トルーマン大統領に宛てて: RG 330 Walter Schreiber, telegram to the president dated April 24, 1952, 9:34 p.m.
- p.502 再開するようなことはない: RG 330 Walter Schreiber, transcript of interview between Colonel Heckemeyer, director of JIOA, and Miss Moran, *Time*, February 26, 1952.
- p.503 アリストプロ・フィデル・レイエス将軍の手配: RG 330 Walter Schreiber, Department of the Air Force staff message No. 52571.
- p.504 身辺警護費用は空軍が負担した: RG 330 Walter Schreiber, memorandum, Travis Air Force Base, California, April 4, 1952.
家族の所有文書によれば: シュライバーの義母マリー・コンラートと、ヴァルター E・W・パウル・シュライバーの記録。以下のサイトより。www.myheritage.com.

第十九章 自白剤

- p.505 薬物や化学薬品を使用する: CIA Memorandum for the Record, Subject Project Artichoke, January 31, 1975. これはジョン・マークスのFOIAに基づく開示請求によって実施された再調査と、アメリカ国家安全保障アーカイブのジョン・マークス・コレクションの一部である。「1950年から1952年にかけて、マインドコントロールの担当部署はCIAの安全保障局から科学情報部へ移り、また安全保障局へと戻った」とマークスは書いている。彼は1975年に情報公開法に基づいてMKウルトラの資料の公開を政府に求め、成功した。
彼のファイル: RG 330 Kurt Blome, Contract, DoD DA-91-501, December, 3, 1951.
ブルーバード作戦は: Marks, 31.
「尋問対象者の行動をこっそり修正すること」: Ibid., 61.

- われわれの任務だと感じていた: CIA インテリジェンス研究センターの歴史スタッフ、リチャード・ヘルムズへの取材。出典は、1978年5月22日から23日にワシントンでデイヴィッド・フロストが録音したヘルムズ氏へのインタビュー。
- p.506 取り組みの重複を避けるため: Marks, 61.
五〇〇〇万回分の服用量: "Joint Hearing Before the Select Committee on Intelligence," 91.
- p.507 SO部門: Marks, 61, 70-72; Regis, 116-19. (エド・レジス『悪魔の生物学——日米英・秘密生物兵器計画の真実』山内一也訳／河出書房新社)
極秘の覚書: 当時ヘルムズはウィズナーの副官だった。CIA's Program of Research in Behavioral Modification," August 3, 1977; "Joint Hearing Before the Select Committee on Intelligence," 72-76.
- p.508 "尋問テクニック": CIA Memorandum for Deputy Director (Plans), Subject Special Interrogation, February 12, 1951.
外国政府なら: "Joint Hearing Before the Select Committee on Intelligence," 101. この覚書は聴聞会で読み上げられた。
ハウス・ヴァルドルフと呼ばれる隠れ家: Koch and Wech, 115-6; CIAは〈キャンプ・キング〉をECICまたはヨーロッパ司令部尋問センターと呼んでいた。DOJ Klaus Barbie investigation, iii, List of Abbreviations.
一九五二年六月四日から六月一八日にかけて: "Joint Hearing Before the Select Committee on Intelligence," 68; Koch and Wech, 113.
すべてを忘れさせる: CIA Memorandum for Director of Central Intelligence, Subject: Artichoke, June 1952.
- p.509 CIAと海軍から報酬を手にしていた: 2012年8月6日にドイツでエグモント・コッホに取材; Koch and Wech, 102-5.
ドイツから帰国した後、彼は苦しんでいた: エグモント・コッホとミヒャエル・ヴェッヒによるドキュメンタリー *Codename Artichoke* (2001) の16分目。
アーティチョーク作戦を新しいやり方で拡大しており: CIAはそれぞれのプロジェクトに暗号化した名称をつけていた。デトリックでおこなっていた薬物誘発性の尋問プログラムのひとつはMKDETRICと呼ばれていたが、それではあまりにも明白なためエイブラムソンの秘書ナオミ・バズナーの名前からとってMKNAOMIに変更した。
- p.511 いちばん恐ろしい経験: Marks, 84.
オルソンの状態は深刻で: "Joint Hearing Before the Select Committee on Intelligence," 77.
- p.512 LSDの耐性実験: Regis, 158. (エド・レジス『悪魔の生物学——日米英・秘密生物兵器計画の真実』山内一也訳／河出書房新社)。エイブラムソンはLSDに関する本も執筆しており、1959年に出版される。
オルソンの抱えている問題はすべて心の中にあったのだFrank Olson's

- problems were all in his mind: "Joint Hearing Before the Select Committee on Intelligence," 75-78; エイブラムソンは、フランク・オルソンが眠れるようにバーボンのボトルと鎮痛薬ネムブタルを与えた。「さまざまなものを、何も知らない相手に届ける」: Marks, 84. 疑いはじめ: "Joint Hearing Before the Select Committee on Intelligence," 75-76. 一〇一八A号室: マークスは、1018号室は実際には13階にあったと指摘している。
- p.514 ポケットの中身を出すように: レジスの記述からわかった気になる詳細——ラッシュブルックは30文字が一行に記された紙片を持っており、金庫の暗号化された組み合わせ文字だと説明したという。
- p.515 航空機と農業散布用飛行機から: 息子エリックがフランク・オルソンのカメラから見つけたホーム・ビデオの映像。Codename Artichokeの11:00で見ることができる。
上院の公聴会: "Joint Hearing Before the Select Committee on Intelligence," 3, 23, 68-78.
- p.515 「私たちは胞子を使いました」Cournoyer explained: Codename Artichoke, 16:00.
- p.521 JIOAの副局長に在職していた一年間: Hunt, 2-3. 彼がソ連のスパイとして: Hunt, 2; RG 319, Records of the Army Staff, Subject: Technical Assessment Re: Former Retired LTC William Henry Whalen, 8 April, 1967; "Damage Assessment of Classified Documents," January 18, 1965. FBIの捜査の結果: Hunt, 202-3. 大陪審に密かに提示された: "Indicted in Espionage," Associated Press, July 13, 1966.
- p.522 「真に画期的な軍事的成果」: Neufeld, *The Rocket and the Reich*, 274.
- p.523 科学技術や産業の進歩: <http://www.acq.osd.mil>を参照。
不当な影響力を獲得すること: York, 144. 科学者と技術者は: Ibid., 145.
- p.524 アイゼンハワーの警告: Ibid., 148. 一九五〇年、陸軍情報部 (G-2) は: RG 319 Walter Schieber, Agent Report, January 10, 1950.
- p.525 素晴らしい取引になる: Ibid. マックスウェルは「最近、: Ibid.
- p.526 さらに悪い知らせ: RG 319 Walter Schieber, Agent Report, March 22, 1950; Agent Report, May 1, 1950. シーバーは、シュツットガルトのバーデン=ヴュルテンベルク・オフィス・オブ・ザ・ランド・コミッションの科学研究局からも880ドイツマルクの給料を定期的に受け取っていた。つまり、彼は同時に三つの政府のもとで働いていたことになる。
一九五六年まで彼にペーパークリップ作戦の給料を: RG 263 Walter Schieber, "Official Dispatch, Chief of Mission, Frankfurt," November 18, 1963.
- p.527 ベテラン下院議員という小さな排他的集団: Tucker, 213. (ジョナサン・B・タッカー『神経ガス戦争の世界史——第一次世界大戦からアル=カーイダまで』内山常雄訳/みすず書房)
サリン製造が急ピッチではじまった: Ibid., 128; Keogh and Betsy, 10.
- p.528 ロッキー・フラッツ弾薬装填工場: Hylton, 60; Tucker, 133. (ジョナサン・B・タッカー『神経ガス戦争の世界史——第一次世界大戦からアル=カーイダまで』内山常雄訳/みすず書房)
コリアーズが: Ryan, 89.
- p.529 数千トン規模でVXの生産: Tucker, 164-69. (ジョナサン・B・タッカー『神経ガス戦争の世界史——第一次世界大戦からアル=カーイダまで』内山常雄訳/みすず書房)
VX弾薬の製造に取り組んだ: ホフマンの私文書; Tucker, 160. (ジョナサン・B・タッカー『神経ガス戦争の世界史——第一次世界大戦からアル=カーイダまで』内山常雄訳/みすず書房)

第二〇章 暗い影の中で

- p.519 NATOどころか: Hunt, 182. 勧誘し続けた: NARA 59 General Records of the Department of State, HICOG Memo from KARL Weber to P. G. Strong, March 18, 1952. JIOAのおかげでCIAが局内にオーゼンベルク・ファイルのフォトスタット複写を保持し、それを勧誘リストとして使っていたことは特筆に値する。その中には、帝国研究評議会時代の18,000人近いドイツ人科学者の氏名、伝記的記録、住所が含まれていた。
- p.520 二〇人の勧誘チームをフランクフルトに: ミュンヘンのドイツ博物館所蔵のドルンベルガー・ファイル "Calendar 1952"。 それを知ったマックロイは: Hunt, 182, 304n. 怒りを買うことを恐れ: NARA 59 General Records of the Department of State, HICOG Cable from John McCloy to Secretary of State, February 21, 1952. 妥協案が決定した: Ibid., 182-83. ターゲット・リスト: RG 330 U.S. High Commissioner for Germany, "Project 63 (Index 1948-52)." JIOAはペーパークリップというコード名を〈防衛科学者移住計画 (DEFSIP)〉に改名し: Ibid.

- p.530 「彼はわれわれの探索者でした」: Hunt, 159-61.
いつも軍用機で移動し: 2012年10月17日と2013年3月22日にガブリエラ・ホフマンに電話で取材。
- p.531 「認識不能微生物注射器」: “CIA poison arsenal explained,” Associated Press, September 17, 1975.
SO部門の病原体部: “Joint Hearing Before the Select Committee on Intelligence,” 9-12, 67-71; Regis, 151. (エド・レジス『悪魔の生物学——日米英・秘密生物兵器計画の真実』山内一也訳/河出書房新社)
好きな飲み物であるミルクシェイク: Marks, 81.
- p.532 あらゆる援助を惜しまない: Regis, 184. (エド・レジス『悪魔の生物学——日米英・秘密生物兵器計画の真実』山内一也訳/河出書房新社)
計画: Housen, 1-21; Regis, 182-85. (エド・レジス『悪魔の生物学——日米英・秘密生物兵器計画の真実』山内一也訳/河出書房新社)
ボツリヌス毒素の効力は衰えてしまった: Housen, 8.
数千人のアメリカの陸・海軍人: Senate Committee on Veterans’ Affairs, “Is Military Research Hazardous to Veterans’ Health?” December 8, 1994.
- p.533 吸入毒性: Weeks and Yevich, 622-29.
致死性がどのように増すのか: Weeks, Weir, and Bath, 663. エッジウッドの研究所で、モーリス・ウィークスは齧歯動物に「吸入暴露」実験をおこなっていた。
ガブリエラは回想する: 2012年10月17日にガブリエラ・ホフマンに電話で取材。
- p.534 アメリカの外交官サム・ウッズ: 2012年10月19日にジョン・ディッペルに電話で取材。
このことはとてもはっきりと覚えています: 2012年10月17日にガブリエラ・ホフマンに電話で取材: “Agent Orange” Product Liability Litigation, 1-115.
- p.535 ホフマンの出張報告書: “Agent Orange” Product Liability Litigation, 52-53.
- p.536 ウイルスの研究に取り組んだ: RG 65 Erich Traub, Special Contract, War Department.
親しくなる: 2013年2月19日にロルフ・ベンジンガー博士に取材: 海軍は、のちに上院の聴聞会が「完璧な脳震盪」と名づける、敵の戦闘員を記憶喪失にする手段を確立するために爆発的減圧技術について研究をおこなっていた。
- p.537 研究されていた病原体と病気: Moon, 22.
アメリカ連邦議会は: Loucks Papers (USAMHI), “Forty Terry Historical Report: 1 January 1951-30 June 1952”; U.S. Army Chemical Corps; アメリカ陸軍化学部隊: Robert Hurt, “Fort Terry Historical Report: 1 April-30 June 1953,” July 31, 1953.
計画の指導者には: RG 65 Erich Traub, File A-7183623.
働くことを承諾した: RG 65 Erich Traub, Special Contract. この施設はドイツ語で Bundesanstalt für Virusforschung と呼ばれている。
- p.538 トラウブが構えた新居: RG 65 Traub, Agent Report, neighborhood check, January 28, 1963.
ラージ血清ワクチン研究機関: RG 65 Erich Traub, November 11, 1965.
- p.539 特定の兵器開発計画部: Tucker, “Farewell to Germs: The U. S. Renunciation of Biological and Toxin Warfare, 1969, 1970,” *International Security* 27, no. 1 (Summer 2002): 107-48.
- p.540 海に捨てる: 1972年に海洋保護調査法が制定されるまでは、化学物質の海洋投棄は禁じられていなかった。
設計上、分解不可能: Tucker, 221-22. (ジョナサン・B・タッカー『神経ガス戦争の世界史——第一次世界大戦からアル=カーイダまで』内山常雄訳/みすず書房)
無人操縦で分離: Keogh and Betsy, 9.
「その数字が量を物語っている」: U. S. Army Chemical Materials Agency, “A Success Story—Johnston Atoll Chemical Agent Disposal System,” September 21, 2005.
廃棄費用: Keogh and Betsy, 10.

第二章 脚光

- p.542 記されている: ミュンヘンのドイツ博物館所蔵のドルンベルガー・ファイル、Calendars 1949-1959.
- p.543 世界に貢献する科学のパイオニア: Dornberger, V-2: *The Nazi Rocket Weapon*; McGovern, 46; ドイツ博物館所蔵のドルンベルガーの文書に含まれているこの本の未編集の原稿には、彼とヒムラーの会話が複数再現されている。その中で、ヒムラーが奴隷労働者の利用について「ドイツの力は奴隷時代への回帰を意味する」と述べたとき、ドルンベルガーがほかの国々の反対について懸念を表明すると、ヒムラーは「われわれの勝利後は、誰もそんなことなどできない!」と一蹴したと書かれている。
副題をつけたのが誰なのか: Neufeld, *Creating a Memory of the German Rocket Program for the Cold War*, 78.
「水を打ったように静まり返った」: Heppenheimer, 133.
- p.544 二重スパイという役割: RG 65 Walter Dornberger, FBI file No. 39-137.
フォート・ブリスのロケット・チームを: Biography of Dr. Wernher von Braun, First Center Director, July 1, 1960-Jan. 27, 1970 (www.nasa.

- govにて閲覧可能)
 必要な第一歩: Neufeld, *Von Braun*, 246.
- p.546 愛国的な著作物: Ibid., 271.
 この記事をもとに: Neufeld, *Creating a Memory of the German Rocket Program for the Cold War*, 77.
- p.547 ディズニーマの最初のテレビ・シリーズが: Wolper, *The Race to Space*, narrated by Mike Wallace; Brzezinski, 91.
- p.548 スペースシャトル組立棟を建設した NASA fact, "Building KSC'S Launch Complex 39" (www.nasa.gov); McGovern, 251.
 設計を担当したのはベルンハルト・テスマン: Wolper, *The Race to Space*.
- p.549 まちがいを正さなかった: Neufeld, *Creating a Memory of the German Rocket Program for the Cold War*, 76.
 「もちろん人間の皮なんだよな?」: Neufeld, *Von Braun*, 271, 514n.
- p.550 ロケットがロンドンに落ちたりはしないでしょうね: Cornwell, 423.
 『ハンツヴィルの秘密』: Neufeld, *Creating a Memory of the German Rocket Program for the Cold War*, 84.
- p.551 NASAの幹部: Neufeld, *Von Braun*, 405-6.
 東欧圏では成功を収めた: Ibid., 408.
- p.552 エッセン=ドーラ裁判: Bundesarchiv Ludwigsburg, Rickhey Files, B-162/964.
 詳しくは知りませんでした: Bundesarchiv Ludwigsburg, Rickhey Files, B-35/66, April 20, 1967.
 ニューオーリンズを提案した: Neufeld, *Von Braun*, 428-29.
- p.553 結びつきを広く知らしめること: Neufeld, *Von Braun*, 428; 2013年4月3日にマイケル・ノイフェルドに電話で取材。
 フォン・ブラウンは否定した: Feigin, 330-35.
 フォン・ブラウンとドルンベルガーはこの問題について手紙を交わした: Neufeld, *Von Braun*, 429.
- p.554 申し訳ないが: Neufeld, *Von Braun*, 471.
- p.555 宇宙空間の生物学をテーマにした初のアメリカ軍公開討論会: Mackowski, 125-26.
 ルバートという名の: Tara Gray, "A Brief History of Animals in Space," NASA History Office, 1998, <http://history.nasa.gov/printFriendly/animals.html>.
- p.556 設立するときに来たことを確信する: Hasdorff, 9.
 もっと大きな収容設備と: Bullard and Glasgow, 69.
 議会で売り込み: Ibid., 70-75.
- p.557 自ら就任することにした: Ibid., 77.
 ドイツに飛んで: RG 330 Hubertus Strughold, November 16, 1945.
- ジャーナリストのドリュウ・ピアソンの耳にも入った: Hunt, 54.
 航空医学校の: RG 330 Konrad Schäfer, March 27, 1951.
- p.558 ミシシッピ川の水の飲用化: RG 263 Central Intelligence Agency, Hubertus Strughold file, A-1-2062.
 ここでの仕事ぶりから判断すると: RG 330 Konrad Schäfer, March 27, 1951.
 ドイツへの送還: Ibid.
 彼はその後ニューヨークに移り: RG 65 Konrad Schäfer, FBI File No. 105-12396. FBIはニューヨークで少なくとも一度シェーファーを訪問し、「FBIがスパイ行為、妨害工作、破壊工作に関する管轄権を持っていることを知らせている」。シェーファーは、ロシア人が彼を裁判にかけたり勧誘しようとしたらFBIに連絡をとり、そのことを知らせると約束した。
 機密研究: USAF School of Aviation Medicine, Randolph Air Force Base, Randolph Field, Texas, "Trip Report," August 19, 1952 (FOIA).
 ニュルンベルク綱領に反していた: "Memorandum to Advisory Committee on Human Radiation Experiments," April 5, 1995; Jacobsen, 302-3, 331. (アニー・ジェイクソンの『エリア51——世界でもっとも有名な秘密基地の真実』田口俊樹訳/太田出版)
- p.559 地上核実験: Jacobsen, xi-xvi, 107-23. (同上)
 一群の調査: Ibid. 閃光失明の調査に加えて、航空医学校は「爆発、熱傷、精神的」影響を含む実験もおこなった。
 「われわれが興味をそそられたのはそのためです」: Welsome, 292. (アイリーン・ウェルサム『プルトニウムファイル——いま明かされる放射能人体実験の全貌』渡辺正訳/翔泳社)
 突撃隊 (SA) のメンバーでもあった Ibid., 293
- p.560 爆心地から約六四キロ: Welsome, 295.
 のぞき窓: Harbert and Whittemore, 54.
 被験者の一部: Ibid., 55.
- p.561 機密解除された記録では「S・H」というイニシャルしかわからない: Ibid., 290.
 いちばん美しい火球の像のひとつ: Harbert and Whittemore, 33.
 サルの宇宙飛行士を乗せたロケット実験: その10年後、二匹のサル、エーブルとミス・バイカーが初めて宇宙から生還する。国立航空宇宙博物館には、飛行席に固定されたエーブルの剥製が展示されている。
- p.562 エスコートし: Reichhardt, "First Up? Even Before NASA Was Created, Civilian and Military Labs Were in Search of Spacemen," *Air & Space*, September 2000.
 ジェトルークホルトを名指して褒めちぎった: Thomas, 54.

- ジョンソンに: Ibid.
- p.563 第二次世界大戦中にナチの医師が: “Himmler the Scientist” by Julian Bach Jr. Letters to the Editor, *Saturday Review*, August 9, 1958.
- p.564 航空医学協会の第二九回会議: Benford, *Doctors in the Sky: The Story of the Aero Medical Association*, 56.
多くの研究論文を著しながらジャーナルを発表する: Mackowski, 215-16.
- p.565 用務員: Thomas, 49-56.
サイモン・ヴィーゼンタール: Bundesarchiv Ludwigsburg, Hubertus Strughold Files, 828/73.
- p.566 書類のコピーを渡した: Ibid.
- p.567 リストも含まれていた: Charles Allen Jr., “Hubertus Strughold, Nazi in U.S.,” *Jewish Currents*, September 28, 1974.
凍結実験の詳細: Ralph Blumenthal, “Drive on Nazi Suspects a Year Later; No. U.S. Legal Steps Have Been Taken,” *New York Times*, November 23, 1974.
- p.568 ジェームズ・C・ハスドルフに: Hasdorff, 15, 42. シュトルークホルトは、1971年に72歳でメアリー・ウェップ・ダレハイトという「かわいらしい秘書」と結婚したことも述べた。
ヒトラーの“敵対者リスト”: Hasdorff, 16. シュトルークホルトは、ナチ将官とアメリカ軍将官ジョージ・パットンが登場する、でっちあげであることがほぼ確実の話ハスドルフに伝えた。終戦から数日か数週間後のドイツのガルミッシュ・パルテンキルヒェンでの出来事とされるその話は、次のようなものだった。「勲章を胸いっぱい飾ったこの(アメリカ軍)将官は、ドルンベルガーにこう尋ねた。“あなたはV-2ロケットの開発責任者ですか?”」シュトルークホルトは、「彼(ドルンベルガー)は、“ヤヴォール、ヘル・ジェネラル。そうですとも、将軍”と答えた」と言っている。するとパットンはドルンベルガーに葉巻を3本渡して“おめでとう。私ではとてもできなかった!”と言った。この話はドルンベルガーから直接聞いたものだ」とシュトルークホルトは言った(Hasdorff, 19-20)。
事実の歪曲: RG 330 Hubertus Strughold, JIOA Form No. 2, Basic Personnel Record.
- 殺人罪で起訴した: Bundesarchiv Koblenz, Otto Ambros Files, B 162/3221.
- p.571 普通の生活を営んでいた: これはすべて映画 *Verdict on Auschwitz* で驚くほど正確に語られている。たとえばヨアヒム・クーガー検事がルドルフ・ヘスの右腕を見つけたのは、ある運命のいたずらだった。クーガーはローマでオリンピックの試合に参加していたときにムルカという姓の選手がセーリングでメダルを獲得したことに気がついた。これがきっかけとなり、クーガーはアウシュヴィッツの副官ロベルト・ムルカを捕えることができた。オリンピックに出場していた選手は、この戦争犯罪人の息子だった。「ムルカはそうある名前じゃないからね」とクーガーは説明している。
- p.573 仕事仲間: Bundesarchiv Koblenz, Dr. Otto Ambros Files, B 162.
私と同僚たちは、第三帝国の犠牲者なのです: Ibid.
- p.574 元戦争犯罪人: Ibid. 新聞名は特定されておらず、アンブロスの手紙のひとつで言及されているのみである。
- p.575 この件は: Bundesarchiv Koblenz, Dr. Otto Ambros file, B 162; 手紙の日付は、両方とも1964年4月25日となっている。
第三帝国時代のこと: Ibid.
W・R・グレース: アンブロスの(1950年代からの)元同僚マイケル・ハワードと2012年に交わした手紙のやりとり。アンブロスは「仲間の中で常にいちばん賢かった」とハワードは振り返っている。「アンブロスは裏で糸を引く人物——黒幕——だった」
- p.576 交流がありました: Memorandum for the president, from James W. Nance, the White House, Washington, D.C., March 23, 1982 (FOIA).
アメリカの大統領ですら: Ibid.; Letter to Congressman Tom Landon from James W. Nance, the White House, Washington, D.C., April 13, 1982 (FOIA).
- p.577 ユダヤ人に関わることだ: Hilberg, 1089.
「ドルトメント在住の医師と歯科医全員」: Bundesarchiv Ludwigsburg, Dr. Kurt Blome file, B 162/28667.
- p.578 ゾンダーベハントルング: Ibid.
- p.579 孤独で、世間とは疎遠になっていた: 2012年8月3日にドイツでゲッツ・ブローメに取材。
強く信じています: Bird, 375.
同情的な赤十字社のオランダ人看護師二人: Weindling, 309, 315.
- p.580 三五万ドル(二〇一三年の換算で約二四〇万ドル)と伝えられている: Sereny 646; Van Der Vat, 328.
しじゅうあなたのことを考えていた: Neufeld, *Von Braun*, 472.
- p.581 「パイロット・ファクターズ・プログラム」: クネーマイヤーの私文書; 2012年6月20日にディルク・クネーマイヤーに電話で取材。

第二二章 ペーパークリップ作戦が残したもの

- p.569 大規模な公開裁判: Pendas, 1-3.
- p.570 あの裁判は: ヘルマン・ラングバインは、をロルフ・ビッケルとディートリヒ・ワグナーが監督した *Verdict on Auschwitz* (2007) でこの話を語っている。この場面は7分目からはじまる。この映画は430時間に及ぶ裁判のオリジナルの録音テープをもとに製作された。

- 「すぐに火葬場に運び」: Knemeyer, 70.
- p.582 悪魔が肩に手をかけても: O'Donnell, "The Devil's Architect," SM 45. ヴィルヘルム・バイグルベックの運命は注目に値する。彼はダッハウで海水実験をおこなったナチの医師で、カール・ヘーレンライナーの肝臓の一部を麻酔なしで抉り取った。ランツベルク刑務所での15年の懲役刑を宣告され、1951年にジョン・マックロイ米国高等弁務官によって恩赦を与えられた。それから一年も経たないうちに元SS同僚オーギュスト・ディートリッヒ・“ディーター”・アラースが院長を務めるドイツのブクスフーデの病院で医療行為を再開した。医学論文を発表し、ドイツの医学界で名を馳せるが、1962年に講義をするために出身地であるウィーンを訪れたとき、オーストリアでは戦争犯罪容疑で告発されていたために逮捕される。同じころ、ドイツでは、おそらくフランクフルト・アウシュヴィッツ裁判に注目が集まった結果、ディーター・アラースも逮捕されていた。病院の職を失ったバイグルベックは、1963年11月22日に自殺した。58歳だった。彼は全財産を、アラースが運営していたDie Stille Hilfe (サイレント・ヘルプ) という、逃亡したSSメンバーの秘密の援助団体に残した。(Weindling, 309, 315)

第二三章 永遠に残るもの

- p.584 非難するつもりはない: Michel, 98.
- p.585 ルドルフは、戦時中の: Ordway and Sharpe, 70-71, 77-79; Neufeld, *Von Braun*, 471.
彼はのちに: Feigin, 2.
彼の活動: Feigin, 300-342.
- p.588 ルドルフの有力な擁護者の一人: Hunt, 149ページの反対側のページに挿入されている写真。
書類が一枚もない: Neufeld, *The Rocket and the Reich*, 186-87, 227.
まちがいない: 2013年4月3日にマイケル・ノイフェルドに電話で取材。ノイフェルドは、1990年の夏に*The Rocket and the Reich*の調査時に、偶然アルトゥール・ルドルフがミッテルヴェルクの建設前から奴隷労働を強く支持していたことを示す文書をドイツの記録保管所で見つけたことを補足した。1943年4月12日、「ルドルフはハインケル航空機工場を見学し、奴隷労働を使うという考えに興奮してペーネミュンデに戻ってきた」とノイフェルドは語る。その理由は特に、奴隷を使うことによってSSとの協力関係を築き、「秘密をより強化できる」からであったという。
- p.589 二三万九六八〇ドル(二〇一三年の換算で約五〇万ドル)の請求書: ハントの著書*Secret Agenda: United States Government, Nazi Scientists, and Project Paperclip, 1945-1990*に先立って、イギリス人ジャーナリストのトム・バウアーの著書*The Paperclip Conspiracy: The Hunt for the Nazi Scientists*が出版された。バウアーの著書には、アメリカとイギリスの両方の記録保管所から見つけ出した未発表の話が書かれている。どちらの本も、私がペーパークリップ作戦を理解するうえで大いに役立った。彼の名が記載されていた: *New York Times*, "Portrait of Nazi Prompts Protest," October 26, 1993.
- p.591 という主張: Breitman, Goda, Naftali, and Wolfe, 7.
必要はどこにもなかった: Ibid.
- p.592 諮問委員会の委員長: Letter to Congressman Tom Landon from James W. Nance, the White House, Washington, D.C., April 13., 1982 (FOIA)
グリューネンタールは多くのナチの隠れ場所となっていた: Roger Williams and Jonathan Stone, "The Nazis and Thalidomide: The Worst Drug Scandal of all time," *Newsweek*, September 10, 2012.
安心して服用できます: この薬の発売に関する統計データは会社のウェブサイトで閲覧可能。http://www.contergan.grunenthal.info.
- p.593 ナチ時代の書類: Daniel Foggo, "Thalidomide 'Was Created by Nazis,'" *Times* (London), February 8, 2009.
指摘する: 2012年5月15日、6月1日、10月25日に交わされたマーティン・ジョンソン博士との手紙のやりとり。
この専売特許証は: Andrew Levy, "Nazis Developed Thalidomide and Tested It on Concentration Camp Prisoners, Author Claims," *Daily Mail*, February 8, 2009.
一九四三年春に彼が: *Nachrichten aus der Chemie*, May 2006, 514; この新しい情報は、2007年版*Complete Dictionary of Scientific Biography*のリヒャルト・クーンの項目にも含まれている。
- p.594 多くの関係書類が: 私が提出したFOIA申請の拒絶とそれに続く訴えによって、これらの記録は見直しを待っており、公表されるかもしれない。しかし、公表に関する権限は、大統領命令13489により現職大統領が有する(著者注)。
- p.595 アンブロスは一九六七年にアメリカに来ている: Jewish Telegraphic Agency, "Ambros, Convicted Nazi War Criminal, Abandons Plans to Visit U.S.," May 3, 1971.
この発見の驚くべきところは: *Daily Mail*, "Mengele's Food Coupons Found: Bizarre Insight into the Lives of Nazi Death Doctors Unearthed in Auschwitz House," March 23, 2010.
- p.596 「偉大なカリスマ性を持つ企業家」: フリッツ・バウアー研究所のヴォルハイム・メモリアルにて引用。http://www.wollheim-memorial.de/en/home
一面に: Lucette Lagnado, "Space Medicine Group Jousts over Fate of Strughold Prize," *Wall Street Journal*, December 1, 2012.

証拠を偶然見つけた: ハンス=ヴァルター・シュムールに電話で取材。2008年ごろ、シュムールはマックスプランク研究所の記録保管所でナハツハイム博士について調べていたとき、偶然シュトルークホルトの情報を見つけた。この問題については、それ以前にウーテ・イヒマンの*Biologists Under Hitler* (237) で言及されているが、シュムールの情報公表が方針の変更につながったため、本書ではシュムールのエピソードを引用した。

- p.597 インターネットのせいである: 2013年2月4日、3月30日にマーク・キャンパベルに電話と手紙で取材。
「なぜ彼をかばうんだ?」: Lagnado, “Space Medicine Group Jousts.”
- p.598 「単純なことさ、クルト・デーブスは名誉あるアメリカ人だからだ」: 2012年2月8日にスティーブ・グリフィンに電話で取材。
- p.600 リストを機密扱いにして: Office of U.S. Chief of Counsel, APO 124-A. U.S. Army. List of Personnel Involved in Medical Research and Mercy Killings, n.d. (FOIA).
一九九九年、ニューヨーク・タイムズに記載された訃報: Nick Ravo, “Dr. Theodor H. Benzinger, 94, Inventor of the Ear Thermometer,” *New York Times*, October 30, 1999.
- p.601 生涯を通して探究した科学: 2013年2月19日にロルフ・ベンジンガーに電話で取材。
「これは永遠に消えないよ」と彼は言った: 2012年6月2日にカリフォルニア州でゲルハルト・マシュコフスキーに取材。

参考文献

《インタビューおよび書面による取材協力者(2011年~2013年)》

ジョン・ドラボイ: 第三二欧州中央戦争捕虜収容所(別名アッシュキヤン) 戦争捕虜尋問官。陸軍情報部(G-2)。
ヴィヴィエン・スピッツ: ニュルンベルク戦争犯罪裁判、ニュルンベルク医師裁判におけるアメリカの法廷速記者。
ヒュー・イルティス: 連合軍が獲得したナチの文書(ヒムラーの文書、ケースNo. 707—医学実験)の翻訳者。
マイケル・ハワード: プリティッシュ・インテリジェンス・オフィス No.1, T軍。1958年ごろのW・R・グレース社の従業員
イブ・メルキオー: 戦略諜報局(OSS) およびアメリカ陸軍防諜部隊(CIC)のエージェント
ゲルハルト・マシュコフスキー: アウシュヴィッツ強制収容所、IGアウシュヴィッツ、ブナ=モノヴィッツの囚人
ヘルマン・シャイン: アウシュヴィッツ強制収容所、IGアウシュヴィッツ、ブナ=モノヴィッツの囚人
ハンナ・マルクス: シュトゥットホーフ強制収容所の囚人
ウィリアム・ジェファーズ: オーバーウーゼルのルフトヴァッフェ=ドラーグ・ルフトの戦争捕虜、アメリカ陸軍航空軍の航空機関士
レオナルド・クライスラー: キャンプ・デトリック(のちのフォート・デトリック)、サイトR(レイヴン・ロック・マウンテン・コンプレックス)の駐屯地付き医師
ジェイムズ・ケッチャム: エッジウッド陸軍化学センター
ゲッツ・ブローメ: クルト・ブローメの息子
ディルク・クネーマイヤー: ジークフリート・クネーマイヤーの孫息子
ガブリエラ・ホフマン: フリードリヒ・“フリッツ”・ホフマンの娘
ディーター・アンブロス: オットー・アンブロスの息子
ロルフ・ベンジンガー: テオドア・ベンジンガーの息子
パウル=ヘルマン・シーバー: ヴァルター・シーバーの息子
カトリン・ヒムラー: ハインリッヒ・ヒムラーの又姪
エリック・オルソン: フランク・オルソンの息子
ハンス=クラウディウス・シャルフ: ハンス・シャルフの息子
クレアレンス・ラスビー: 作家、歴史家
ヴェルナー・レンツ: フリッツ・パウアー研究所の所長
ハラルト・アイヒンガー: ランツベルク刑務所長
アルベルト・クノル: ダッハウ強制収容所の記録保管所と図書館の責任者
マティアス・コルン: ダッハウ、警察機動隊の隊長

アナ・ナープ：ダッハウ警察の歴史編纂者
 マンフレッド・コップ：オーバーウーゼル、キャンプ・キングの歴史編纂者
 イェンス・ヘルマン：クランスベルク城の管理人
 イェンス・ヴェステマイアー：ポツダム大学の歴史編纂者
 エグモント・コッホ：ジャーナリスト、作家
 ジョー・ヒューストン：アメリカ陸軍情報保全コマンドの民間人貢献者
 マーティン・ジョンソン：イギリスの組織サリドマイド・トラストのリーダー
 マーク・キャンベル：宇宙医学協会の元会長
 スティーヴ・グリフィン：ナショナル・スペース・クラブの会長
 マイケル・J・ノイフェルト：スミソニアン国立航空宇宙博物館宇宙史部門の責任者

《公文書》

米国国立公文書記録管理局（メリーランド州カレッジパーク）

RG 549 Records of United States Army, Europe
 RG 466 Records of the U.S. High Commissioner for Germany
 RG 341 Records of Headquarters U.S. Air Force
 RG 331 Records of Supreme Headquarters Allied Expeditionary Force
 RG 330 JIOA Foreign Scientist Case Files 1945-1958
 RG 319 Records of the Investigative Records Repository Case Files
 RG 319 Army Intelligence and Security Command
 RG 319 Records of the Military Intelligence Division
 RG 263 Records of the Central Intelligence Agency
 RG 238 World War II War Crimes Records (“201 Files”)
 RG 226 Records of the Office of Strategic Services
 RG 218 Records of the U.S. Joint Chiefs of Staff
 RG 165 Records of the War Department General and Special Staffs
 RG 153 Records of the Judge Advocate General (Army)
 RG 65 Records of the Federal Bureau of Investigation
 RG 59 General Records of the Department of State

米陸軍戦史研究所（ペンシルヴァニア州カーライル）

チャールズ・E・ルークス准将の文書
 チャールズ・E・ルークス准将の写真コレクション

米国議会図書館（ワシントンDC）

科学研究開発局の文書
 退役軍人歴史記録プロジェクトの文書

ハーバード・ロースクール図書館（マサチューセッツ州ケンブリッジ）
 レオポルド・アレグザンダー博士の文書
 ハーバード・メディカル・スクール、カウントウェイ医学図書館（マサチューセッツ州ボストン）
 ロバート・J・ベンフォードの文書
 ヘンリー・K・ビーチャーの文書

ライト州立大学図書館特別コレクションおよび記録保管所（オハイオ州デイトン）
 テオドア・ベンジンガーの文書

デューク大学メディカル・センター記録保管所（ノースカロライナ州ダラム）
 レオポルド・アレグザンダー博士の文書

スタンフォード大学フーヴァー研究所（カリフォルニア州パロアルト）
 ボリス・パッシュの文書

インディアナ大学リリー図書館（インディアナ州ブルーミントン）
 シャーリー・トーマスの文書

カリフォルニア州立大学ボラック図書館（カリフォルニア州フラトン）
 ドーラ＝ノルトハウゼン裁判、ウィリアム・アールマンズの文書

カリフォルニア大学サンディエゴ校マンデビル特別コレクション図書館（カリフォルニア州サンディエゴ）
 アメリカ陸軍航空軍航空医学センターの文書

マックスウェル空軍基地空軍歴史研究局（アラバマ州モンゴメリー）
 Air Materiel Command Historical Study No. 214 & No. 215, History of AAF
 Participation in Project Paperclip (Exploitation of German Scientists)

カリフォルニア工科大学記録保管所（カリフォルニア州バサデナ）
 ハワード・P・ロバートソン博士の文書

アラバマ大学M・ルイス・A・サーモン図書館（アラバマ州ハンツビル）
 ジョン・リソン・ジョーンズ・ジュニアの文書

ドイツの公文書館

ドイツ連邦公文書館コブレンツ本館
 ドイツ連邦公文書館ベルリン本館：元ベルリン文書センターの記録
 ドイツ連邦公文書館ベルリン＝リヒターフェルデ支所

ドイツ連邦フライブルグ軍事公文書館
 ドイツ連邦公文書館ルートヴィヒスブルク支所
 バイエレン州立ニュルンベルク公文書館
 ダッハウ強制収容所跡地、記録保管所および図書館
 ドイツ博物館の記録保管所 (ミュンヘン)
 フリッツ・バウアー研究所、ヴォルハイム・メモリアル (フランクフルト)
 旧東ドイツ国家安全保障委員会 (BSTU) の記録

《私文書、書籍、未発表の原稿》

ジークフリート・クネーマイヤー
 クルト・ブローメ
 フリードリヒ・ホフマン
 パウル＝ヘルマン・シーバー

《書籍および研究論文》

Alibek, Ken, with Stephen Handelman. *Biohazard: The Chilling True Story of the Largest Covert Biological Weapons Program in the World— Told from Inside by the Man Who Ran It*. New York: Random House, 2000.

Allen, Michael T. *The Business of Genocide: The SS, Slave Labor, and the Concentration Camps*. Chapel Hill: University of North Carolina Press, 2002.

Andrus, Col. Burton C., with Desmond Zwar. *I Was the Nuremberg Jailer*. New York: Coward-McCann, Inc., 1969.

Bar-Zohar, Michel. *The Hunt for German Scientists*. New York: Avon Books, 1970.

Baumbach, Werner. *The Life and Death of the Luftwaffe: Germany's "Lost Victories" of the Air by the Commander of Bomber Forces*. New York: Ballantine Books, 1972.

Beevor, Antony. *The Fall of Berlin 1945*. New York: Penguin Books, 2002. (『ベルリン陥落1945』アントニー・ビーヴァー、川上 洗訳／白水社)

Benford, Robert J., M.D. *Doctors in the Sky: The Story of the Aero Medical Association*. Springfield, IL: Charles C. Thomas Publisher, 1955.

Blome, Gotz. *Bachflower Therapy: A Scientific Approach to Diagnosis and Treatment*. Rochester, VT: Healing Arts Press, 1999.

Blome, Kurt. *Arzt im Kampf*. Leipzig: Johann Ambrosius Barth, 1942.

Bower, Tom. *The Paperclip Conspiracy: The Hunt for the Nazi Scientists*. Boston: Little, Brown and Company, 1987.

Breitman, Richard, Norman J. W. Goda, Timonhy Naftali, and Robert Wolfe. *U.S. Intelligence and the Nazis*. New York: Cambridge University Press, 2005.

Burrows, William E. *This New Ocean: The Story of the First Space Age*. New York: Modern Library, 1999.

Campbell, Mark R., Stanley R. Mohler, Viktor A. Harsch, and Denise Baisden. "Hubertus Strughold: The 'Father of Space Medicine.'" *Aviation, Space, and Environmental Medicine* 78, no. 7 (July 2007): 716-19.

Chertok, Boris E. *Rockets and People*. Washington, D.C.: NASA History Office, 2005. (『ロケットに魅せられた人々』ボリス・エフセエヴィチ・チェルトク、富田信之、菊次厚子訳／松香堂)

Clifford, Clark. *American Relations with the Soviet Union*. Washington, D.C.: Special Counsel to the President, September 24, 1947.

Cornwell, John. *Hitler's Scientists: Science, War and the Devil's Pact*. New York: Penguin, 2004.

Covert, Norman M. *Cutting Edge: A History of Fort Detrick, Maryland, 1943-1993*. Frederick, Maryland: Headquarters, U.S. Army Garrison, 1994.

Deichmann, Ute. *Biologists Under Hitler*. Translated by Thomas Dunlap. Cambridge, MA: Harvard University Press, 1996.

Diefendorf, Jeffrey M., Axel Frohn, and Hermann-Josef Rupieper. *American Policy and the Reconstruction of West Germany, 1945-1955*. Cambridge: Cambridge University Press, 1994.

Dolibois, John E. *Pattern of Circles: An Ambassador's Story*. Kent, OH: Kent State University Press, 1989.

Dornberger, Walter. *V-2: The Nazi Rocket Weapon*. New York: Ballantine Books, 1954.

Drummer, Heike, and Jutta Zwilling. *Von Der Grunenburg Zum Campus Westend: Die Geschichte des IG Farben-Hauses*. Frankfurt: Prsidium der Johann Wolfgang Goethe-Universitat, 2007.

DuBois Jr., Josiah E. *The Devil's Chemists: 24 Conspirators of the International Farben Cartel Who Manufacture Wars*. Boston: Beacon Press, 1952.

Dwork, Deborah, and Robert Jan van Pelt. *Auschwitz: 1270 to the Present*. New York: W. W. Norton, 1996.

Eckart, Wolfgang U., ed. *Man, Medicine, and the State: The Human Body*

- as an Object of Government-Sponsored Medical Research in the 20th Century. Stuttgart, Germany: Franz Steiner, 2006.
- Evans, Richard J. *The Third Reich at War*. New York: Penguin, 2009.
- Feigin, Judy. *The Office of Special Investigations: Striving for Accountability in the Aftermath of the Holocaust*. Washington, D.C.: Department of Justice Criminal Division, December 1996.
- Ferencz, Benjamin B. *Less Than Slaves: Jewish Forced Labor and the Quest for Compensation*. Bloomington, IN: Indiana University Press, 2002. (『奴隷以下——ドイツ企業の戦後責任』・ベンジャミン・B・フェレンツ、住岡良明、凱風社編集部訳／凱風社)
- Frankenthal, Hans. *The Unwelcome One: Returning Home from Auschwitz*. Evanston, IL: Northwestern University Press, 2002.
- Franklin, Thomas. *An American in Exile: The Story of Arthur Rudolph*. Huntsville, AL: Christopher Kaylor Company, 1987.
- Frei, Norbert. *Adenauer's Germany and the Nazi Past: The Politics of Amnesty and Integration*. Translated by Joel Golb. New York: Columbia University Press, 2002.
- Gehlen, Reinhard. *The Service: The Memoirs of General Reinhard Gehlen*. Translated by David Irving. New York: Popular Library, 1972. (『諜報・工作——ラインハルト・ゲーレン回顧録』ラインハルト・ゲーレン、赤羽竜夫訳／読売新聞社)
- Gimbel, John. *Science, Technology, Reparations: Exploitation and Plunder in Postwar Germany*. Palo Alto, CA: Stanford University Press, 1990.
- Goudsmit, Samuel A. *Alsos*. Los Angeles and San Francisco: Tomash Publishers, 1983. (『ナチと原爆——アルソス：科学情報調査団の報告』サムエル・A・ハウストミット、山崎和夫、小沼通二訳／海鳴社)
- Groehler, Olaf. *Der Lautlose Tod: Einsatz und Entwicklung deutscher Giftgase von 1914 bis 1945*. Hamburg: Rowohlt Taschenbuch Verlag GmbH, 1989.
- Hager, Thomas. *The Alchemy of Air: A Jewish Genius, a Doomed Tycoon, and the Scientific Discovery That Fed the World but Fueled the Rise of Hitler*. New York: Three Rivers Press, 2008.
- . *The Demon Under the Microscope: From Battlefield Hospitals to Nazi Labs, One Doctor's Heroic Search for the World's First Miracle Drug*. New York: Harmony Books, 2006. (『サルファ剤、忘れられた奇跡——世界を変えたナチスの薬と医師ゲルハルト・ドーマクの物語』トーマス・ヘイガー、小林力訳／中央公論新社)
- Halberstam, David. *The Fifties*. New York: Random House, 1993.
- Harris, Robert, and Jeremy Paxman. *A Higher Form of Killing: The Secret History of Chemical and Biological Warfare*. New York: Random House, 2002. (『化学兵器——その恐怖と悲劇』ハリス・ロバート、ジェレミー・パクスマン、大島紘二訳／近代文芸社)
- Heigl, Peter. *Nuremberg Trials*. Amberg: Druckhaus Oberpfalz, 2007.
- Henkel, Matthias, and Hans-Christian Taubrich. *Memorium Nuremberg Trials*. Museen det stadt Nurnberg, 2012.
- Hersh, Seymour M. *Chemical & Biological Warfare: America's Hidden Arsenal*. New York: Anchor Books, 1969.
- Hilberg, Raul. *The Destruction of the European Jews*. New Haven, CT: Yale University Press, 2003. (『ヨーロッパ・ユダヤ人の絶滅』上下 ラウル・ヒルバーク、望田幸男、片山良巳、原田一美、井上茂子、志水真裕美、服部伸訳／柏書房)
- Hitler, Adolf. *Reden und Proklamationen, 1932–1945*. Edited by Max Domarus. Wauconda, IL: Bolchazy-Carducci Publishers, 2003.
- . *Hitler's Second Book: The Unpublished Sequel to Mein Kampf*. Translated by Krista Smith. Edited by Gerhard L. Weinberg. New York: Enigma Books, 2003.
- . *Table Talk, 1941–1944: His Private Conversations*. Translated by Norman Cameron and R. H. Stevens. Edited by H. R. Trevor-Roper. London: Enigma Books, 2000. (『ヒトラーのテーブル・トーク』上下 アドルフ・ヒトラー、吉田八峯訳、三交社)
- Howard, Michael. *Otherwise Occupied: Letters Home from the Ruins of Nazi Germany*. United Kingdom: Old Street Publishing Ltd., 2010.
- Hunt, Linda. *Secret Agenda: The United States Government, Nazi Scientists, and Project Paperclip, 1944–1990*. New York: St. Martin's Press, 1991.
- Huzel, Dieter K. *Peenemunde to Canaveral*. United States: Prentice-Hall, Inc., 1962.
- Irving, David. *The Rise and Fall of the Luftwaffe: The Life of Field Marshal Ernhard Milch*. Focal Point, 2002.
- Isaacson, Walter, and Evan Thomas. *The Wise Men: Six Friends and the World They Made*. New York: Simon & Schuster, 1986.
- Jacobsen, Annie. *Area 51: An Uncensored History of America's Top Secret Military Base*. New York: Little, Brown and Company, 2011. (『エリア51——世界でもっとも有名な秘密基地の真実』アニー・ジェイコブセン、田口俊樹訳／太田出版)
- Jeffreys, Diarmuid. *Hell's Cartel: IG Farben and the Making of Hitler's War Machine*. New York: Metropolitan Books, 2008.
- Karman, Theodore von. *Where We Stand: A Report Prepared for the AAF*

- Scientific Advisory Group*. Dayton, OH: Headquarters, Air Materiel Command, Publications Branch, Intelligence T-2, May 1946.
- Kershaw, Ian. *The End: The Defiance and Destruction of Hitler's Germany, 1944-1945*. New York: Penguin, 2011.
- Kleber, Brooks E., and Dale Birdsell. *The Chemical Warfare Service: Chemicals in Combat*. Washington, D.C.: Center of Military History, United States Army, 1990. The series title was *United States Army in World War II: The Technical Services*.
- Koch, Egmont R., and Michael Wech. *Deckname Artischocke: Die geheimen Menschenversuche der CIA*. Munich: C. Bertelsmann Verlag, 2002.
- Koritz, Thomas F. *USAF Pilot/Physician Program: History, Current Program, and Proposals for the Future*. Brooks Air Force Base, TX: USAF School of Aerospace Medicine, July 1989.
- Krause, Joachim, and Charles K. Mallory. *Chemical Weapons in Soviet Military Doctrine: Military and Historical Experience, 1915-1991*. Boulder, CO: Westview Press, 1992.
- Lasby, Clarence G. *Project Paperclip: German Scientists and the Cold War*. New York: Atheneum, 1971.
- Lebert, Norbert, and Stephan Lebert. *My Father's Keeper: Children of Nazi Leaders — An Intimate History of Damage and Denial*. Translated by Julian Evans. Boston: Little, Brown and Company, 2001.
- Lifton, Robert Jay. *The Nazi Doctors: Medical Killing and the Psychology of Genocide*. New York: Basic Books, 1986.
- Lockwood, Jeffrey A. *Six-Legged Soldiers: Using Insects as Weapons of War*. New York: Oxford University Press, 2009.
- Longden, Sean. *T-Force: The Race for Nazi War Secrets, 1945*. London: Constable & Robinson Ltd., 2009.
- Longerich, Peter. *Heinrich Himmler*. Translated by Jeremy Noakes and Lesley Sharpe. New York: Oxford University Press, 2012.
- Lord, M. G. *Astro Turf: The Private Life of Rocket Science*. New York: Walker & Company, 2006.
- Mackowski, Maura Phillips. *Testing the Limits: Aviation Medicine and the Origins of Manned Space Flight*. College Station: Texas A&M University Press, 2006.
- Marks, John. *The Search for the "Manchurian Candidate": The CIA and Mind Control: The Secret History of the Behavioral Sciences*. New York: W. W. Norton, 1991.
- Mauroni, Albert J. *Chemical and Biological Warfare: A Reference Handbook*. Santa Barbara, CA: ABC-CLIO, 2007.
- McGovern, James. *Crossbow & Overcast*. London: Hutchinson & Co., 1965.
- Melchior, Ib. *Case by Case: A U.S. Army Counterintelligence Agent in World War II*. Novato, CA: Presidio Press, 1993.
- . *Order of Battle: Hitler's Werewolves*. Novato, CA: Presidio Press, 1991.
- Michel, Ernest W. *Promises to Keep: One Man's Journey Against Incredible Odds*. New York: Barricade Books, 1993.
- Michel, Jean, and Louis Nucera. *Dora: The Nazi Concentration Camp Where Modern Space Technology Was Born and 30,000 Prisoners Died*. New York: Holt Rinehart and Winston, 1979.
- Miller, Judith, Stephen Engelberg, and William Broad. *Germ: Biological Weapons and America's Secret War*. New York: Simon & Schuster, 2001.
- Mole, Robert L., and Dale M. Mole. *For God & Country*. New York: Teach Services, Inc., 1998.
- Moreno, Jonathan D. *Undue Risk: Secret State Experiments on Humans*. New York: W. H. Freeman and Company, 1999.
- Nachama, Andreas. *Topography of Terror — Gestapo, SS, and Reich Security Main Office on Wilhelm-and Prinz Albrecht-Strasse*. Berlin: Stiftung Topographie des Terrors, 2010.
- Naimar, Norman M. *The Russians in Germany: A History of the Soviet Zone of Occupation, 1945-1949*. Cambridge, MA: Belknap Press, 1997.
- Nelson, Donald M. *Arsenal of Democracy: The Story of American War Production*. New York: Harcourt, Brace and Company, 1946.
- Neufeld, Michael J. *Creating a Memory of the German Rocket Program for the Cold War*. Washington, D.C.: NASA Special Publications, 2008.
- . *The Rocket and the Reich: Peenemunde and the Coming of the Ballistic Missile Era*. New York: The Free Press, 1995.
- . *Von Braun: Dreamer of Space, Engineer of War*. New York: Alfred A. Knopf, 2007.
- Newell, Homer E., Jr. *Beyond the Atmosphere: Early Years of Space Science*. Washington, D.C.: NASA, 1980.
- O'Donnell, James P. *The Bunker: The History of the Reich Chancellery Group*. Boston: Houghton Mifflin Company, 1978.
- Oleynikov, Pavel V. "German Scientists in the Soviet Atomic Project." *The onproliferation Review* 7, no. 2 (Summer 2000) : 1-30.
- Ordway, Frederick I. III, and Mitchell R. Sharpe. *The Rocket Team*. New York: Thomas Y. Crowell, 1979.
- Overy, Richard. *Interrogations: The Nazi Elite in Allied Hands, 1945*. New York: Penguin, 2002.
- Pash, Boris T. *The Alsos Mission*. New York: Charter Books, 1969.

- Pendas, Devin O. *The Frankfurt Auschwitz Trial, 1963–1965. Genocide, History, and the Limits of the Law*. New York: Cambridge University Press.
- Pogue, Forrest C. *U.S. Army in World War II, European Theatre of Operations, the Supreme Command*. Washington, D.C.: Center of Military History, United States Army, 1954.
- Regis, Ed. *The Biology of Doom: The History of America's Secret Germ Warfare Project*. New York: Henry Holt and Company, 1999. (『悪魔の生物学—日米英・秘密生物兵器計画の真実』エド・レジス、柴田京子訳／河出書房新社)
- Ryan, Allan A. Jr. *Quiet Neighbors: Prosecuting Nazi War Criminals in America*. San Diego: Harcourt Brace Jovanovich, 1984.
- Samuel, Wolfgang W. E. *American Raiders: The Race to Capture the Luftwaffe's Secrets*. Jackson: University Press of Mississippi, 2004.
- Sasuly, Richard. *IG Farben*. New York: Boni & Gaer, 1947.
- Sayer, Ian, and Douglas Botting, with the *London Sunday Times*. *Nazi Gold: The Biggest Robbery in History*. New York: Grove Press, 1986.
- . *The Untold Story of the Counter Intelligence Corps, America's Secret Army*. New York: Franklin Watts, 1989.
- Scalia, Joseph M. *Germany's Last Mission to Japan: The Failed Voyage of U-234*. Annapolis, MD: Naval Institute Press, 2000.
- Schmaltz, Florian. *The Death Toll at the Buna/Monowitz Concentration Camp*. Frankfurt am Main: J. W. Goethe-Universität, 2010.
- Schmidt, Amy, and Gudrun Loehrer. *The Mauthausen Concentration Camp Complex: World War II and Postwar Records*. Washington, D.C.: National Archives and Records Administration, 2008.
- Schmidt, Ulf. *Justice at Nuremberg: Leo Alexander and the Nazi Doctors' Trial*. New York: Palgrave Macmillan, 2004.
- . *Karl Brandt: The Nazi Doctor: Medicine and Power in the Third Reich*. London: Hambledon Continuum, 2007.
- Schwartz, Thomas A. *America's Germany: John J. McCloy and the Federal Republic of Germany*. Cambridge, MA: Harvard University Press, 1991.
- Sereny, Gitta. *Albert Speer: His Battle with Truth*. New York: Alfred A. Knopf, 1995.
- Shirer, William L. *End of a Berlin Diary*. New York: Alfred A. Knopf, 1947.
- . *The Rise and Fall of the Third Reich*. New York: Simon & Schuster, 1960. (『第三帝国の興亡』1-5 ウィリアム・L・シャイラー、松浦 伶訳／東京創元社)
- Simpson, Christopher. *Blowback: The First Full Account of America's Recruitment of Nazis and Its Disastrous Effects on Our Domestic and Foreign Policy*. New York: Weidenfeld & Nicolson, 1998. (『冷戦に憑かれた亡者たち——ナチとアメリカ情報機関』クリストファー・シンプソン、松尾式之訳／時事通信)
- Smith, Bradley F. *Adolf Hitler: His Family, Childhood, and Youth*. Palo Alto, CA: Hoover Institution Press/Stanford University, 1986.
- Smith, Marcus J. *Dachau: The Harrowing of Hell*. Albany, NY: State University of New York Press, 1995.
- Speer, Albert. *Inside the Third Reich: Memoirs*. Translated by Richard Winston and Clara Winston. New York: Galahad Books, 1995. (『第三帝国の神殿にて——ナチス軍需相の証言』上下 アルベルト・シュペーア、品田豊治訳／中央公論新社)
- . *Spandau: The Secret Diaries*. Translated by Richard Winston and Clara Winston. New York: Macmillan, 1976.
- Stafford, Peter. *Psychedelics Encyclopedia*. Berkeley, CA: Ronin Publishing, 1993.
- Strughold, Hubertus. *Your Body Clock*. New York: Charles Scribner's Sons, 1971.
- Swift, Shayla. *Lost Lessons: American Media Depictions of the Frankfurt Auschwitz Trials 1963–1965*. Lincoln: DigitalCommons@University of Nebraska, April 8, 2006.
- Taylor, Telford. *The Anatomy of the Nuremberg Trials: A Personal Memoir*. New York: Little, Brown and Company, 1992.
- . *Nuremberg and Vietnam: An American Tragedy*. New York: Bantam Books, 1971.
- . *Final Report to the Secretary of the Army on the Nuernberg War Crimes Trials Under Control Council Law No. 10*. Washington, D.C.: U.S. Printing Office, August 15, 1949.
- Thomas, Shirley. *Men of Space, Volume 7: Profiles of the Leaders in Space Research, Development, and Exploration*. Philadelphia: Chilton Books, 1965.
- Thompson, Nicholas. *The Hawk and the Dove: Paul Nitze, George Keenan, and the History of the Cold War*. New York: Henry Holt and Company, 2009.
- Thomson, Ian. *Primo Levi: A Life*. New York: Metropolitan Books, 2002.
- Toliver, Raymond F. *The Interrogator: The Story of Hanns Joachim Scharff-Master Interrogator of the Luftwaffe*. Atglen, PA: Schiffer Military History, 1997.
- Tucker, Jonathan B. *War of Nerves: Chemical Warfare from World War I to*

- Al-Qaeda*. New York: Pantheon, 2006. (『神経ガス戦争の世界史——第一次世界大戦からアル＝カーイダまで』ジョナサン・B・タッカー、内山常雄／みすず書房)
- Urban, Markus. *The Nuremberg Trials: A Short Guide*. Translated by John Jenkins. Nuremberg: Geschichte für Alle e.V. – Institut für Regionalgeschichte, 2012.
- Van Der Vat, Dan. *The Good Nazi: The Life and Lies of Albert Speer*. New York: Houghton Mifflin Company, 1997.
- Wagner, Jens-Christian. *Produktion Des Todes: Das Kz Mittelbau-Dora*. Göttingen: Wallstein, 2001.
- Wegener, Peter P. *The Peenemünde Wind Tunnels: A Memoir*. New Haven, CT: Yale University Press, 1996.
- Weichert, Klaus. *100 Jahre JVA Landsberg am Lech: Ein Chronik über 100 Jahre*. Nuremberg, Germany: 2008.
- Weindling, Paul Julian. *Nazi Medicine and the Nuremberg Trials: From Medical War Crimes to Informed Consent*. New York: Palgrave Macmillan, 2004.
- Weiner, Tim. *Legacy of Ashes: The History of the CIA*. New York: Anchor Books, 2008. (『CIA秘録——その誕生から今日まで』上下 ティム・ワイナー、藤田博司、山田侑平、佐藤信行訳／文芸春秋)
- Weinreich, Max. *Hitler's Professors: The Part of Scholarship in Germany's Crimes Against the Jewish People*. New Haven, CT: Yale University Press, 1999. (Originally published in 1946 by the Yiddish Scientific Institute, with a new introduction by Martin Gilbert.)
- Welsome, Eileen. *The Plutonium Files: America's Secret Medical Experiments in the Cold War*. New York: Dial Press, 1999. (『プルトニウムファイル——いま明かされる放射能人体実験の全貌』アイリーン・ウェルサム、渡辺正訳／翔泳社)
- Wheelis, Mark, Lajos Rozsa, and Malcolm Dando, eds. *Deadly Cultures: Biological Weapons Since 1945*. Cambridge, MA: Harvard University Press, 2006.
- Wiesenthal, Simon. *The Sunflower: On the Possibilities and Limits of Forgiveness*. New York: Schocken Books, 1970. (『ひまわり——ユダヤ人にホロコーストは赦せるか』ジーモン・ヴァーゼンタール、松宮克昌訳／原書房)
- Winterbotham, F. W. *The Nazi Connection: The True Story of a Top-Level British Agent in Pre-War Nazi Germany*. London: Granada, 1978.
- York, Herbert F. *Arms and the Physicist*. Woodbury, NY: American Institute of Physics Press, 1995.

《政府文書》

- Aalders, Gerard. *Operation Safehaven*. Amsterdam: Netherlands Institute for War Documentation, 1996.
- Aalmans, William J. *A Booklet with a Brief History of the "Dora"-Nordhausen Labor Concentration Camps and Information on the Nordhausen War Crimes Case of the United States of America Versus Arthur Kurt Andrae et al.: Trial Commenced at Camp Dachau, Germany, August 7, 1947*. [Germany]: Prosecution Staff, 1947.
- "Agent Orange" Product Liability Litigation, United States Court of Appeals for the Second Circuit, Brief for Defendants-Appellees on the Government Contractor Defense, No. 05-1760-CV: New York, n.d.
- "The Air Force and the Worldwide Military Command and Control System." Montgomery, AL: USAF Historical Division, Liaison Office.
- "An Air Force History of Space Activities, 1945-1959." United States Air Force Historical Division, Liaison Office, August 1964.
- Alexander, Leo. "German Military Neuropsychiatry and Neurosurgery." CIOS Item 24, August 2, 1945.
- . "Miscellaneous Aviation Medical Matters." CIOS Item 24, File no. XXIX-21, n.d.
- . "Neuropathology and Neurophysiology, Including Electroencephalography, in Wartime Germany." CIOS Item 24, File no. XXVII-1, n.d.
- . "The Treatment of Shock from Prolonged Exposure to Cold, Especially in Water." CIOS Report 24/CIOS Target No. 24 Medical, File no. XXVI-37, n.d.
- Anderson, Arthur O. *Biowarfare to Biodefense: Operation Whitecoat & USAMRIID History*. U.S. Army Medical Research Institute of Infectious Diseases Office of Human Use and Ethics, 2011.
- Andrews, A. H. "The Aviation Medicine Organization of the Luftwaffe." CIOS Target Number 24/36, File No. XXIII-10, May 1945.
- Armed Services Technical Information Agency. AD 20374. Dayton, OH: Document Service Center, February 4, 2009.
- Army Air Forces Aero Medical Center. "Report from Heidelberg: The Story of the Army Air Forces Aero Medical Center in Germany, 1945-1947."
- "Aviation Medicine: From the Aeronauts to the Eve of the Astronauts." Bethesda, MD: National Library of Medicine, February 1979.
- Benford, Robert J. "Report from Heidelberg: The Story of the Army Air Forces Aero Medical Center in Germany, 1945-1947." Unpublished.

- Brophy, Leo P., with Wyndham D. Miles and Rexmond C. Cochrane. *The Chemical Warfare Service: From Laboratory to Field*. U.S. Center of Military History Publication 10-2. Washington, D.C.: U.S. Government Printing Office, 1959.
- Central Intelligence Agency. "50 Years of Supporting Operations." Office of Technical Services, March 7, 2007.
- . Participation in Planning of Department of Defense Experiments, Advisory Committee on Human Radiation Experiments, September 1, 1994.
- Central Registry of War Criminals and Security Suspects, Consolidated Wanted Lists, Part 1, Part 2, Supplementary Wanted List No. 2, CROWCASS Allied Control Authority, APO 742, U.S. Army. September 1947.
- Cole, Ronald H., with Walter S. Poole, James F. Schnabel, Robert J. Watson, and Willard J. Webb. *The History of the Unified Command Plan, 1946-1993*. Washington, D.C.: Office of the Chairman of the Joint Chiefs of Staff, 1995.
- Committee on Human Resources. Biological Testing Involving Human Subjects by the Department of Defense, 1977. Washington, D.C.: U.S. Government Printing Office, 1977.
- Committee on Toxicology, National Research Council. "Review of Acute Human-Toxicity Estimates for Selected Chemical-Warfare Agents." Washington, D.C.: National Academies Press, 1997.
- "Counter Intelligence Corps History and Mission in World War II." The Counter Intelligence Corps School. Baltimore, MD: Counter Intelligence Corps Center.
- Cromartie, William J., and Carl Henze. "Medical Targets in the Strasbourg Area." CIOS Black List Item 24 Medical, File no. XIII-8, XXX-9, and XIV-3, n.d.
- Dean, Jay B. *Aviator vs. the Environment: Aeromedical Research and the Physiology of High-Altitude Flight During WWII*. Dayton OH: Wright State University School of Medicine, n.d.
- Dempsey, Charles A. *Fifty Years of Research on Man in Flight*. Air Force Aerospace Medical Research Lab, Wright-Patterson AFB, OH: U.S. Air Force, 1985.
- Department of Commerce. Classified List of OTS Printed Reports. Washington, D.C.: Office of Technical Services Reports Division, October 1947.
- Dick, Steven J., ed. *Remembering the Space Age*. Washington, D.C.: National Aeronautics and Space Administration Office of External Relations, History Division, 2008.
- Dornberger, Walter. *Centralized vs. Decentralized Development of Guided Missiles*. Fort Bliss, TX: Ordnance Department U.S.A., 1948.
- Dowden, H. J. "Examination of Dr. Ing. [Engineering] W. Osenberg and Documents." CIOS Target No. 28, File no. XXXI-49, June 25th-July 2nd, 1945.
- "Elimination of German Resources for War." Hearings Before a Subcommittee of the Committee on Military Affairs, Volumes 10-11. Washington, D.C.: U.S. Government Printing Office, April 1946.
- Feigin, Judy. *The Office of Special Investigations: Striving for Accountability in the Aftermath of the Holocaust*, Department of Justice, Criminal Division. New York, December 2006.
- Greene, Wilson L. *Psychochemical Warfare: A New Concept of War*. Army Chemical Center, August 1949.
- Harbert, John, and Gil Whittemore. "Advisory Committee on Human Radiation Experiments, Interview with Colonel John Pickering." Transcript. Albuquerque, NM, November 2, 1994.
- Helms, Richard. History Staff, Center for the Study of Intelligence, Central Intelligence Agency, Vol. 44, No. 4; Adapted from an interview with Helms taped by David Frost in Washington, D.C., May 22-23, 1978.
- Hilmas, Corey J., Jeffery K. Smart, and Benjamin A. Hill, "History of Chemical Warfare." In *Medical Aspects of Chemical Warfare*, edited by Martha K. Lenhart. Washington, D.C.: Borden Institute/U.S. Government Printing Office, 2008.
- Housen, Roger T. "Why Did the U.S. Want to Kill Prime Minister Lumumba of the Congo?" Washington, D.C.: National War College, 2002.
- Hylton, A. R. *The History of Chemical Warfare Plants in the United States*. Kansas City: Midwest Research Institute, U.S. Arms Control and Disarmament Agency, 1972.
- Intelligence Throughout History: U.S. Intelligence and the German Invasion of the Soviet Union, Studies in Intelligence, CIA Story Archive, 2011.
- Joint Hearing before the Select Committee on Intelligence and the Subcommittee on Health and Scientific Research of the Committee on Human Resources, United States Senate, Ninety-Fifth Congress, First Session, August 3, 1977. "Project MK Ultra, the CIA's Program of Research in Behavioral Modification." Washington, D.C.: U.S. Government Printing Office, 1977.
- Kent, Sherman. *Sherman Kent and the Board of National Estimates:*

- Collected Essays*. Washington, D.C.: History Staff, Center for the Study of Intelligence, Central Intelligence Agency, 1994.
- Keogh, James, and Tom Betsy. *Assessment of the Continuing Operability of Chemical Agent Disposal Facilities and Equipment*. Committee on Continuing Operability of Chemical Agent Disposal Facilities and Equipment, National Research Council. Washington D.C.: National Academies Press, March 16, 2007.
- "The Last Days of Ernst Kaltenbrunner: Personal Recollections of the Capture and Show Trial of an Intelligence Chief." Washington, D.C.: Central Intelligence Agency, September 22, 1993.
- Lovelace, W. R. "Research in Aviation Medicine for the German Air Force." CIOS Item Number 24 Medical, File no. XXVI-56, n.d.
- Nazi War Crimes & Japanese Imperial Government Records Interagency Working Group: Final Report to the United States Congress*. Washington, D.C.: National Archives, April 2007.
- Office of the Chief, Chemical Corps. "Classification of Quick-Acting, Non-persistent Agent, GB, as a Substitute Standard Type." Edgewood, MD: Army Chemical Center, 1948.
- O'Mara, John. "Long-Range Policy on German Scientific and Technological Research, AIF." CIOS XXXII-66, May 16, 1945.
- "Paperclip, Part I." *Office of Naval Intelligence Review*, February 1949.
- Pash, Boris T. "Code Name: Alsos Mission, Scientific Intelligence Mission, A Photographic History of the Alsos Mission, 11 May 1944-15 November 1945."
- Peyton, G. *Fifty Years of Aerospace Medicine*. AFSC Historical Publication Series No. 67-180, Bethesda, Maryland, 1968.
- "Report to the Secretary of War by Mr. George W. Merck, Special Consultant for Biological Warfare." Washington, D.C.: January 1946.
- Ruffner, Kevin C. "Forging an Intelligence Partnership: CIA and the Origins of the BND, 1945-1949." A Documentary History, Vol. 1. CIA History Staff, Center for the Study of Intelligence, European Division, 1999 (declassified 2002 per Nazi War Crimes Disclosure Act) .
- Savage, Charles. *Lysergic Acid Diethyl Amide (LSD-25) : A Clinical-Psychological Study*. Naval Medical Research Institute. Bethesda, MD: National Naval Medical Center, September 9, 1951.
- Schreiber, Walter Paul, M.D. Affidavit of January 23, 1952, recorded by Dolly C. Buechel, Notary Public, Bexar County, Texas.
- Simon, Leslie M. "Special Mission on Captured German Scientific Establishment: Artillery and Weapons, Rockets and Rocket Fuels, Guided Missiles, Aircraft Instruments and Equipment." CIOS Items 2, 4, 6, 25 & 27, File no. XXX-71, June 1, 1945.
- Technical Report No. 331-45. "German Aviation Medical Research at the Dachau Concentration Camp." October 1945. U.S. Naval Technical Mission in Europe.
- Tilley, Edmund. "Report on the Finding of Evidence of Hermann Schmitz's Connection with and Knowledge of the Auschwitz Concentration Camp," April 11, 1947. Archive of the Fritz Bauer Institute.
- Tilley, Edmund, and J. M. Whitten. "Interrogation of German Scientific Personnel I.G. Farbenindustrie A.G., Ludwigshafen, March 25-31, 1945." CIOS Item No. 30, File no. XXV-49, April 10, 1945.
- United States Army. Army Intelligence & Security Command. On the Trail of Military Intelligence History: A Guide to the Washington, D.C., Area. Washington, D.C.: U.S. Army Intelligence and Security Command History Office, n.d.
- United States of America v. Karl Brandt et al.*, Case No. 1 (The Medical Case) . Vols. 1 and 2. Washington, D.C.: U.S. Government Printing Office, 1946-June 1948.
- U.S. Department of the Army. "Soviet Research and Development Capabilities for New Toxic Agents." Intelligence Staff Study, Project No. A-1735. Washington, D.C.: Office of the Assistant Chief of Staff for Intelligence, July 28, 1958.
- Weber, Karl H. "The Directorate of Science and Technology, Historical Series, Top Secret, The Office of Scientific Intelligence, 1949-1968, Volume II, Annexes IV, V, VI and VII." OSI-1, June 1972. FOIA/Declassified 2008.
- Weir, Francis W., Dale W. Bath, and Maurice H. Weeks. "Short Term Inhalation Exposures of Rodents to Pentaborane-9," ASD Technical Report 61-663, Chemical Research and Development Laboratories, Army Chemical Center. Bethesda, MD, December 1961.
- Westphal, Otto. *Research on the Production and Immunological Examination of Artificial Antigens Containing Known Sugars (or Oligosaccharides) as the Determinant Groups, in Relation to the Immuno Chemical Analysis of Enterobacterial O-Antigens (Endotoxins)* . Frankfurt am Main: Wander Forschungsinstitut, November 30, 1962.
- Winfield, R. H. "Preliminary Report of Points of Interest in Aviation Medicine and Physiology in Belgium and France." CIOS Black List Item 24 Medical, File no. XIII-10, January 8, 1945.
- Ziemke, Earl F. *The U.S. Army in the Occupation of Germany, 1944-*

1946. Center of Military History, United States Army. Washington, D.C.: U.S. Government Printing Office, 1990.

《マイクロフィルム》

Records of the United States Nuremberg War Crimes Trials: *United States of America v. Carl Krauch et al.* (Case VI) . Washington, D.C.: National Archives Microfilm Publications, 1977.

Records of the United States Nuremberg War Crimes Trials: United States Army Investigation and Trials Records of War Criminals: *United States of America v. Kurt Andrae et al.* (and Related Cases) April 27, 1945–June 11, 1985. Washington, D.C.: National Archives Trust Fund Board National Archives and Record Services, 1981.

《記事》

Allen, Charles Jr. “Hubertus Strughold, Nazi in U.S.” *Jewish Currents*, September 28, 1974.

“Ambros, Convicted Nazi War Criminal, Abandons Plans to Visit U.S.” *Jewish Telegraphic Agency*, May 3, 1971.

Bach, Julian Jr. “Himmler the Scientist.” *Saturday Review*, August 9, 1958.

Beasley, Norman. “The Capture of the German Rocket Secrets Military Intelligence: Its Heroes and Legends.” *American Legion Magazine*, October 1963.

Blumenthal, Ralph. “Drive on Nazi Suspects a Year Later: No U.S. Legal Steps Have Been Taken.” *New York Times*, November 23, 1974.

Boeri, David. “Looking Out: Nazis on the Harbor.” *WBUR*, August 19, 2010.

Campbell, Mark R., et al. “The Controversy of Hubertus Strughold during World War II.” <http://www.spacemedicineassociation.org/strughold.htm>.

—. “Hubertus Strughold: ‘The Father of Space Medicine.’ ” *Aviation Space Environmental Medicine*, <http://www.spacemedicineassociation.org/strughold.htm>.

Conason, Joe, with Martin A. Rosenblatt. “The Corporate State of Grace: Reagan’s Friends Tries to Bury the Past.” *Village Voice*, April 12, 1983.

Central Intelligence Agency. “The Last Days of Ernst Kaltenbrunner: Personal Recollections of the Capture and Show Trial of an Intelligence Chief.” September 22, 1993.

Crowther, Bosley. “About von Braun: *I Aim at the Stars* Opens at the Forum.” *New York Times*, October 20, 1960.

Day, Matthew. “SS Documents Discovered Near Auschwitz.” *Telegraph*, March 23, 2010

Eliot, George F. “Our Armed Forces: Merger or Coordination?” *Foreign Affairs*, January 1946.

Epstein, Edward J. “The Spy Wars.” *New York Times Magazine*, September 28, 1980.

Foggo, Daniel. “Thalidomide ‘Was Created by the Nazis.’” *Sunday Times*, February 8, 2009.

“Foreign Relations of the United States, 1950–1955: The Intelligence Community, Document 244.” U.S. Department of State Office of the Historian, December 1955.

Gapay, Les. “The Holocaust and the Sins of the Father.” *Los Angeles Times*, May 6, 2012.

Hunt, Linda. “U.S. Coverup of Nazi Scientists.” *Bulletin of the Atomic Scientists* 41, no. 4 (April 1985) .

Lagnado, Lucette. “Space Medicine Group Jousts over Fate of Strughold Prize.” *Wall Street Journal*, December 1, 2012.

Lang, Daniel. “A Romantic Urge.” *The New Yorker*, April 21, 1951.

Marlow, James. “60 Million Jobs. Late Henry Wallace’s Dream Comes True.” *Associated Press*, April 6, 1966.

McBee, Susan. “Interviewing an Accused Spy.” *Life*, July 22, 1966.

McCoy, Alfred W. “Science in Dachau’s Shadow: HEBB, Beecher, and the Development of CIA Psychological Torture and Modern Medical Ethics.” *Journal of the History of the Behavioral Sciences* 43, no. 4 (Fall 2007) : 401–17.

Middleton, Drew. “7 Nazis Executed for War Murders.” *New York Times*, June 7, 1951.

“Nazi Brains Help U.S.” *Life*, December 9, 1946.

“Nazi Doctors to Be Tried Next.” *Stars and Stripes*, October 12, 1946.

“Nazi Escape Plan Revealed to Fly Leaders to Greenland.” *Scotsman*, December 28, 2003.

New York Times. “Cured in U.S. of Her Ills, Left as Nazi Guinea Pig.” March 7, 1952.

O’Donnell, James P. “The Devil’s Architect.” *New York Times Magazine*, October 26, 1969.

Pearson, Drew. “Air Force Hires Nazi Doctor Linked to Ghastly Experiments.” *Associated Press*, February 14, 1952.

- Ravo, Nick. "Dr. Theodor H. Benzinger, 94, Inventor of the Ear Thermometer," Obituary. *New York Times*, October 30, 1999.
- Reichhardt, Tony. "First Up? Even Before NASA Was Created, Civilian and Military Labs Were in Search of Spacemen." *Air & Space*, September 2000.
- Reuters. "Factbox: Five Facts about Russian Military Intelligence." April 24, 2009.
- Roosevelt, Eleanor. My Day. United Feature Syndicate, December 14, 1949.
- Rule, Andrew. "Thalidomide, A Wreckage of Innocent Lives." *Daily Telegraph*, June 27, 2011.
- Ryan, Cornelius. "G-Gas: A New Weapon of Chilling Terror. We Have It – So Does Russia." *Collier's*, November 1953.
- Schmidt, Dana Adams. "Germans on Trial in 'Science Crimes.'" *New York Times*, December 10, 1946.
- Shane, Scott. "C.I.A. Knew Where Eichmann Was Hiding, Documents Show." *New York Times*, June 7, 2006.
- . "Md. Experts' Key Lessons on Anthrax Go Untapped." *Baltimore Sun*, November 4, 2001.
- Shaw, Herbert. "Wright Field Reveals 'Operation Paperclip.'" *Dayton Daily News*, December 4, 1946.
- Shevell, Michael I. "Neurosciences in the Third Reich: From Ivory Tower to Death Camps." *Canadian Journal of Neurological Sciences* 26, no. 2 (May 1999) : 75–76.
- Siegel, Barry. "Can Evil Beget Good? Nazi Data: A Dilemma for Science." *Los Angeles Times*, October 30, 1988.
- Silver, Arnold M. "Questions, Questions, Questions: Memories of Oberursel." *Intelligence and National Security* 8, no. 2 (April 1993) : 202–6.
- Stoll, Werner A. "Lysergsaure-diethylamid: Ein Phantastikum aus der Mutterkorngruppe." *Schweizer Archiv für Neurologie und Psychiatrie* 60 (1947) .
- . "Psychische Wirkung eines Mutterkornstoffes in Ungeewöhnlich Schwacher Dosierung." *Schweizer medizinische Wochenschrift* 79, no. 5 (1949) .
- Tucker, Jonathan B. "Farewell to Germs: The U.S. Renunciation of Biological and Toxin Warfare, 1969, 1970." *International Security* 27, no. 1 (Summer 2002) : 107–48.
- U.S. News & World Report*. "What's Happening in the Race to the Moon?" June 1, 1964.
- Walker, Lester C. "Secrets by the Thousands." *Harper's*, October 1946.

Weeks, Maurice, and Paul Yevich. *American Industrial Hygiene Association Journal* 24, no. 6 (1963) : 622–29. Declassified December 27, 2007.

《口述歴史》

- Major General Charles E. Loucks, U.S.A., Retired, Oral History Interview by Morris C. Johnson. Senior Office Oral History Program, U.S. Army, 1984.
- Major General Harry G. Armstrong, Retired, Oral History Interview by J. Bullard and T. C. Glasgow. U.S. Air Force Oral History Program, 1976.
- Hubertus Strughold, Oral History Interview with James C. Hasdorff. Office of the Air Force History. San Antonio, TX. November 25, 1974.
- Hubertus Strughold, Oral History Interview by Ingrid Kuehne Kokinda. Institute of Texan Cultures Oral History Collection, University of Texas at San Antonio, 1982.
- Paul A. Campbell, Oral History Interview by Frances Kallison. Institute of Texan Cultures Oral History Collection, University of Texas, 1977.
- Robert C. Haney, Oral History Interview by Charles Stuart Kennedy. The Association for Diplomatic Studies and Training Foreign Affairs Oral History Project, September 21, 2001.
- Kurt H. Debus, Oral History Interview with Walter D. Sohler and Eugene M. Emme. John F. Kennedy Presidential Library and Museum. March 31, 1964.
- Wernher von Braun, Interview with Robert Sherrod, NASA, August 25, 1970.
- Wernher von Braun, Interview from an unnamed film (discusses the Mittelwerk) , Linda Hunt donation to the United States Holocaust Memorial Museum, February 2003.

《オンライン・データ》

- Central Intelligence Agency, Freedom of Information Act Electronic Reading Room.
- Nuremberg Trials Project, A Digital Document Collection. Harvard Law School Library, Harvard University.
- Library of Congress: Trial of the Major War Criminals before the International Military Tribunal, Nuremberg, November 14, 1945–October

1, 1946.

The National Archives, Kew, Richmond, Surrey.

T-Force and Field Information Agency, Technical Archiv und Bibliothek,
Fritz Bauer Institut, Frankfurt am Main.

The Avalon Project, Lillian Golden Law Library, Yale Law School, New
Haven, CT. Nuremberg Trial Proceedings, Vol. 7, 2008.

Time & Life Pictures Collection, Getty Images.

United States Holocaust Memorial Museum, Washington, D.C.: *Holocaust
Encyclopedia; Photo Archives; Encyclopedia of Camps and Ghettos,
1933–1945.*

The Wollheim Memorial, Fritz Bauer Institute, Frankfurt, Germany.